



# 『あいさつ表現儀礼の全国地図』 の完成及び国際交流

【課題番号 11610435】

平成11年度～平成14年度 科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）

## 研究成果報告書

平成15年3月

研究代表者 **江 端 義 夫**

広島大学図書

（広島大学大学院教育学研究科教授）

0130484523





## 研究組織

研究代表者： 江 端 義 夫 (広島大学大学院教育学研究科 教授)

## 交付決定額(配分額)

(金額単位:千円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 11 年度	800	0	800
平成 12 年度	500	0	500
平成 13 年度	500	0	500
平成 14 年度	500	0	500
総計	2300	0	2300

## 研究発表

## (1)学会誌など

- 江端義夫 「「ジャン」の現代史」  
『木坂基先生退官記念論文集 日本語表現法論攷』平成 11 年 2 月 11 日
- 江端義夫 「方言辞典のよりよい内容を求めて」  
『山形方言』第 31 号 平成 11 年 3 月 31 日
- 江端義夫 「日本語方言における語アクセント「紅葉」の現代史」  
『国語教育研究』第 21 号 平成 11 年 6 月 30 日
- 江端義夫 "A New Interpretation of Dialect Atlas Data of Two Age Groups in Japan"  
Journal of the International Society for Dialectology and Geolinguistics  
平成 11 年 7 月
- 江端義夫 「あいさつ交換儀礼の研究」  
『日本語学』第 18 卷 13 号 平成 11 年 11 月 18 日
- 江端義夫 「方言類語辞典の方法—愛知県地方語を例にして—」  
『方言語彙論の方法』平成 12 年 3 月 31 日
- 江端義夫 「最近の方言研究の動向を顧みて」  
『広島民俗』第 54 号 平成 12 年 8 月 31 日

- 江端義夫 「香川県仲多度郡多度津町方言の副助詞」  
『方言資料叢刊』第8号 平成12年11月15日
- 江端義夫 「比較方言学の方法に馴染まない「つるべ」のアクセント地図に関する社会方言地理学的解釈」  
『広島大学教育学部紀要』第Ⅱ部第49号 平成13年2月28日
- 江端義夫 "A Geolinguistic Study on the Greeting Expressions and Behavior in Japan"  
『社会言語科学』第3巻2号 平成13年3月30日
- 江端義夫 「柴田博士のコメントに対する回答」  
『社会言語科学』第4巻1号 平成13年1月9日
- 江端義夫 「日本の社会地理言語学のために」  
『山形方言』第33号 平成13年3月31日
- 江端義夫 「方言の係助詞「ゾ」と終助詞「ゾ」との関連分布についての研究」  
『広島大学大学院教育学研究科紀要』第Ⅱ部50号 平成14年2月28日
- 江端義夫 「方言文明史観」  
『国語教育研究』第45号 平成14年3月31日
- 江端義夫 「談話・言語行動の方言地理学」  
『方言地理学の課題』平成14年5月20日
- 江端義夫 「人間不在の方言学からの脱皮」  
『21世紀の方言学』平成14年6月29日
- 江端義夫 「日本語方言における語順間推移の法則」  
『地域語研究論集 山田達也先生喜寿記念論文集』平成14年7月12日

(2) 口頭発表

- 江端義夫 "A Geolinguistic Study on the Greeting Expressions and Behavior in Japan"  
3rd International Congress of Dialectologist and Geolinguists,  
PLENARY SESSION, 平成12年7月28日

(3) 出版物

- 江端義夫 『話し言葉教室へようこそ』  
江端義夫私家版 平成11年7月31日
- 江端義夫 『21世紀教育実践の手引き 言語攻略の話し言葉教育』  
江端義夫私家版 平成12年3月14日
- 江端義夫 『全国あいさつ行動資料』  
江端義夫私家版 平成12年11月30日
- 江端義夫 『言語攻略の音声表現教室』  
江端義夫私家版 平成13年1月14日
- 江端義夫 『言語攻略の国語表現教室』  
江端義夫私家版 平成13年2月28日
- 江端義夫 『朝倉日本語講座⑩方言』  
朝倉書店 平成14年10月20日

# 研 究 報 告

## 目 次

- I. 本研究の目的、研究経過及び本報告書の概要 ..... 1
- II. 家庭内での朝の出会いの挨拶が存するか否かについての方言分布が示唆する住居様式の変化に基づく都市化の問題に関する地理言語学的研究 ..... 3  
--- 原題「日本のあいさつ表現とあいさつ行動の地理言語学的研究」 ---
- III. ポーランドでの第三回方言学者地理言語学者国際会議 ..... 31  
---原題 "A Geolinguistic Study on the Greeting Expressions  
and Behavior in Japan"---
- IV. フィリピンでの方言実地調査に基づき家庭内での朝の挨拶が存するか否か(すなわち、都市化の指標、A Sign of Urbanization の存否)に関する「あいさつ表現とあいさつ行動」儀礼の研究 ..... 59

# I. 本研究の目的、研究経過及び本報告書の概要

## 1. 本研究の目的

本研究の目的は以下の a から h までの 8 つに集約される。

- a. 文表現以上の言語単位を研究対象にした、世界最初の言語地図を目指す。
- b. 音韻・文法・語彙を包括した総合的な言語地図を目指す。
- c. 国民の創造的な発想法を事実として記録した言語地図を目指す。
- d. 全国 500 地点のあいさつコミュニケーション言語地図を目指す。
- e. 「あいさつ行動」を地図に表現して、「あいさつ表現儀礼」の国民的文化を明らかにする。
- f. 年中行事にかんするあいさつをも取り入れて、伝統と文化と習俗との関係を明らかにする。
- g. 地域の民俗・習俗に関する「あいさつ」儀礼を項目にとりいれ、それらの実態を明らかにする。
- h. 資料地図と解釈地図との調和を考えた言語地図を目指す。

以上の目的のもとに、全国あいさつ表現儀礼研究を推進している。

## 2. 研究経過

本研究プロジェクトは 4 年計画で進められた。

(1) 平成 11 年度-----この年度は、引き続き、全国規模での依頼通信調査を実施した。地方の識者に実地調査を依頼し、被調査者の自宅を訪ねて方言調査を実施していただく形式であり、先に私が実地調査を行ったものに準ずる質の資料が得られたと考えている。地方の識者が届けてくださった資料と私の実地調査資料を合計すると、年度末で 400 地点になった。予定した 500 地点に限りなく近づいた。

(2) 平成 12 年度-----三度目の全国通信依頼調査を実施した。地方の識者に実地調査を依頼し、適切な被調査者からあいさつ行動を書き取る重労働をお願いした。やっこのことで、500 地点を超えた。至難の苦勞を伴ったが、成功したと思っている。

7 月 24 日から 7 月 29 日まで、ポーランドのマリー・キュリー大学で開催された第三回方言学者地理言語学者国際会議で、招待講演をさせていただくことになった。題目は以下の通りである。

**"Geolinguistic Study on the Greeting Expressions and Behavior in Japan"**

上の招待講演原稿を、プロシーディングに掲載することを求められた。しかし、丁重に辞退させていただき、日本の社会言語学会の機関誌に投稿することになった。

(3) 平成 13 年度-----本研究を発表するための基礎図を三種類、ロットリングし、印刷した。たとえば白地図、A2、A3 の白地図などを印刷した。国際レベルの解釈に備えて、欧州で刊行された高価な最新の大型言語地図を購入した。

(4)平成 14 年度-----新聞紙の大きさの A1 版白地図を追加印刷した。コンピュータ言語地図化に向けて、実験的な作業を開始した。他方で、先にポーランドにおいて発表した研究内容を発展的に検証するために、フィリピンでの方言調査を計画し、実行した。

### 3. 本報告書の概要

(1) 第一部 家庭内での朝の出会いの挨拶が存するか否かについての方言分布が示唆する居住様式の変化に基づく都市化の問題に関する地理言語学的研究

---原題「日本のあいさつ表現とあいさつ行動の地理言語学的研究」---

本稿を英文に翻訳した原稿が、ポーランドで発表された。それが、日本の社会言語学会の機関誌『社会言語科学』Vol.3-2 に掲載された。しかし、当然のこととは言えども、国際会議で発表された言語地図や資料が大幅に削除されたり、枚数制限もあつたりして、意を尽くせなかった。しかも都市化に的を絞る必要などがあつたために、所期の意図を十分には表現し得なかった気がした。そこで、改めて、元の原稿のままを掲載することにして、未分化なままの所期の思いを再現することにしたのである。

(2) 第二部 ポーランドでの第三回方言学者地理言語学国際会議

---原題 "Geolinguistic Study on the Greeting Expressions and Behavior in Japan"---

日本では常識と見なされていても、外国では常識ではないことがらがある。たとえば、家の中の各部屋に鍵をかけるか否かという問題である。朝の家族同士の出会いの挨拶は、居住環境に左右される面が大きい。それを問題にした。都市化と過疎化では説明のつかない問題なので、絵やデータを多用することを積極的に行い、地理言語学的解釈の発展を期した。『社会言語科学』に採用された簡潔なものとは異なり、台所まで見通せる冗漫なものである。初めの意図は、こちらの方が鮮明に出ているように思われたので、訂正前の稚拙な英語の方を掲載させていただくことにした。

(3) 第三部 フィリピンでの方言実地調査に基づき家庭内での朝の挨拶が存するか否か(すなわち、都市化の指標、A Sign of Urbanization の存否)に関する「あいさつ表現とあいさつ行動」儀礼の研究

朝起きた時に家族内での特定形式の挨拶が無いのは、世界共通のルールかも知れないという課題を携えて、フィリピンでの方言調査を実施した。その結果は、予想した通りであった。しかも、部屋と部屋との間に仕切りを設けない居住環境では、日本と同じ挨拶行動に従う規範が認められることが見いだされた。面白い発見であった。

以上を報告する。

## II. 家庭内での朝の出会いの挨拶が存するか否かについての方言分布が示唆する住居様式の変化に基づく都市化の問題に関する地理言語学的研究

---原題「日本のあいさつ表現とあいさつ行動の地理言語学的研究」---

### 1 はじめに

#### 1.1 日本での一般的な地理方言学的研究

今までの日本での地理言語学的研究の多くは、音韻・文法・語彙を対象にしたものであった。その質問文の対象は単語であることが多かった。たとえば『日本言語地図』や『方言文法全国地図』そして『瀬戸内海言語地図』『糸魚川言語地図』などがその例として挙げられる。筆者の研究の場合もその流れに沿っていた。たとえば『Dialectologia et Geolinguistica』(7/1999)に載った拙文の「A New Interpretation of Dialect Atlas Data of Two Age Groups in Japan」は、述部の形式を問題とした旧来の方法に基づいた研究である。

#### 1.2 筆者の新しい企画

今回の筆者の研究は、「文」や「言語行動」を調査項目にしている。すなわち、あいさつ表現及びあいさつ行動を一括して体系的に問題としている。そうすると、いままでとは違った解釈の仕方が必要になった。結局、この方法によって、総合的な人間生活史が明らかになることが判明した。

#### 1.3 あいさつ表現とあいさつ行動の研究の新しさ

調査項目を「あいさつ表現及びあいさつ行動」に限定した。日本人のあいさつ生活を11分野に分類した。そして、全国の方言調査を実施し、その結果を言語地図に表した。その分布図の解釈のために、社会の変化や文物の移動に伴う日本人の生活資料が必要であることが分かってきた。

「文」以上の単位を調査項目とした言語地図の解釈は、むずかしい。しかしこれは、夢のある新しい研究領域であると思われる。

#### 1.4 目的

本稿の目的は、二つある。一つは、「朝、起きた時に、家族とどのようなあいさつ表現とあいさつ行動をするか」というコミュニケーションの言語地図を解釈することである。もう一つは、「朝、家を出かける時に、家族にどのようなあいさつ表現及びあいさつ行動をするか」というコミュニケーションの言語地図を解釈することである。

本稿では、3つの質問項目を研究の資料に使うだけである。その他の85項目については、後の研究に委ねられる。どのような解釈が展開するか未定である。



## 2 方法

### 2.1 方言調査票

日本人のあいさつ表現及びあいさつ行動を体系的に調査するために、それらを以下の 11 種類に分類し、88 の質問文を用意した。その枠組みは、以下のとおりである。

- 1) 朝・昼・晩
- 2) 別れ・辞去・見送り
- 3) 労働
- 4) 結婚
- 5) 買い物
- 6) 葬式
- 7) 人生儀礼
- 8) 感謝・詫び・贈答
- 9) 見舞い
- 10) 年中行事
- 11) 社交

今回の研究では、「朝・昼・晩のあいさつ」の中の「朝のあいさつ」の中から、3 つのあいさつだけを取り出して、研究の対象にした。

### 2.2 調査の種類と回数

a, 1994 年から 1997 年まで。全国各都道府県の「村」を対象にした隣地調査。筆者自身が実際に隣地調査を実施して、全国 47 箇所調査資料を収集した。

b, 1996 年から 1997 年まで。統一調査票に基づく第一回全国通信調査。

c, 1999 年から 2000 年まで。統一調査票に基づく第二回全国通信調査。

本研究での通信調査は、普通の通信調査とは異なる。識者に依頼して、実際に被調査者の自宅に出かけていただき、実質的な実地調査を依頼している。したがって、筆者が調査しなかっただけで、実際の実地調査は行われている。それゆえ、資料の質の高さは、信頼できるものになっている。一般に言われているような通信調査におけるように、表記法の信頼できない調査票が返送されてきて、それに基づいて処理するという類の通信調査は取らなかった。筆者は、実地調査という通信調査法によっている。

本研究では、これらの a,b,c を合計して、約 500 地点で約 1100 人ぐらいの被調査者から得た方言データを使用する。

### 2.3 言語地図の作成方法

今回は、手書きの白地図にゴム印のスタンプを押していく制作方法である。今後はコンピュータを利用した言語地図に変更していくことも考えている。

## 3 朝、家族と出会ってするあいさつ表現及びあいさつ行動

### 3.1 Map 1 『Greeting expressions to the family at the first meeting in the morning』の解釈について

この地図は 1994 年から 2000 年までの間に行われた全ての調査結果が統合されている。質問文は、「朝、起きたとき、家族どうして、どのような挨拶をしますか。」である。

この地図の解釈では、次の三つのことを指摘したい。

#### 3.1.1 OHAYOO-GOZAIMASU 又は OHAYOO の全国広域分布

日本列島の全域に広く、OHAYOO-GOZAIMASU 又は OHAYOO という言い方が分布している。丸印の符号で示されている。これは、日本語の標準語である。朝起きたときに誰かに声をかける一定の決まり文句である。その文の意味は、「早く起きたね」とか「早く

出会ったね」である。「早い」出会いを誉め讃える評価の心持が表明されている。

ところで、日本では「家」の中の家族の構成員に一体感が強い。家族同士では、声をかけない方が自然だとする考え方が、一般的である。

このような地方の感情に反して、OHAYOO-GOZAIMASU という言い方が全国に広く分布している現実がある。これを私は、近代になってから全国に普及した新しい言い方であろう、と理解している。

### 3.1.2 OKITAKA、MEGA-SAMETAKA の全国散在分布

OKITAKA「起きたか」や MEGASAMETAKA「目が醒めたか」は、相手の実際の行動を言葉で確認したものである。その点が、これらは、技巧的ではない。先の例のように、相手を賞賛する発想の「おはようございます」とは全く異なっている。批評以前の発想法である。原始的であり、また、洗練されてもいない。これらの行動描写的な言い方が条件反射的に全国に分布する。

### 3.1.3 無言という言語行為

Map 1 では、朝起きたときに家族への挨拶をしない地点が全国各地に広く分布している。星印の符号で示されている。

親しい家族が同居しているのだから、喜びや悲しみを共有するために、言葉の交換をするのは、ごく当たり前のことである。ところが、親しい間柄だから、むしろ黙って何も言わないのだというのは、どういうことなのであろうか。

### 3.2 なぜ、朝起きたときに家族とのあいさつ表現をしない地点が県庁所在地から遠く離れて存在するのか

Map 2 『A comparing the Star marks with the prefectural places』について考えてみる。これは、Map 1 の星印を残して、各県庁所在地を書き込んだ地図である。この Map 2 を見ると、例外なく、全ての星印が、県庁所在地から遠く離れて分布している。都道府県の県庁所在地は、一般的に人口の多い繁華な所である。そのような都市から離れた場所に、星印が存在している。すなわち、各県における過疎地か辺鄙な地域に星印の符号が分布しているのである。

このような星印の分布状況は、この「無言」という言語行為が、日本における古い因習に基づく何かであることを我々に示唆していると言ってよいだろう。

### 3.3 なぜ、朝方に家族とのあいさつ行為の無い地点が山地に偏在するのか

Map 3 『A Comparing the Star marks with the situation of the mountain ranges in Japan』を見てみよう。これは、Map 2 の地図に、1000m 以上の山脈を書き込んだものである。これを見ると、星印で表した「朝方の家族とのあいさつ行為が無言」である地点が、二、三の例外を除いて、山間地にある。ただし、例外として、沿岸に分布するのは、静岡県と長崎県と熊本県とである。ただし、これらの地域も各県の辺境である。

このように、星印は、平野部ではないところに見られ、都市生活とは異なった昔からの

生活習慣を維持する生活と関係がありそうなことが明らかとなる。人口の少ない過疎地域に「無言」の言語習慣があり、これが古来の日本の村社会の伝統だということが分かる。

### 3.4 朝の出会いのあいさつ行為は、親戚や嫁に対して行う

Map 4 『A Greeting Expression to the relatives at the first meeting in the morning』を見てみよう。これは、臨地調査の際に被調査者が言い添えたコメントで、当該項目の解釈にとって重要と見なされるものを取り出した図である。

朝のあいさつ行為が、家族同士では行われなくても、嫁や宿泊する親戚に対しては行われるという点に注目したい。「嫁」は家族の者同士のあいさつが無くても、舅や姑に対して、必ず先に朝のあいさつをしなければならないのである。

以下の表は、地図の番号と一致させている。

(『被調査者のコメント』 Map4の中の地点1~6)

地点 1、戸沢村・山形県 (寺内金兵衛 1929 生、山内サク子 1928 生、小林貞子 1928 生)

○「舅や姑は互いに朝のあいさつをしないが、嫁さんにはする。嫁が OHAYOO-GOZAIMASU と言う。それに対して義父母は OHAYOO と言う。」

地点 2、鳥越村、石川県 (島田克三 1929 生)

○「家族同士の朝のあいさつは無かった。しかし、嫁は舅や姑が起きてこられたら、畳に手をついて、丁重にあいさつをした。特に家長に対しては丁重にした。」

地点 3、南山城村、京都府 (手中定之 1912 生、伊賀公乃 1915 生、松本保 1922 生)

○「嫁が舅や姑に OHAYOO-SAN と言った。すると舅は嫁に OHAYOO とか、HAYAIDE とか言った。息子と親とはあいさつ行為が無かった。」

地点 4、豊岡村、静岡県 (松下政男 1918 生、松下しずの 1922 生)

○「OHAYOO-GOZAIMASU と親戚の子が泊まりに来れば、朝のあいさつをする。普段はあらたまってあいさつはしなかった。親からあいさつを強要されたこともなかった。」

地点 5、生野町、兵庫県 (橋本晴夫 1932 生、藤本つや子 1925 生)

○「親戚の者が泊まっていけば、泊まった方が先に OHAYOO-GOZAIMASU と、家の者に言った。普通は、家庭内での朝のあいさつはしなかった。」

地点 6、四賀村、長野県 (小口凧海 1922 生)

○「姉が嫁に行き、七日目に里帰りしてきて、実家に泊まった。朝起きてくると家の者が姉に OHAYOO だったか、OHAYOO-GOZAIMASU だか、あいさつをした。それまでは、姉に対して朝のあいさつをしていなかった。すると、姉が本当に余所の人になってしまったという感じがした。物心ついた頃の思い出。」

以上、被調査者のコメントが示唆するように、日本の田舎では、古くは、家庭内での朝の出会いのあいさつは無かったと考えてよい。ただし、家庭内に3世代が同居していれば、朝、「嫁」が先に義理の父母へあいさつ行為を行う義務があった。あいさつ行為は、

血の繋がりの無いことを明示することであった。たとえ結婚して数十年経っていても、「嫁」は「親戚」と同等に扱われ、あいさつ行為を行う関係が維持されてきた。

### 3.5 「障子や唐紙」による伝統的な日本家屋の構造が、家族間のあいさつ行為を阻んだ

伝統的な日本の家屋には、金属やコンクリートが使用されない。木材を巧みに組み合わせ、地震にも耐えられ、湿気にも強い家を建築してきた。特に地方では、萱葺きの屋根が見られ、夏の暑さと湿気を避けるための工夫がなされてきた。また、通気性をよく考えた家の構造にもなっている。(Picture A-1 ~ A-2 参照)

日本の伝統的な家屋には、鍵のついた戸を開けたり閉めたりする部屋が無い。部屋と部屋との境は、障子の戸や襖で仕切られているだけである。或いは木製の木戸で締め切られている場合もある。各部屋の上部は欄間で繋がっていて、音や光が漏れるようになっている。だから、部屋ごとの音は、遮断されない。日本の家の構造は、家庭の一体的な関係が維持されやすい居住環境だともいえる。(Picture B-1 ~ B-5 参照)

ところが、1950 年ころから日本の高度経済成長期が始まった。1968 年の東京オリンピックのころには、都市への若い人口の集中が見られた。(Picture C 参照)

また、近代的な洋風の建築が急増した。つまり、家族の構成員がそれぞれに、プライベートな「個室」を持った家を建設するようになった。(Picture D-1 ~ D-3 参照)

いわゆるマイホーム主義とも言われた流行語は、伝統的な家屋の否定を意味した。またそれは、「核家族」という用語でも説明されるように、三世代が同居するという旧来の生活習慣を避けることにもなった。(Picture D-4 参照)

新築される核家族ごとのマイホームには、「鍵っ子」という言葉で象徴されるように、一人一人のこどもに個室が用意された。各の個室に鍵をかけて、家族の構成員ごとに孤独を保つことが可能になった。1960 年以降、家庭内での個人間の出会いが存在することになった。

このようにして、最近では、家庭の中での朝の出会いが確実に見られるようになったのである。そこで、家庭の中でのあいさつ行為に、抵抗感さえ無くなってきているのではないかと考えられる。

#### < 結論 >

(1) 家族への朝の出会いのあいさつは無言なのが最も古い習慣である。次に OKITAKA, MEGA-SAMETAKA が続く。OHAYOO-GOZAIMASU, OHAYOO は標準語であり、最も新しい言い方である。

(2) 伝統的な家屋の構造や家という血族の一体性などにより、無言のあいさつ行為の習慣は地方で守られていた。

(3) しかし、1960 年代あたりから社会が急速に変化し、従来習慣や価値観が通用しなくなった。生活が変わり、家屋の構造変化その他の客観的な理由によって、無言だった朝のあいさつ行為が言葉を伴ってなされるようになった。

次に、もう一つのあいさつ行為について、その分布の解釈を試みる。

#### 4 朝、家を出かける際に家人に対して行うあいさつ表現及びあいさつ行動

##### 4.1 Map 5 『"TATEMAE", Greeting expression and behavior to the family in the case of starting in the morning』について

この地図では、平均 70 歳の大人を対象にした通信調査の結果が分布図に表されている。次の二つの質問文で得られた結果を一つの地図に統合し、対話形式で表示した。

質問文 2 「朝、家を出かけるとき、玄関先で見送りの家族に向かって、どのような挨拶の言葉を言いますか。」

質問文 3 「朝、出かける人のあいさつに答えて、どのような受け応えのあいさつをしますか。」

以上の二つの質問文で得られた資料を一図に統合したのが、Map 5 である。これは、通信調査だけの資料によって作図したものである。通信調査は、1996 年から 2000 年までに実施された。

この地図の解釈では、次の 4 点を指摘したい。

4.1.1 星印の符号が非常に少ない。星印は「無言」を意味する。この星印は、静岡県の一地点にしか見られない。星印がこんなに少ないのはなぜであろうか。

また、鳥取県の一地点に、出かける人が「行って来る」と家の者に呼びかけると、家の者が無言で応じるというのがある。全体、500 地点ほどの中で、これが一地点だけにしか分布していない。

4.1.2 次は黒色の三角符号の分布を見てみよう。これは、出かける人が「行って来る」と言い、見送る人が「行って来い」と応じるものである。この呼びかけと応答の対は、基本形である。両者の言葉に敬語が無い。全く対等に言葉が交わされている。両者に上と下との関係がない。この符号が、全国に広く散在して分布していることは、注目してよい。

昔から日本では、仕事に出かける人と家に残って家事をする人との間に対等の関係があったということを暗示している事実と見られる。敬語無しで対話しても構わない人間関係が有り得たということである。白抜きの三角の符号も、呼びかけと応答とで敬語が必ずしも完全には対応しない行為を示している。

4.1.3 もう一つ注目したいのは、白抜きの丸符号である。丸符号は、全国に分布している。分布の数は最も多い。ただし、東北地方にこれが少ない。この丸符号は、出かける人が「行きます」と言い、見送る人が「行ってらっしゃい」と応じる対話形式である。この対話では、双方に敬語が見える。家族に対してでも敬語を使用してあいさつ行為を仕立てるのは、都会的な洒落た感覚である。このような標準語のスタイルを全国各地で行うようになったということである。

4.1.4 この Map 5 のような結果を総合して、私はこれを「立前の図」と言っておきたい。

「立前」とは「本音」に対立する言葉である。「立前」は、表面上の対外的な言葉の意味である。現実とは幾分の差があっても、「内なる真実」に覆いをかけ、余所行きの言い方で化粧をすることである。Map 5 の星符号の少なさは、「立前の図」であることの証である。

通信調査という方法では、本音よりも理想や希望を回答するということがあるのだろうと想像する。都会的な標準語の言い方を真似て、「立前」で答えているのであろう。

しかし、次の事実は指摘しておかなくてはならない。1960 年以前には、家族全員が同じ家の仕事に従事するという例が少なくなかった。農業・林業・水産業・家内工業などが盛んであった。そのころには、サラリーマンという職種は、まだ一般的ではなかったのである。ところが、1960 年以降、急速に経済が発展し、工業化が進み、サラリーマン家庭が増えた。そのために、朝仕事に出かけて夕方に帰宅するという生活様式は確実に増えた。従って、敬語を使って行う都会的な朝のあいさつ行為が増えていることも事実である。

次に、「本音の図」を見てみよう。

4.2 Map 6 『"HONNE" An analysis on the Inner world of the greeting expression and behavior to the family』について

この地図は、1994 年から 1997 年までの間、私が日本全国の 47 都道府県について、「村」を各一地点ずつ選んで、調査したものである。Map 6 では、地点番号と方言資料の番号とが、対応している。話者のコメント以外のデータが直接に、地図上に書き出されている。

この地図では、次の三つのことを指摘したい。

4.2.1 星印の符号を見てみよう。Map 6 には、6 地点もの星印の符号が見える。すなわちこれらは、「無言」というあいさつの行為を示す。47 地点の中で、2 割近くの 6 地点が「無言」なのは、注目してよい。日本の村社会では、朝、家を仕事で出かけるときに必ずしも家の者にあいさつ行為を済ませてから出かけるということは必要では無かった。しかも、東京都や神奈川県「村」では、完全に「無言」である。理由としては、家族の仕事は、互いに了解し合っているし、互いに忙しいので、断りを言わなくても、時間が来れば、それぞれの仕事に移るのだと被調査者は答えた。

村の生活は単純ではない。サラリーマン生活者は、朝、家を出かけたら、それっきり夕方まで帰宅しない。しかし、村の生活は、家の周辺での仕事である。一日に何度も家族と顔を会わせる。従って、出会う度に、行動の説明をすることは必要でない。このような習慣的な生活が繰り返される村社会では、家族間の儀礼的なあいさつ行為は存在しにくい。

4.2.2 次に三角の符号が目立つ。これは、「行ってくる」に「行ってこい」が対応する会話である。この両者に、敬語は見えない。敬語の無い言い方が全国に広く行われている。これは、きわめて当然のことである。敬語は、他人への気遣いや尊敬の儀礼に使われることが多いからである。

Map 5 と Map6 の双方ともに、敬語が使用されない簡潔なあいさつ行為の対話が見られる。

4.2.3 標準語の言い方であるところの「行ってきます」と「行ってらっしゃい」の対話が、非常に少ない。村では、家族の間のあいさつ行為に、都会の真似をする必要がない。村のあいさつ行為は、都会とはずいぶん違っている。

以上、Map 5 と Map 6 とをまとめると、次のようになる。

#### 〈 結論 〉

(1) Map 5 は「立前の図」と解される。朝、家を出かけるときに家の者に敬語を用いたあいさつ行為をするのは、都会的な生活を行う場合に限られる。通信調査では、標準語の会話形式が回答されやすい。1960 年以後の都市化により、敬語を使用した都会的なあいさつ行為が増えた。都会に似たあいさつ行為が多く回答されたことは、1960 年以後の都市化による、日本の高度経済発展の結果とみなすことができる。

(2) Map6 は、「本音」の図と解される。日本の村を直接訪ねて、方言を聞くと、家の近辺の生活と結びついた仕事に従事している人が多い。そのような生活様式では、家族同士の朝の出がけのあいさつ行為が無い場合が少なくない。

(3) 血の繋がった親族に対しては、出がけのあいさつ行為をしないのが田舎の習慣である。そして、通例は、家族同士の朝の出がけのあいさつ行為は、敬語なしで行われる簡単なものが普通である。

(4) 臨地調査による「本音」の図の分布は、次第に通信調査による「立前」の図の分布に近づいていくであろう。

#### おわりに

以上、日本のあいさつ表現及びあいさつ行動の言語地図について、解釈を試みた。わずかに、数種類の言語地図を解釈したに過ぎない。

さて、あいさつ行為の質問項目はまだ 85 もある。今後、どんな問題が出てくるか予想が出来ない。

今までの地理言語学的な解釈では、音韻法則を適用したり、圏分布の法則を適用したりすればよかった。或いは同音衝突とか、類音牽引とかも利用したであろう。しかし、あいさつ行動の分布図を解釈する場合には、それらは全く役にたたなかった。

私は、この研究を経て、次のことが言えるように思う。

a. あいさつ表現やあいさつ行動などの方言地図を解釈する場合には、人間そのものの価値観の変化やそれを引き起こした経済社会の実態や居住環境などについて細かく検討する必要がある。方言地図は、人間の生活史を如実に映し出しているからである。方言分布の解釈には、総合的な知見を導入する必要がある。

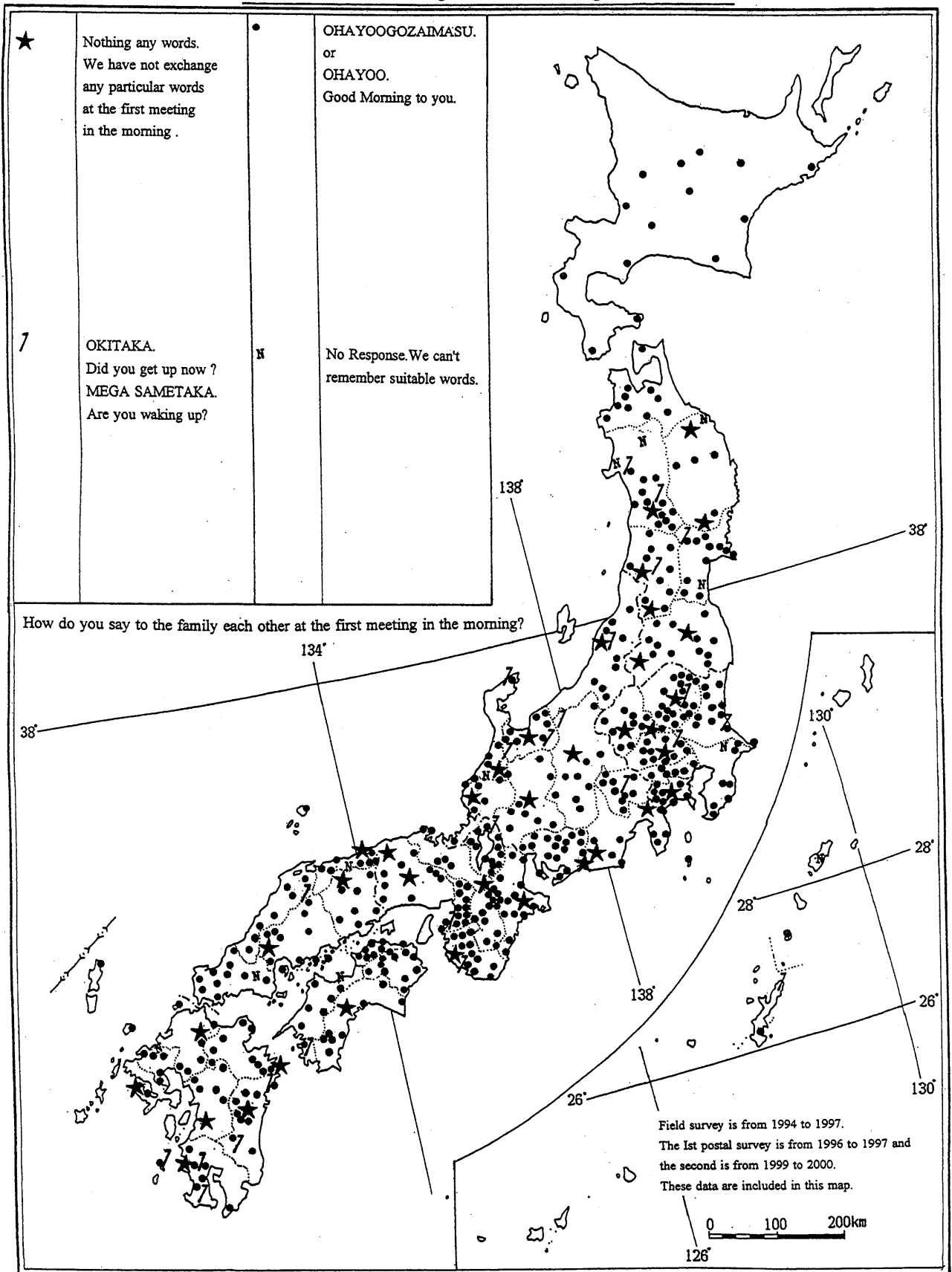
b. 21 世紀における真の地理言語学(新概念の提示)を発展させるためには、人間そのもの

の言語行為を調査項目として扱い、ダイナミックに言語地図を解釈していくことが求められる。

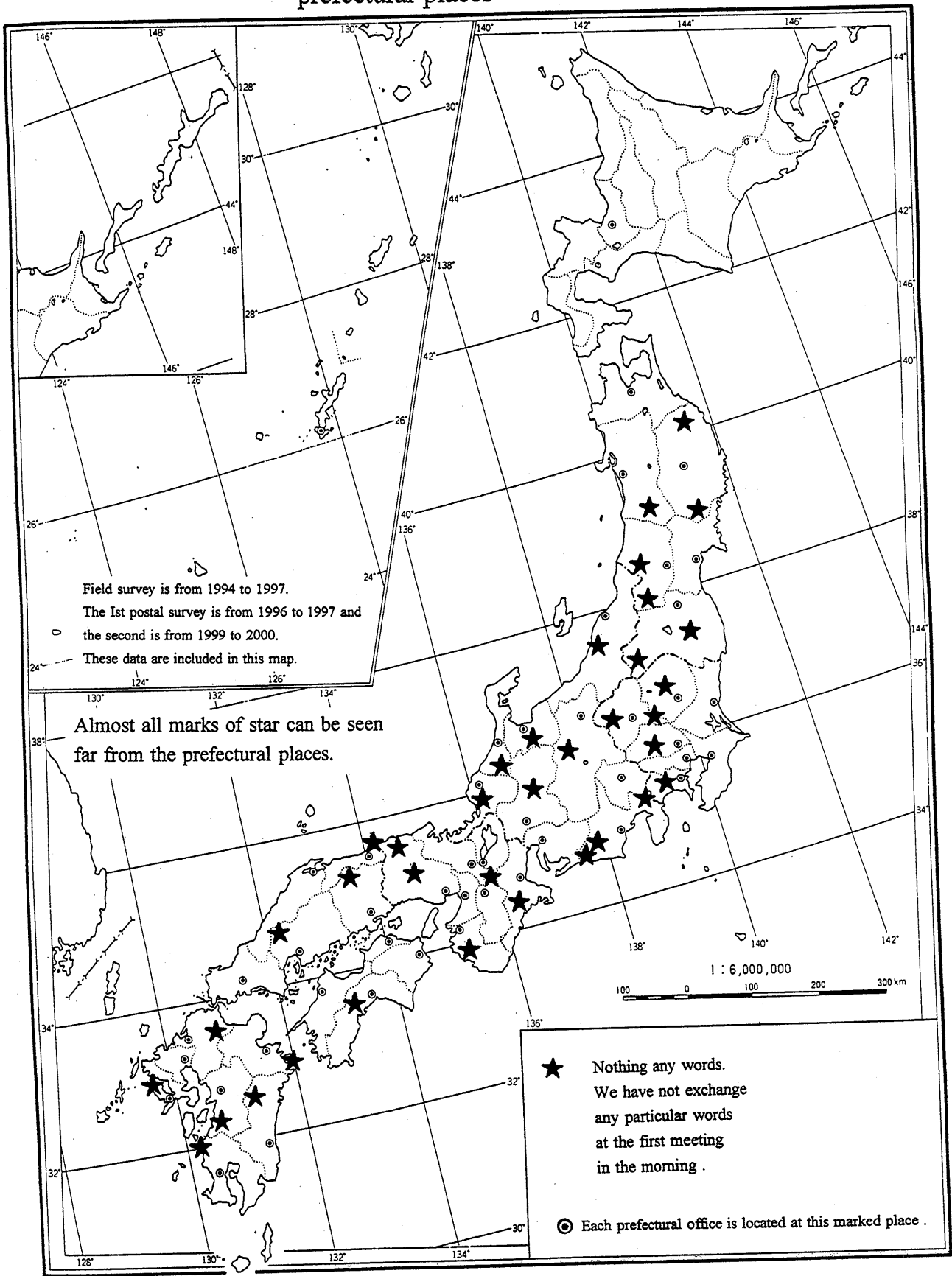
以上



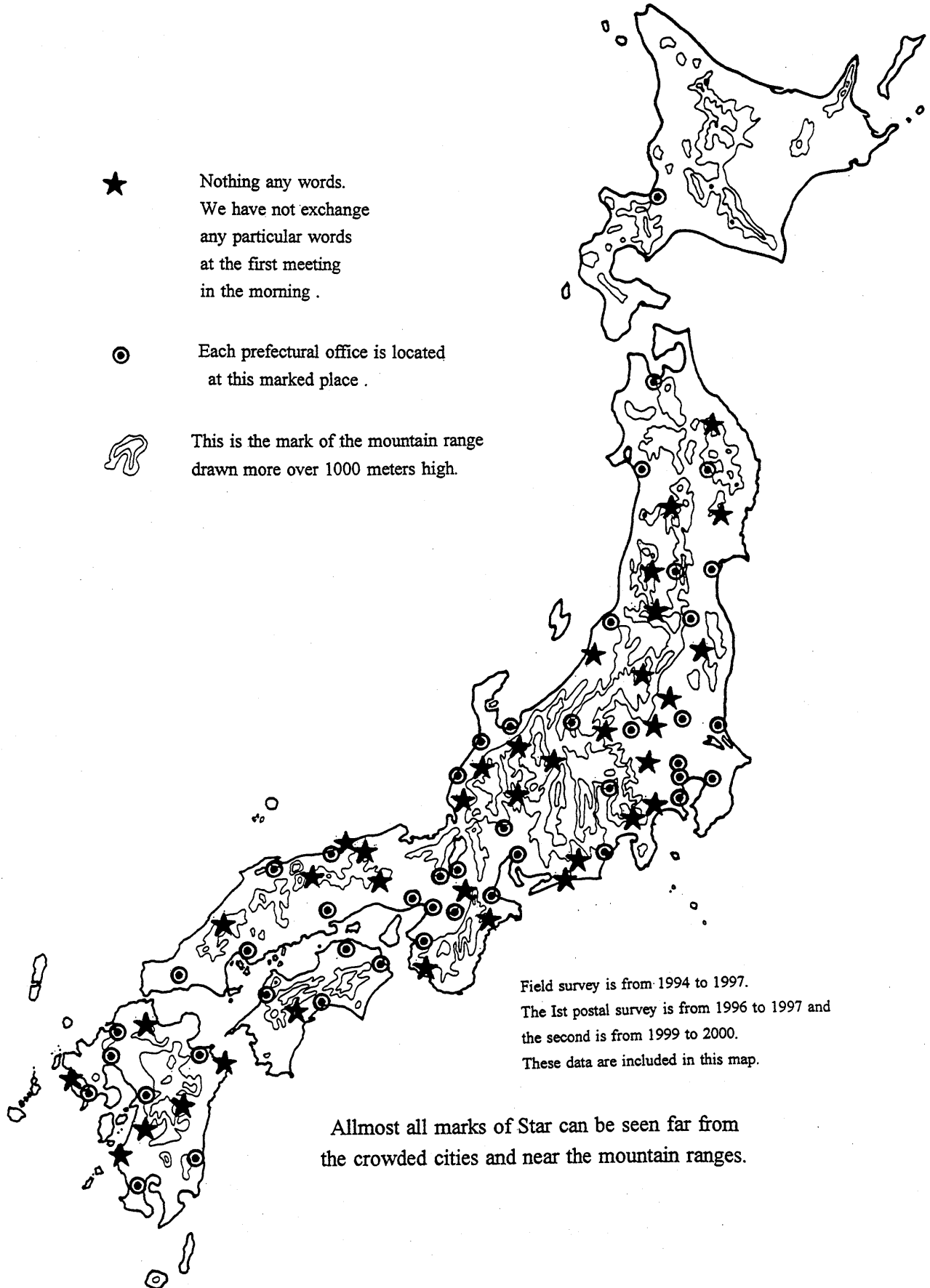
Map 1 Greeting expressions to the family at the first meeting in the morning



Map 2 A comparing the Star marks with the prefectural places



Map 3 A Comparing the Star marks with the situation of the mountain ranges in Japan



★ Nothing any words.  
We have not exchange  
any particular words  
at the first meeting  
in the morning .

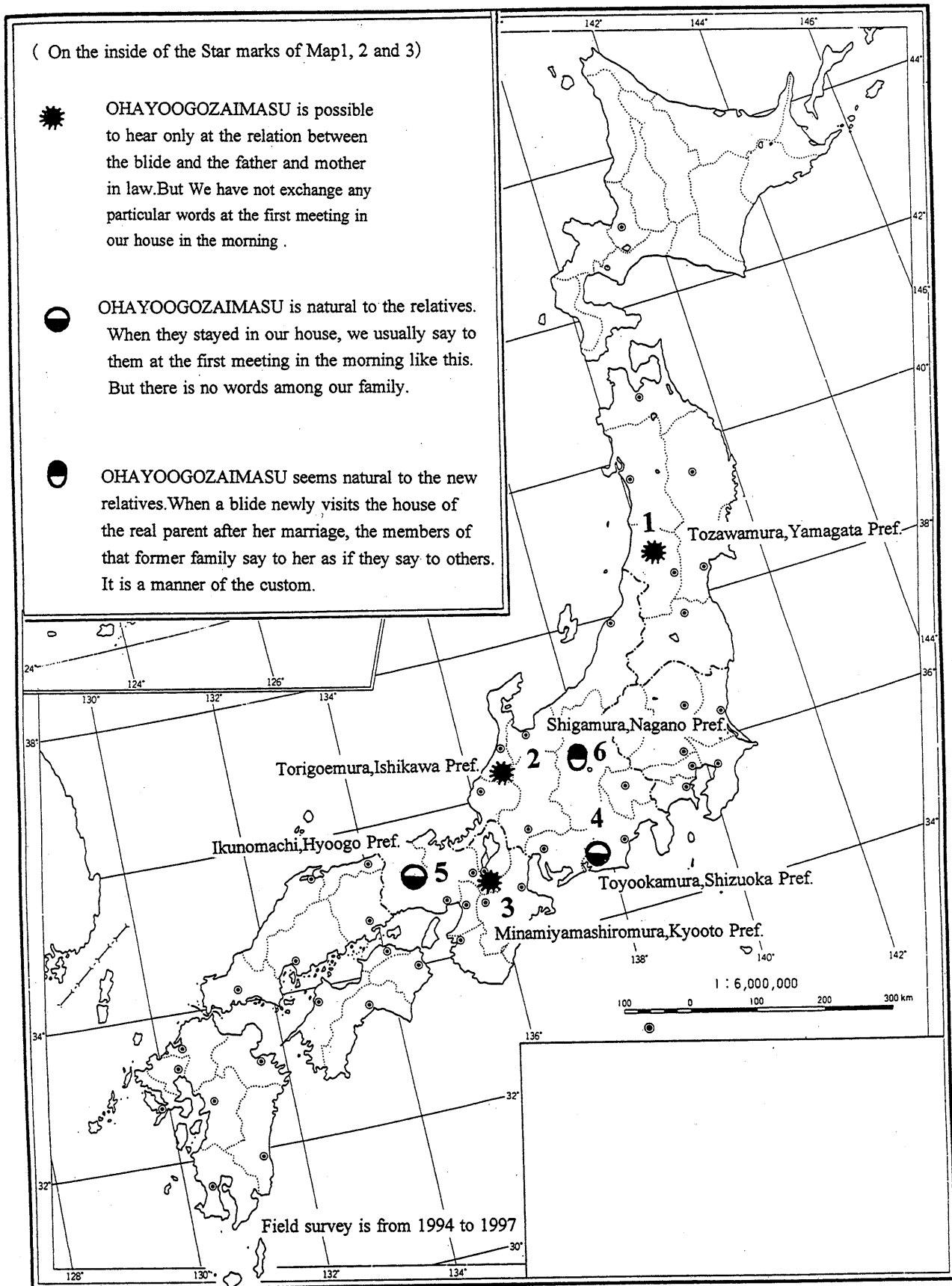
⊙ Each prefectural office is located  
at this marked place .

⌚ This is the mark of the mountain range  
drawn more over 1000 meters high.

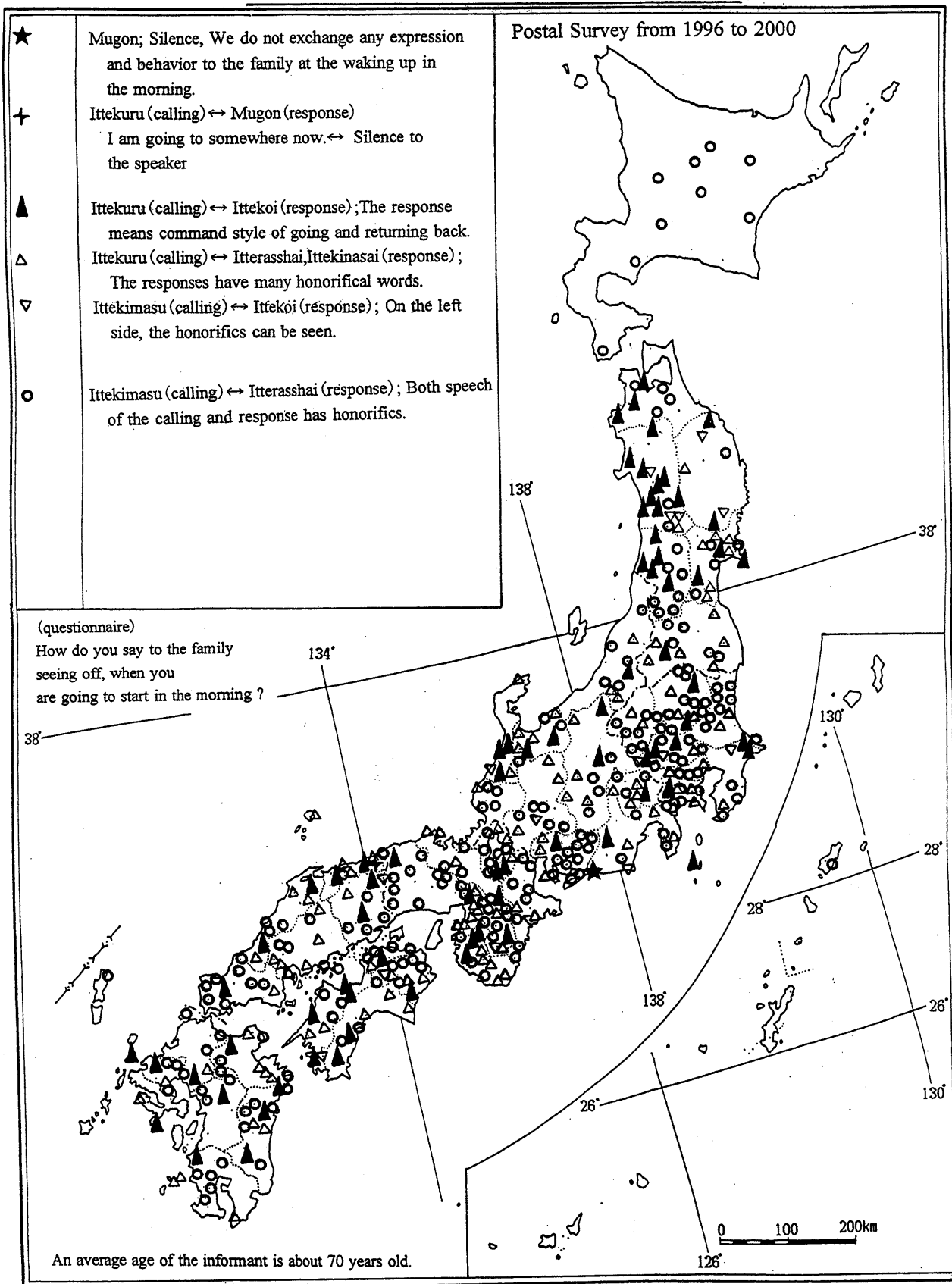
Field survey is from 1994 to 1997.  
The 1st postal survey is from 1996 to 1997 and  
the second is from 1999 to 2000.  
These data are included in this map.

Allmost all marks of Star can be seen far from  
the crowded cities and near the mountain ranges.

Map 4 A Greeting Expression to the relatives  
at the first meeting in the morning

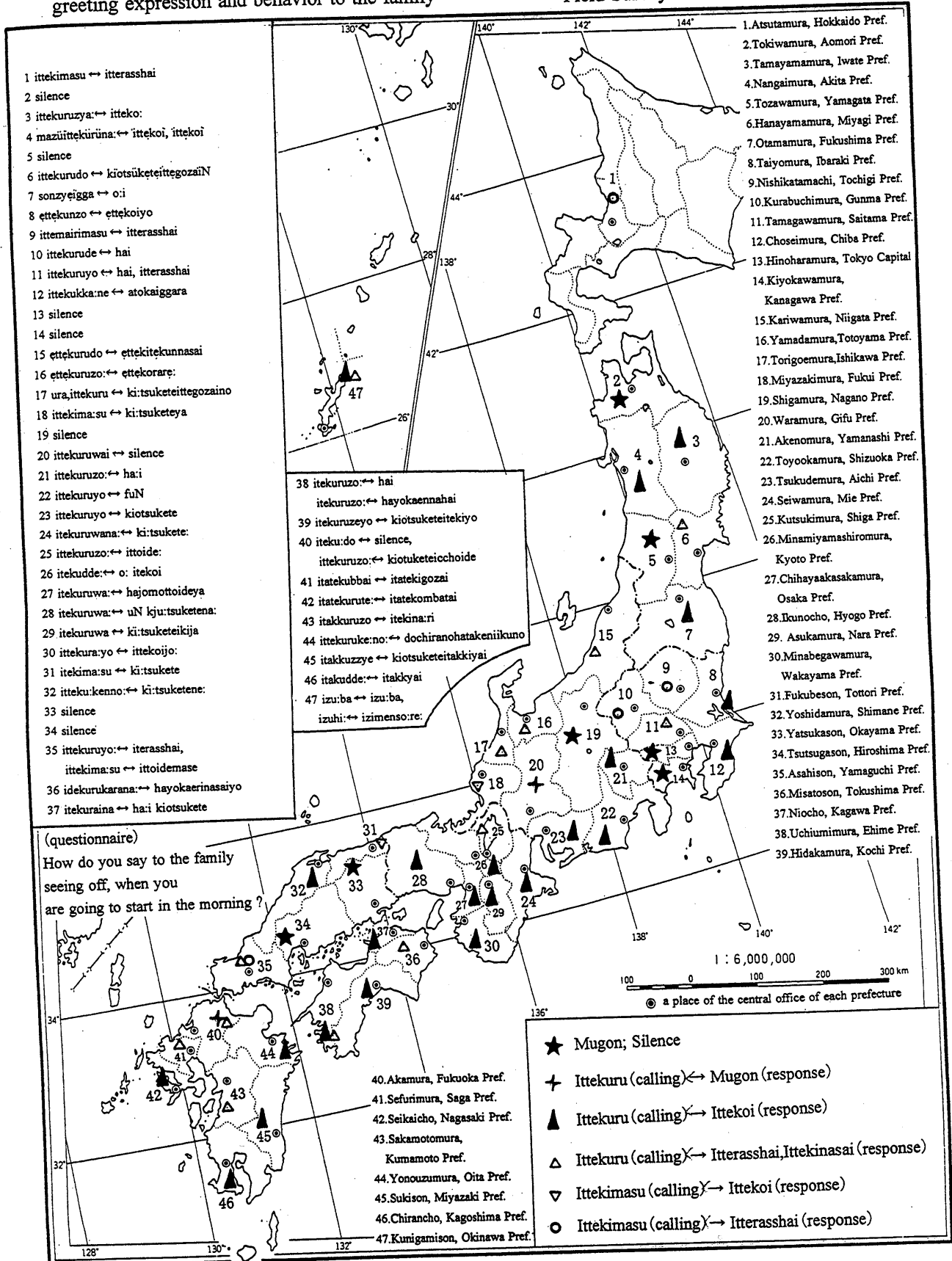


Map 5 "TATEMAE", Greeting expression and behavior to the family in the case of starting in the morning

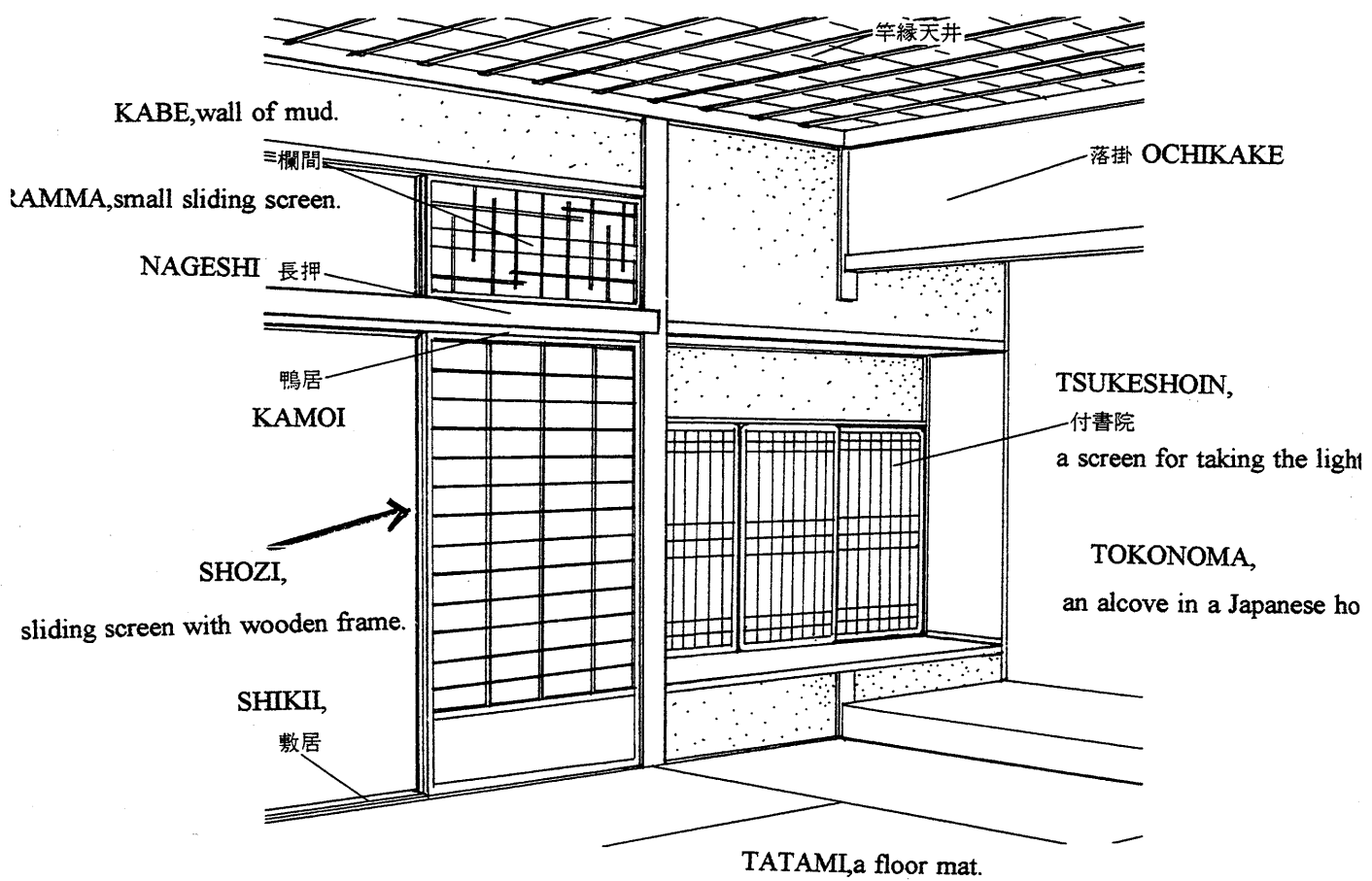


Map 6 "HONNE", An analysis on the Inner world of the greeting expression and behavior to the family

Field Survey from 1994 to 1997

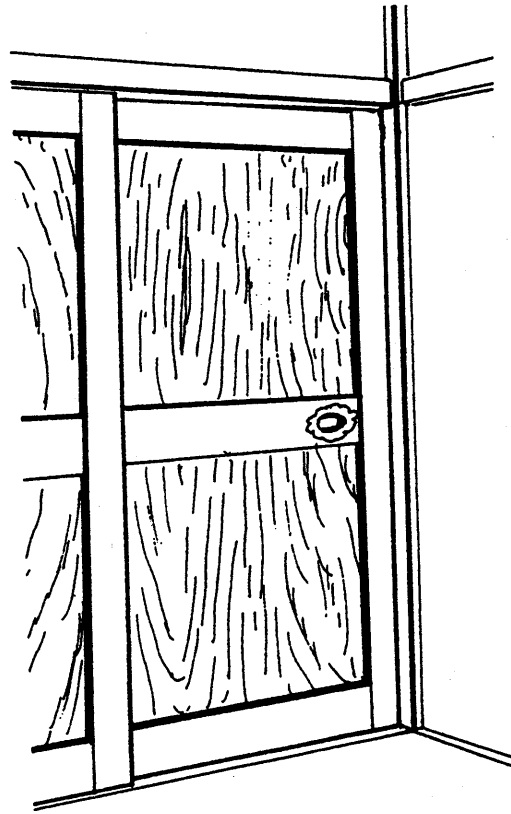


An average age of the informant is about 70 years old.



Picture A-1

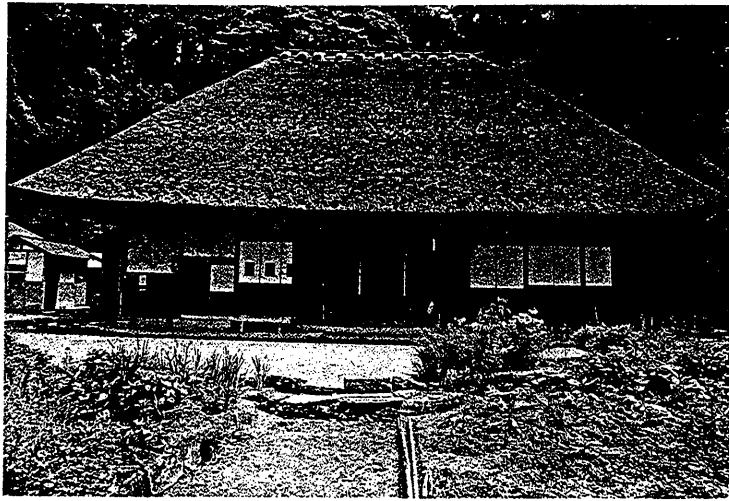
Inside a ZASHIKI, the guest room and the most important room in the house. SHOZI and RAMMA can be seen.



帶 戸

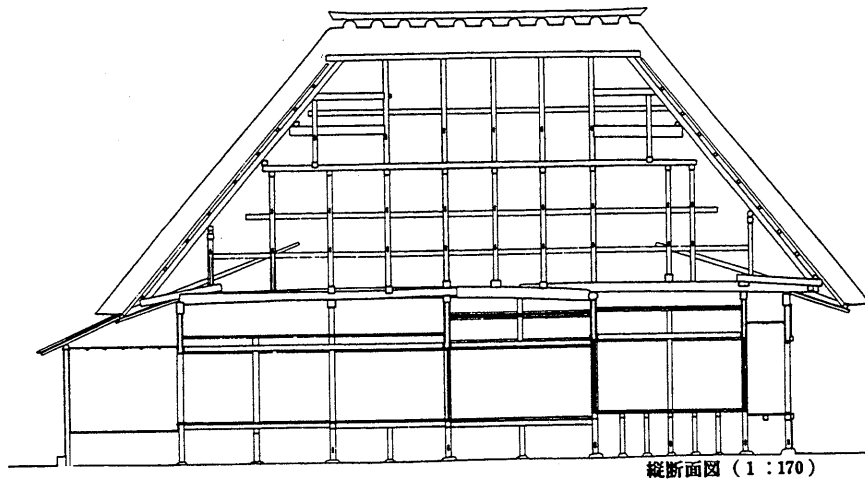
Picture A-2  
OBIDO, a sliding door which can divide neighboring rooms.





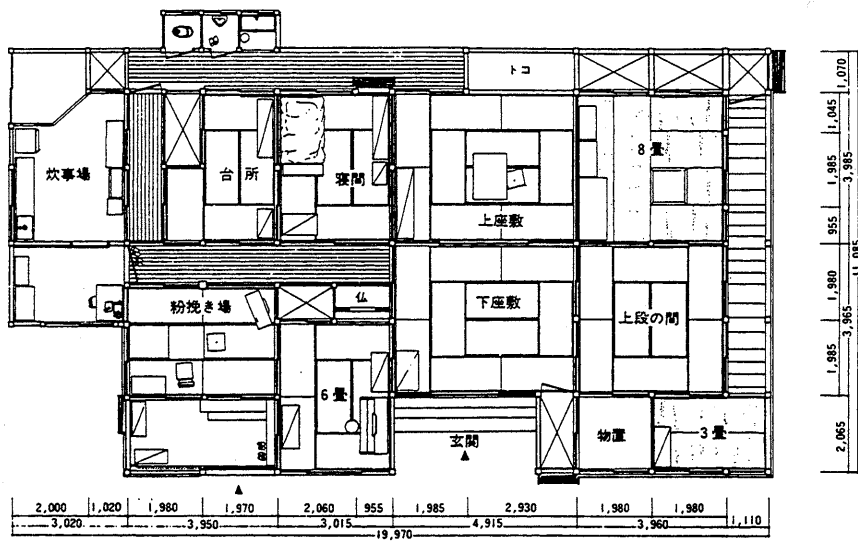
阿佐名の名主阿佐家

祖谷山三六名は、いずれも中世の名主を中心とした村で、名主のなかには山岳武士であったという伝承を持つ家が少なくない。



縦断面図 (1:170)

このように祖谷山は山深い山村であるが、古い時代から人びとが住みつき、峠道を通じて外の世界とほそぼそとつながりを持ち、中世の文化が吹きだまりのような形で残っていたのである。

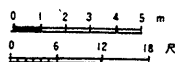
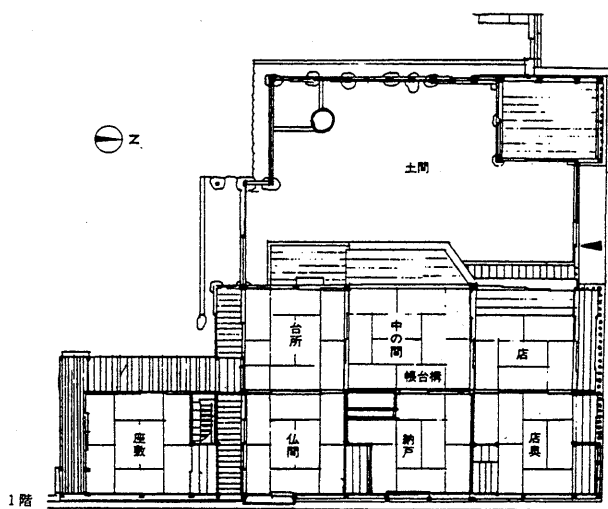
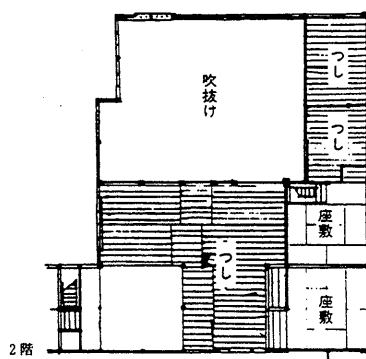


阿佐利昭氏宅平面図 (1:170)

Picture B-1

Old big traditional house which was built in the middle ages, with thatched roof.

Tokushima Prefecture in Japan



今西家主屋平面図

大和今井町最古の家 今西家

今西家は豪族十市氏の一族で、永禄九年（一五六六）にここへ移住、三代目あたりから今西と改姓したとみえる。

金兵衛

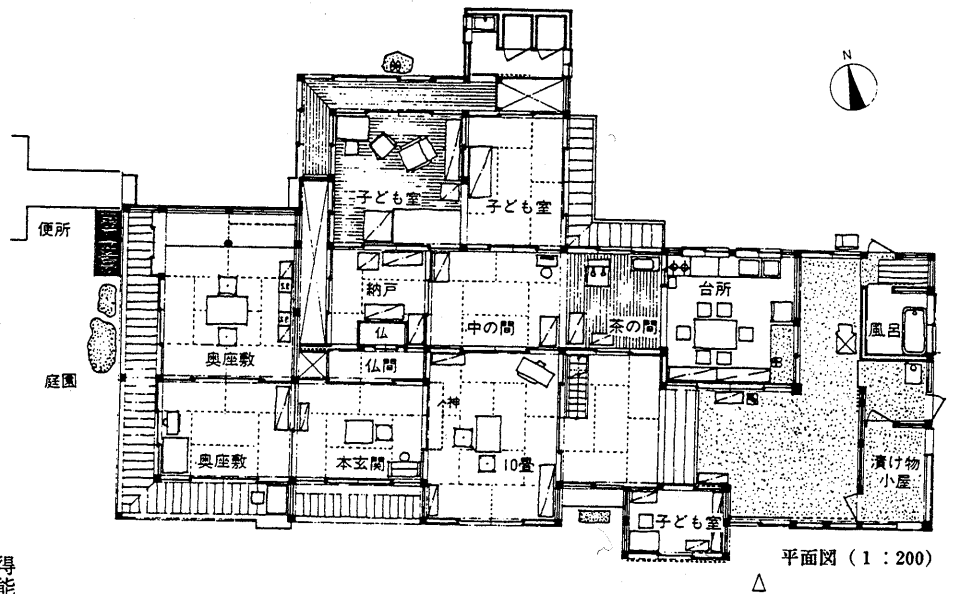
棟上  
慶安三年  
参月廿貳日  
和州今井大工棟梁  
曾我藤原朝臣

Picture B-2  
Traditional house which was built in 1566.  
Nara Prefecture in Japan

広島県比婆山地の東城町は、名勝帝釈峡の北方にあつて、古くから鉄を生産した土地として知られている。



主屋には玄関を構え、庄屋の家の風格がある



得能家には、天保年間(一八三〇―四四)に描かれた家相図が保存されている。中国山地の旧家には、旅の占い師がやってきてはその家に滞在し、家相を見て歩くことが江戸末期から明治にかけて行われていたようだ。

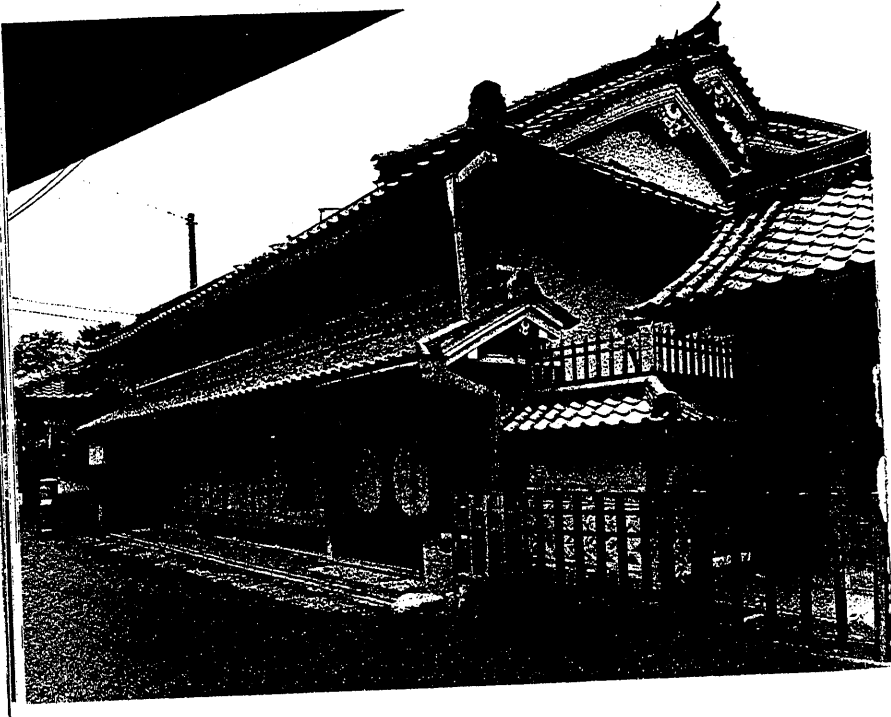
得能家長屋門



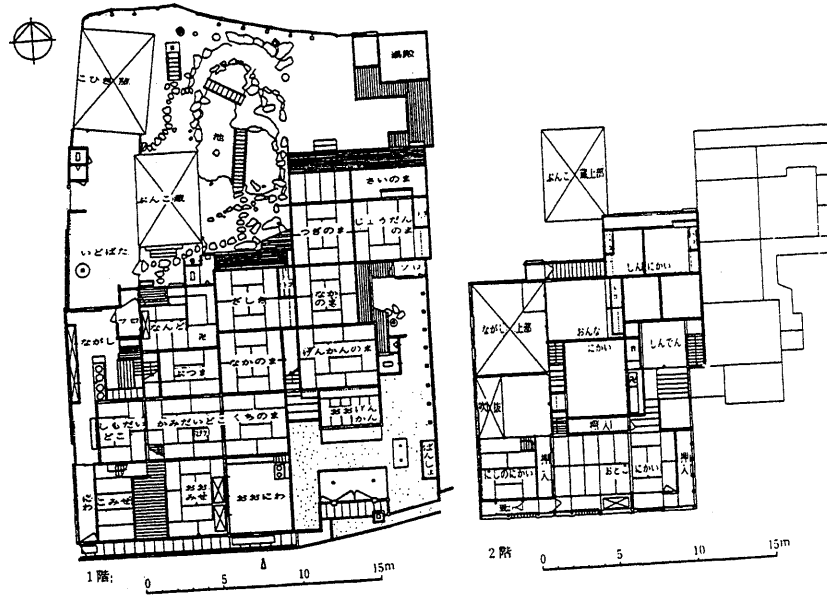
Picture B-3  
The local house of the wealthy merchant of Edo era.  
Hiroshima Prefecture in Japan

近江の薬種本舗  
有川家

滋賀県彦根市鳥居本



宝暦三年（一七五三）に近くの近江町箕浦の宮大工が建てたという伝えが本当なら、町家としては古い方である。また後に、右手に増築した客用書院は文化五年（一八〇八）という。

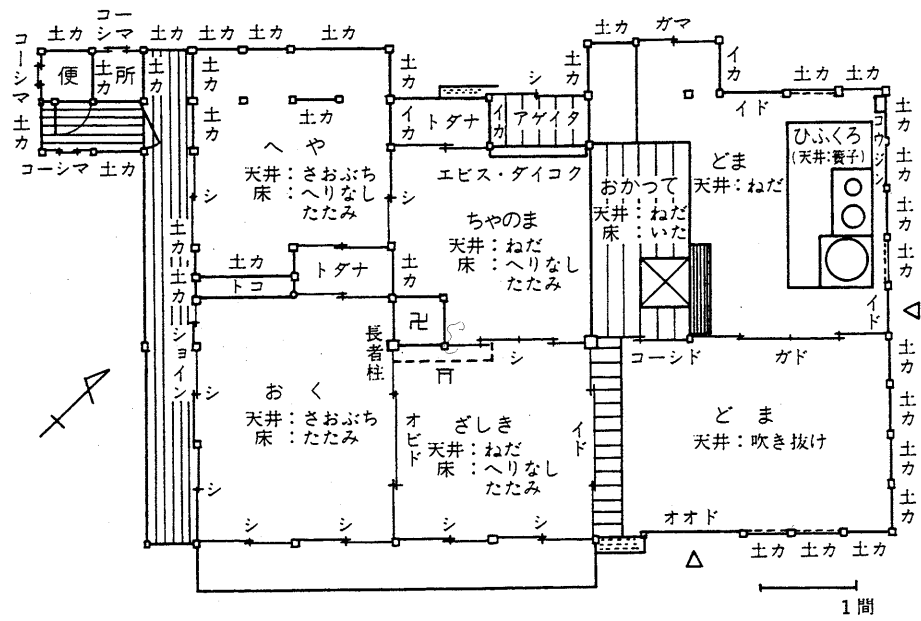


有川家平面図（彦根市教育委員会実測図）

近江の薬種本舗 有川家

Picture B-4

The house of a pharmacist of the Edo era built in 1753.  
Shiga Prefecture in Japan



- |         |             |          |             |
|---------|-------------|----------|-------------|
| 土カ：土壁   | ガマ：ガラス窓     | コウジン：荒神様 | ☒：いろいろ      |
| イカ：板壁   | トコ：床の間      | ショイン：書院  | 卍：仏壇        |
| イド：板戸   | オオド：大戸      | コーシド：格子戸 | 卍：神棚（壁にとりつけ |
| ガド：ガラス戸 | アゲイタ：とりはずしの | コーシマ：格子窓 | てあるものは点線）   |
| シ：障子    | できる床板       |          |             |

屋内平面図の例

Picture B-5

The structure of a general farmhouse before 1960 in Japan.

Picture C

(unit: 1000 person)

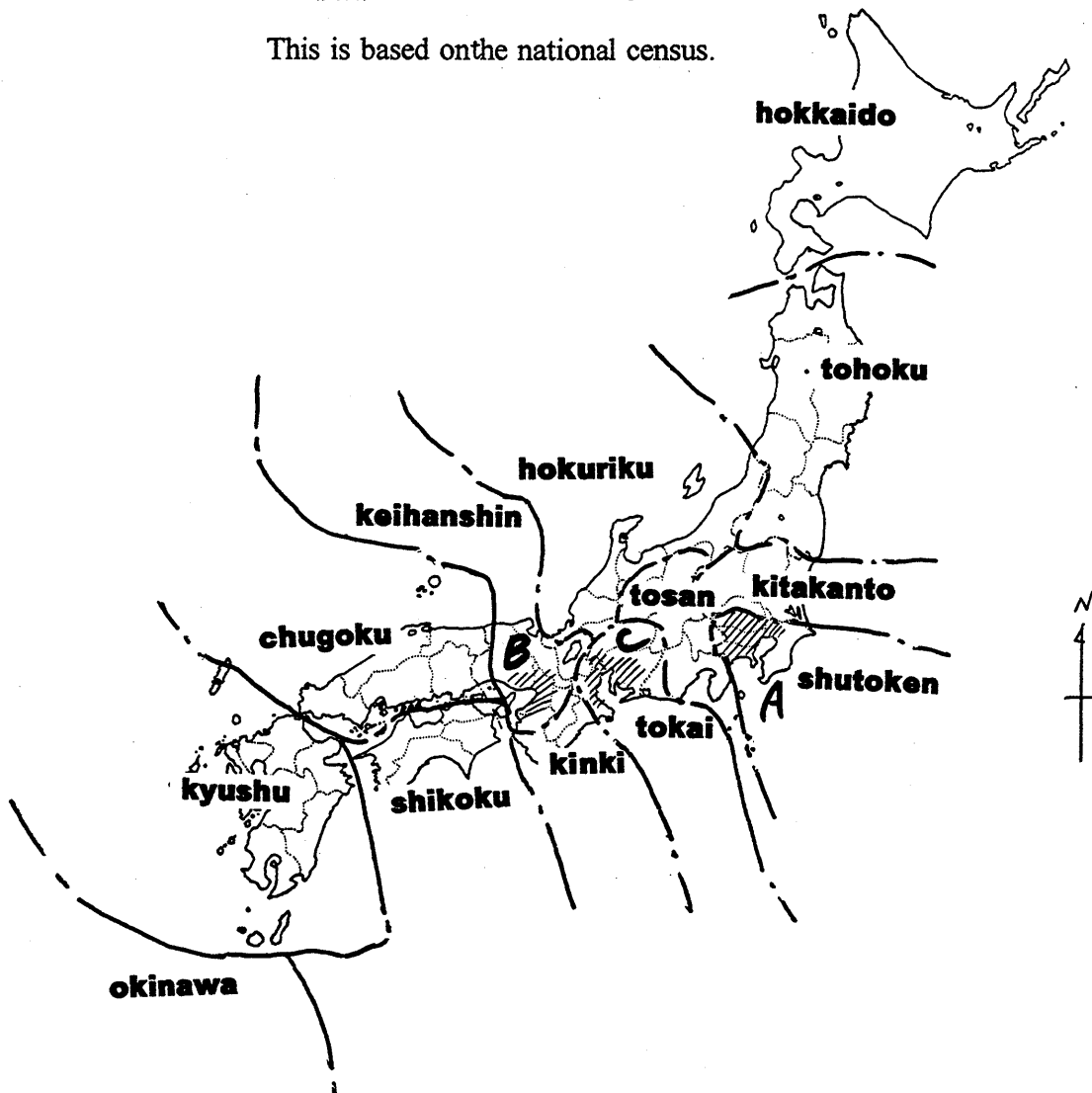
The Increase of the population in each area

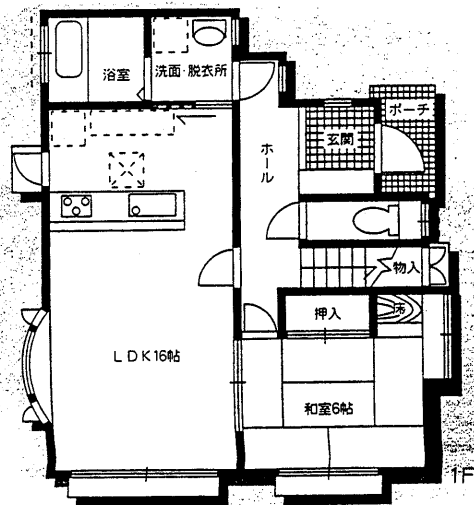
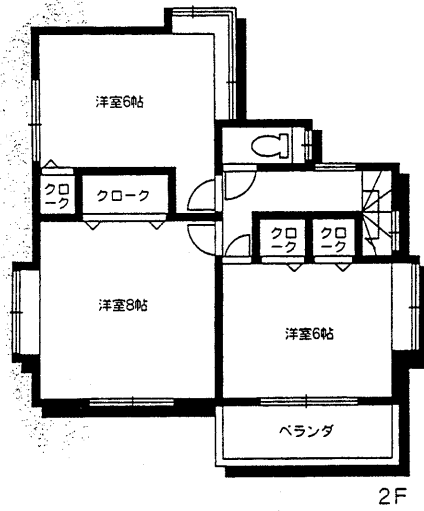
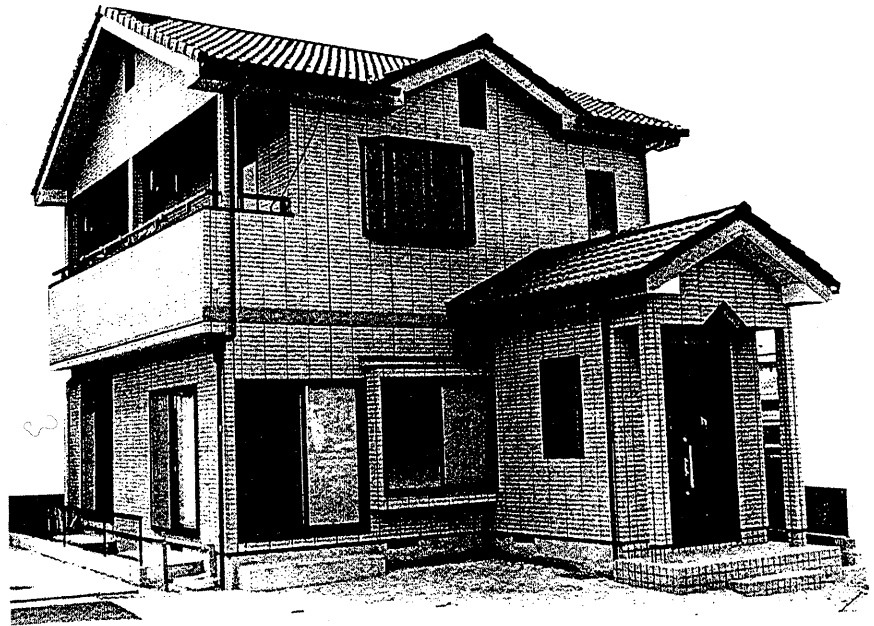
(単位 1000人)

		1950年	1970年	1990年	rate of increase of the population (%)		
					1970/1950	1990/1970	1990/1950
hokkaido	北海道	4,296	5,184	5,644	21	9	31
tohoku	東北	9,021	9,055	9,738	0	8	8
kitakanto	関東	5,190	5,383	6,746	4	25	30
A shutoken	首都圏	13,051	24,113	31,796	85	32	144
hokuriku	北陸	5,179	5,137	5,584	-1	9	8
tosan	東山	2,872	2,719	3,010	-5	11	5
C tokai	東海	7,407	10,235	12,429	38	21	68
B keihanshin	京阪神	9,000	14,538	16,742	62	15	86
kinki	近畿	4,068	4,406	5,464	8	24	34
chugoku	中国	6,797	6,998	7,746	3	11	14
shikoku	四国	4,221	3,904	4,195	-8	7	-1
kyushu	九州	12,096	12,071	13,296	-0	10	10
okinawa	沖縄		(1,043)*	1,222			
total	計	83,200	103,720	123,612	25	19	49

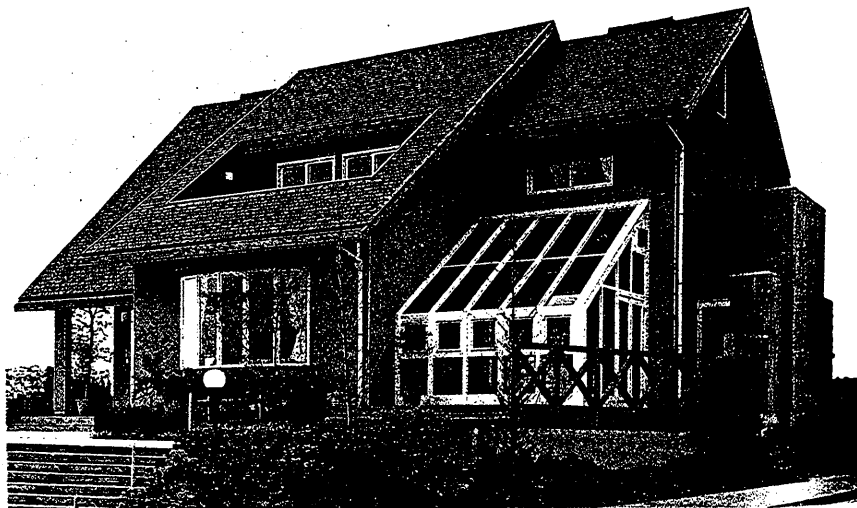
(注) \* 1970年には沖縄は合計に含まれていない。  
 (資料) 総務庁統計局「国勢調査」各年。

This is based on the national census.



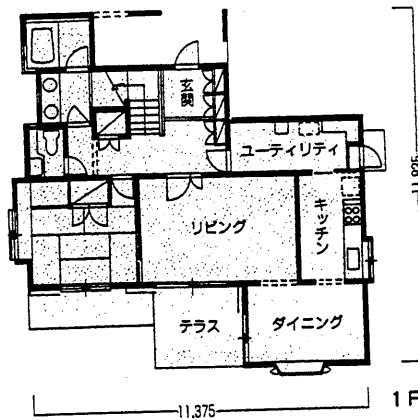
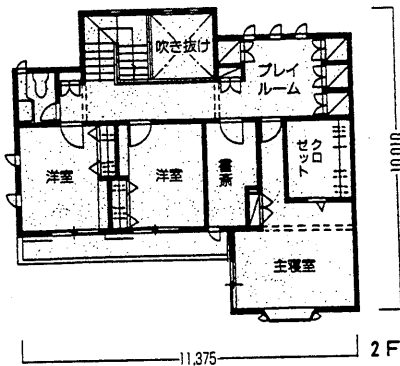


Picture D-1  
 Modern Japanese house combining the Washitsu with the YOSHITSU.



FRAGRANT (フレグラント)

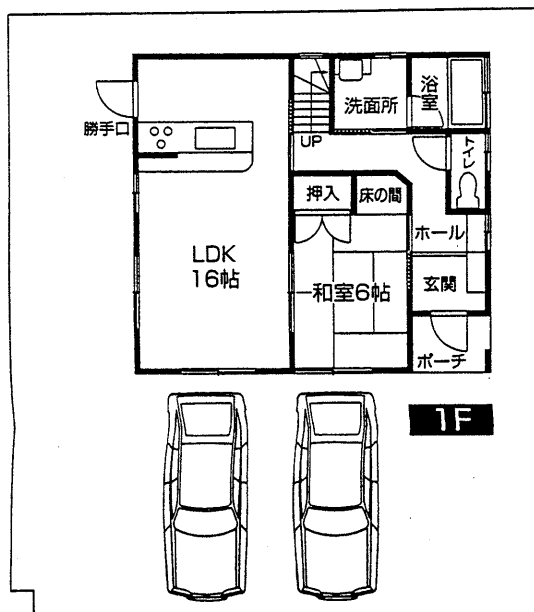
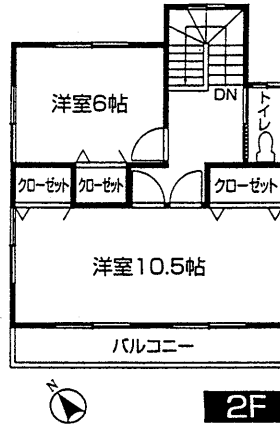
1F床面積 80.40㎡  
2F床面積 81.01㎡  
延床面積 161.41㎡



リビング、ダイニング、和室には掃き出し窓がとられ、和室の前には和庭、リビングとダイニングの前にはテラスとアウトドアとのつながりもよく、道路側には車二台分の駐車スペースが建物とトータルに計画されています。北玄関の暗さを補うために、ポーチの底の一部をオープンにして植栽を設けるなど、細かな配慮も見逃せません。

Picture D-2  
Modern Japanese house following latest fashion.

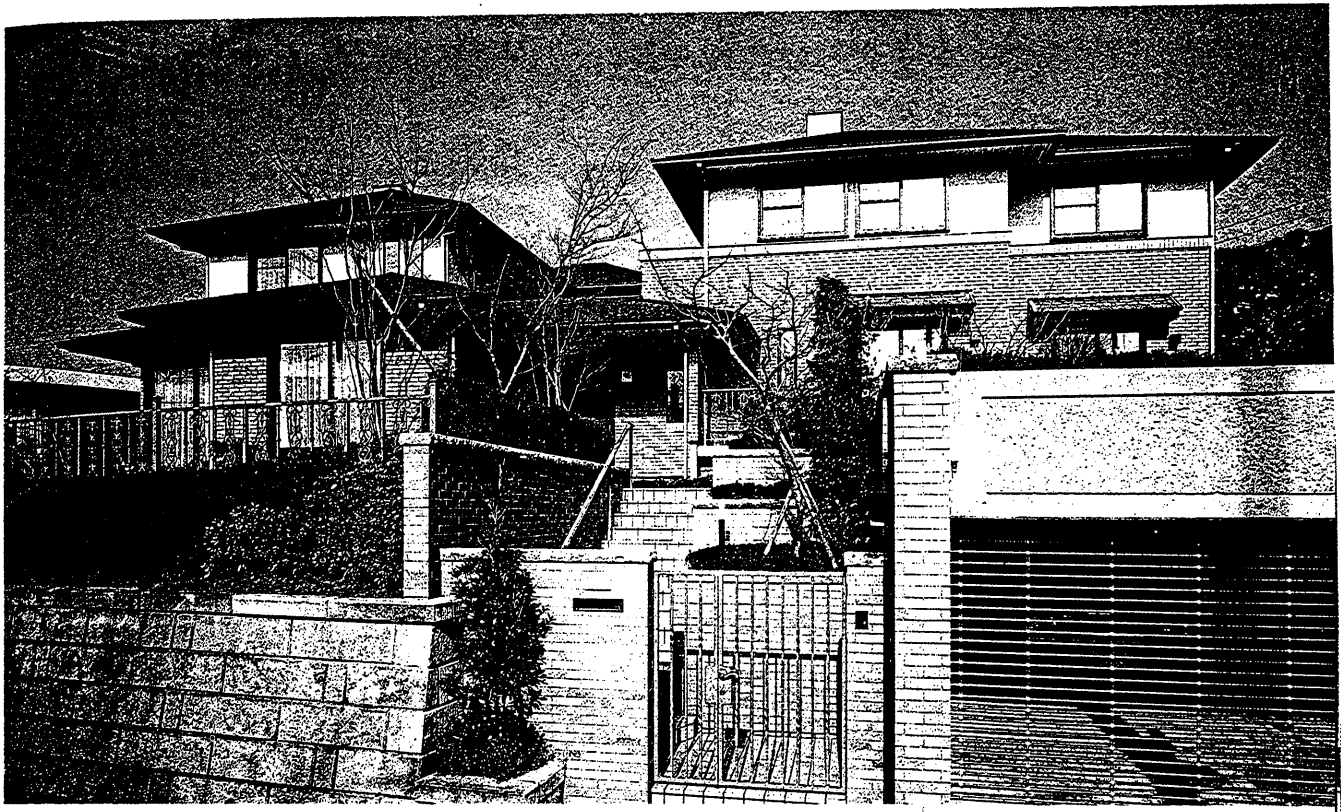




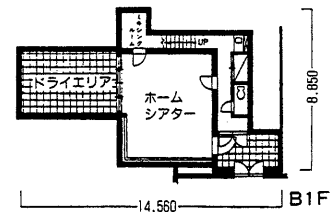
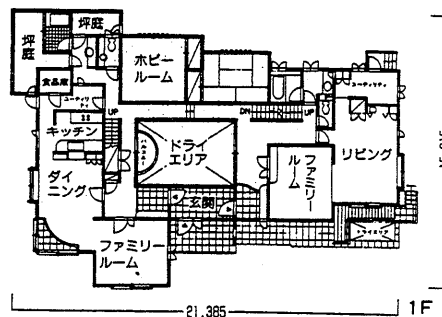
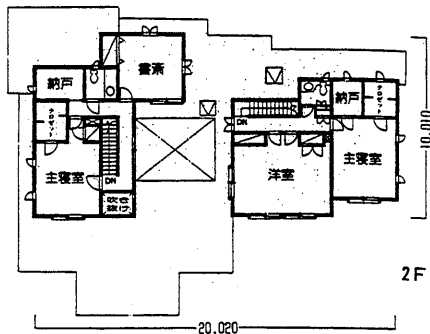
Picture D-3

Modern Japanese house which has all YOSHITSUs without any WASHITSU.

# “隣居”感覚の二世帯住宅



B1F床面積 / 51.66㎡  
 1F床面積 / 181.45㎡  
 2F床面積 / 116.49㎡  
 延床面積 / 349.60㎡



- ①二世帯の暮らしをイメージした2つの塔からなるような堂々たる外観。道路と敷地の高低差を生かし、右手にガレージを設置。奥に地下室が続く。
- ②防音完備、最新の設備を導入した地下のホームシアターは、マニア垂涎の本格派。隣家に気兼ねなく音にひたれ、ホームパーティにも格好の場。
- ③地下室のドライエリア。中庭的役割も果たし、周辺の部屋に光や風を運ぶと同時に、二世帯の生活ゾーンをさりげなく分けている。
- ④両親用の浴室。二方に坪庭を設けて寮で囲い、大きな窓を設けて開放的に仕上げている。室内の壁も外壁や塀と揃え、一体感を強めている。浴槽はヒノキ。

Picture D-4

Magnificent Modern Japanese house where three generations live together.

### Ⅲ. ポーランドでの第三回方言学者地理言語学者国際会議

#### ---- 原題 " A Geolinguistic Study on the Greeting Expression and Behavior in Japan " ----

#### 1 Introduction

##### 1.1 A General Study of Geolinguistic in Japan

Many cases of Geolinguistic Studies in Japan have aimed to study voice, grammar and vocabulary. For example, the "Linguistic Atlas of Japan", the "Grammar Atlas of Japanese Dialects" and the "Linguistic Atlas of Seto Inland Sea" have been pointed out the same examples as those. The author's method, too, looked like the same way of study. For instance, the study of his former works that adopted in the journal, "Dialectologia et Geolinguistica" is based on the traditional methods. That title of the paper is "A New Interpretation of Dialect Atlas Data of Two Age Groups in Japan".

##### 1.2 Author's new project

On this author's study of this time is selected the sentence and language behavior as the investigation items. That is to say, the project has examined systematically the total greeting expressions and greeting behaviors. Then we came to need another new way to interpret the linguistic atlas. At last we knew that the history of the synthetic human life should be drawn out.

##### 1.3 A Characteristic of the study of the greeting expressions and greeting behavior

All items of the questionnaires are concentrated to the greeting expressions and greeting behaviors. Natural greeting life are divided in 11 areas. The field survey was conducted on all over Japan by my field work and postal research. In the case of the interpretation of the dialect atlas, it came out to be clear that the human data were necessary for explaining social change and human exchange.

##### 1.4 purpose

The aim of this report is two. One is trying to interpret the linguistic atlas to the family at the first meeting in the morning. And second is the another aim to interpret the atlas of the greeting expression and behavior to the family in the case of starting in the morning.

In this report we will use only 3 sentences of 88 questionnaires.

#### 2 Method

##### 2.1 Dialect questionnaire

In order to study systematically the greeting expression and greeting behavior, they are

classified in 11 categories as follows:

1) morning, afternoon, night; 2) farewell, leaving, sending a person off; 3) labor; 4) marriage; 5) shopping; 6) funeral; 7) courtesy of life; 8) thanks, apology, exchange of gifts; 9) inquiry; 10) annual events; 11) social intercourse.

In this report, we picked up only 3 items out of the greeting expressions and behaviors in the morning.

## 2.2 Investigations

a. Fieldwork from 1994 till 1997 by the author. One village for each prefecture. Total 47 locations.

b. The first postal survey from 1996 till 1997 on all over Japan.

c. The second postal survey from 1999 till 2000 on all over Japan.

In this report, we will use the Japanese dialect data of about 1100 informants collected from about 500 locations.

## 2.3 The method of making the linguistic atlas

In this time, we took the hand-made way using the stamp. But we will change next time to the computer method.

## 3 Greeting expression and behavior to the family at the first meeting in the morning

### 3.1 On the interpretation of the Map 1 『 Greeting expression to the family at the meeting in the morning 』

On this map, all data collected from 1994 till 2000 have been displayed. The questionnaire is "How do you say to the family each other at the first meeting in the morning?"

#### 3.1.1 On the broad distribution of all Japan of OHAYOOGOZAIMASU or OHAYOO.

We can see the small round mark on all over Japan island. That represents the word of OHAYOOGOZAIMASU or OHAYOO. This is the standard expression form. This is the regulated form that say to others when anyone waked up. These means that you have got early morning or we have met together early. Praising others to meet early morning has been included in these.

By the way, it seems to be seen the sense of solidarity in Japanese family members. It looks natural not to say any words each other among the family.

On the contrary of the local sense, the OHAYOOGOZAIMASUs distribute on the whole country. It is recognized that the word has diffused newly after the modern age.

#### 3.1.2 On the scattered distribution in whole Japan of the OKITAKA, MEGASAMETAKA.

The OKITAKA means "Did you get up?" and the MEGASAMETAKA means "Did you wake up?". Both took place the confirmation of the exact deeds by the words. It is not skillful entirely. The way of thinking seems primitive before critics and not cultivated. Thus expression like

drawing to sketch the way of thinking .

### 3.1.3 1 Language- deed as it were "Nothing any words"

Many Star marks mean the silence can be seen on the whole Japan broadly. That indicates us that many members of the families in Japan do not exchange any words for greeting at the first meeting in the morning. What does it mean?

Now we shall consider the meaning of the star marks.

3.2 Why do the star marks located far distant from the central spot , where are the central places of the prefecture ?

Now there is the Map2 . This is the atlas of 『A comparing the Star marks with the prefectural places』 . Seeing the Map 2, almost all star marks seem to be distribute far from the prefectural places. Generally speaking ,the place of the prefectural office were crowded by amount of population. At the place of the rural areas that are far from the urban areas , star marks exist. So to speak, at the depopulated district, star marks have been distributed. Then the distribution of the greeting behavior of silence may suggest us the truth based on the old Japanese convention.

3.3 Why do the star marks distribute mainly at the mountain areas ?

This Map 3 is showed 『A comparing the Star marks with the situation of the mountain ranges in Japan』 . The mountain lines of the 1000m high have been drawn in this map. Seeing this map, the places which people does not have exchange any particular words at the first meeting in the morning, are located in the mountain area without few example. Thus star marks can be seen without plain field . It can be imagine the reference with the old Japanese life-custom , which is different from the urban life. There are remaining the silence behavior among the family in the morning at the thinly populated area. It was proved that the custom of the greeting in the morning in the traditional rural society in Japan is no words .

3.4 Traditional greeting behavior in the morning regulated to say only for the relatives and blide.

Now we will see the Map 4 『A Greeting Expression to the relatives at the first meeting in the morning』 . This is the map of the collection of the informant' comments which received at the field work. These comments are considered important for the interpretation of the atlas.

It is remarkable that the family- greeting deed of the blide in the morning is performed to the grand father and mother, even if there are no words during family.

Map 4 shows us by the informant -comments that the blide must say the greeting to the parent-in law. Those comments are as follows;

Spot 1, Tozawa-village, Yamagata Pref.( Terauchi Kinbei 1929b.Yamauchi Sakuko1928b.Kobayashi Sadako1928b.) "The blide usually says to the grand father and mother in law ,OHAYOO-GOZAIMASU.But they do not say it each other.The father-in law responds to the blide ,OHAYOO."

Spot 2, Torigoe-village, Ishikawa Pref. (Shimada Katsumi1929b.) "Among the family, we have nothing any greeting words in the morning. But the blide usually says the greetings to the parent-in law very respectfully. For instance, she must do with touching both hands to the tatami. Especially polite words to the head of the family."

Spot 3, Minami-Yamashiro village, Kyoto Pref. (Tenaka Sadayuki1912b. Iga Kimino1915b. Matsumoto Tamotsu1922b.) "The daughter-in-law, blide said OHAYOO-SAN to the parent-in-law. Then, father-in-law responded her OHAYOO or HAYAIDE. There is no words during son and father."

Spot 4, Toyooka village, Shizuoka Pref. (Matsushita Masao1918b. Matsushita Shizuno1922b.) "If relatives happen to lodge in our house, we usually say greeting words each other in the morning. In daily life, we do not say greeting in our house. We have no experience being forced to say the greeting others."

Spot 5, Ikuno-Machi, Hyogo Pref. (Hashimoto Haruo1932b. Fujimoto Tsuyako1925) "When the relatives happen to stay our house, they usually say in advance to us the morning greeting, OHAYOO-GOZAIMASU. There is no greeting expression every morning in our house."

Spot 6, Shiga-village, Nagano Pref. (Oguchi Nagimi1922) "When my elder sister, a blide, visited the house of the real parent 7 days after her marriage, the member of the former family said her, OHAYOO, or OHAYOO-GOZAIMASU. Because we do not say greeting words before marriage, that event made me feel that she had become another family's member. It is the memory ever since I can remember."

According to these comments of the informants, It can be recognized that there are no greeting behavior every morning in traditional family at the rural area in Japan. But in the case of living together with 3 generations, the dauter-in-law, blide, have had the duty to speak previously to the parents in law. The greeting deeds indicate clearly that both sides have thin blood- relation. Even if several decade passed, the dauter-in-law had been dealt with the same greeting system among the family.

3.5 Japanese traditional structure of the house, Syoji or Karakami, prevented the every morning- greeting among the family.

In the traditional Japanese houses, the metal and concrete material do not have been used. Combinating the timbers skillfully, the strong houses which can endure the earthquake and avoide the humidity have been constracted for a long time. Especially in the rural area, there were wooden houses with thatched roofs could be seen till 40 years ago. Those houses were constructed thinking about the ventilation.

We do not have seen the European doors with the locks or keys in our traditional Japanese houses. Many rooms in the traditional houses in Japan are connected. (Picture

B-1,B-2,B-3,B-4,B-5) There exist no room which is closed completely such as keeping the right of the privacy. The old houses in the rural areas have rooms divided simply by Shozi or Karakami made of paper with wooden frame.

The Shozi is the paper sliding screen and the Karakami is paper sliding door. At upper part of the each room, there is the Ranma, transom, which takes the light from the window. The light and sound leak out from the Ranma windows. (Picture A-1, A-2)

It may be said that the Japanese structure of the houses, which is easy to concentrate the whole consciousness of the family.

But the high growth of economy began from about 1950 in Japan. In 1968, the Tokyo Olympics year, young population have concentrated in the big urban cities. (Picture C)

And then they have constructed the modern european -style houses constantly all over Japan . (Picture D-1,D-2,D-3)

So-called "My-Home Syugi", the vogue means the negation of traditional housing of Japan. As the new vogue of "Kaku-Kazoku "is explained as 2 generation living together, the young couple escaped to live with 3 generations. (Picture D-4) There are few chances to continue the olden life customs.

In the "My Home", our own house, the private rooms have been given to each children. Each member can lock the key the private room and want to keep the feeling of solitude. Since 1960, the changement of the living environment, has caused to produce the chance to meet with the family members individually every morning. Thus lately, we come to see the meeting in the houses every morning. They do not think the resistance even though they experienced daily greeting to their family .

Conclusion;

(1) It is the oldest custom that do not have greeting behavior to the family at the first meeting every morning. The expression of OKITA-KA or MEGA-SAMETA-KA are new. The expressions of OHAYOO-GOZAIMASU or OHAYOO are the standard newest saying.

(2) The old Japanese greeting customs of silence to the family, have been maintained in the rural areas by the two reasons of the traditional house-structure and the one -body character of the blood relation.

(3) But after 1960s, on account of the swift change of economical society, the former custom and value consciousness have become not available. Because of the revolutionary change of the housing structure and living life, the standard greeting, OHAYOO-GOZAIMASU, has diffused all over Japan.

Secondly, the author will try to interpret the another linguistic atlas data of the greeting behavior.

#### 4 A greeting expression and behavior to the family in the case of starting every morning

##### 4.1 On the Map 5 『"TATEMAE", Greeting expression and behavior to the family in the case of starting in the morning』

On this map, the results of the postal survey for about 70 years old adults in Japan have been drawn. Two kinds of the greeting expressions have been combined one map like follows, and the data will be displayed the dialogue style.

Question 2; How do you say to the family seeing off, when you are going to start in the morning?

Question 3; How do you say to the family seeing off at the front door in the morning ?

Map 5 were unified the data collected by the question 2 and 3. This map is made of by the data based on the postal survey from 1996 till 2000.

On the interpretation about this map 5 , we will have remarkable 4 points as follows.

4.1.1 There are very few star marks on the Map 5. The star marks mean the silence. This star mark can be seen at the Shizuoka Prefecture only. Why is the star mark few ? At the only one location of the Totori Prefecture, It can be seen the silent response to the speaker, in spite of the morning greeting of ITTE-KURU. It is unique example in the 500 dialogues.

4.1.2 Nextly we shall look at the distribution of the triangular marks. These are the pair conversations that the family member says to the remainder , "ITTE-KURU" and then the remainder responds "ITTE-KOI" to the former . The pair of the calling and response is the basic pattern . There can be no honorifics in both sentences. The both sides are exchanged equally without difference of up and down relation. It is remarkable that are distributed on the many places over Japan.

It was true that we had equal relation during the worker and remainder in the houses at the rural area from ancient age. It means that there were free human- relation permitting talking with each other without honorifics in the houses. Also, many triangular marks of drawing out white color , showed us the unbalanced greeting deeds among the speaker and the responds.

4.1.3 The other remarkable point is the small round mark being drawn out.

The round marks can be seen strongly on all over Japan. But there is few in Tohoku area . This mark indicates the dialogue of honorifics that the starting person says like, ITTE-KIMASU to the family , and the responding person answers like this , ITTE-RASSHAI. We can see the honorifics at the predicate , for example, MASU or RASSHAI, in both sides. This is the smart sense that expresses the honorifics at the greeting chances even to the family. It suggests us that this standard urban style of greeting became to be used broadly in Japan.

4.1.4 The author will regard this map 5 as TATEMAE-no ZU. The TATEMAE is opposed to



HONNE. The TATEMAE means the surface and foreign policy. Even though there were any differentiations with the facts, it suggests to cover the events and makes up the conversation by the standard style. Only one star mark proves that this map5 is really the TATEMAE-no-ZU.

On the postal survey, we might have got the answers of the TATEMAE than HONNE. The author will guess that they must have answered the standard sayings by imitating the urban style.

But we should point out strongly the next fact. In Japan, before 1960, there were not few peoples who engaged in the same occupations together as one family. At that 1960 age, the occupations of the agriculture, forestry, fisheries and cottage industry and so on were popular in that society. And at that age, the number of the salaried man were not so much. However, after 1960, the society of Japan had very rapidly changed to the industrial country that the number of the salariedman became increase. Because of the growth, the life-style which leave the houses in the morning and come back evening have increased certainly. It is true that the urban style of the greeting deeds with honorifics are increasing gradually.

Nextly, we should think about the distribution of the Map 6, which is "HONNE"no-ZU.

4.2 On the Map 6 『 "HONNE", An analysis on the Inner world of the greeting expression and behavior to the family』 .

In this map, the data have been described by my field survey from 1994 till 1997. Each 47 villages of the prefectures in all Japan, had been surveyed by the same interviewer. In the map 6, the numbers of the dialect data and the local spots are coincident each other.

In this map we can be point next 3 points.

4.2.1 Now, we shall see the star marks that mean the silence each other. The 6 points of the star marks can be recognized on the seeing off in the morning. It is noteworthy that the response of 20 % of 47 locations are no words seeing off the family. According to this fact, it does not need the greeting expression and behavior when someone will be going to work on the rural society in Japan. Moreover, The answers are completely silent in the villages of the Tokyo and Kanagawa prefectures, which have many population. As the reason of it, the informant said that they will turn each other to own works swiftly, because they respect together and be busy in the morning. The life of the village are not simple. The worker of salariedman usually does not return back home again after leaving home. But the life of the village is visible around the house. The family members meet many times in a day. Therefore it need not to explain the reason to meet with. In these village societies that keep the traditional lives, it is difficult to make exist courtesy greeting deeds in the families.

4.2.2 Next, also, we want to see the triangle marks. This ITTE-KURU is balanced with the ITTE-KOI. This dialogue does not have honorifics. On the field survey, we can see such saying which have not honorifics on rural area in Japan. It is very natural that we do not see the

honorifics on rural area, because that is usually used as a courtesy to the respectable person or upper class person.

We can see the plain dialogue in both map 5 and map 6, which have not honorifics.

4.2.3 The round marks are very few. On the Map based on the field survey, the standard dialogue of the greeting expressions, "ITTE-KIMASU and ITTE-RASSHAI" pairs are very little. In the country area, they need not imitate the urban manner. The greeting deeds are fairly different from the urban style.

From the distribution of those Map5 and Map6, following 4 points of the results came out;

< conclusion >

(1) Map 5 is recognized a linguistic atlas of "TATEMAE" based on the postal survey. It is regulated in the urban life that exchange the greeting expressions and behavior to the family at the seeing off every morning. There is an inclination to answer the standard style in the case of the postal survey. The increase of the urban behavior of the greeting depended upon the Japanese economical development after 1960. This is a sign of Urbanization.

(2) Map 6 is thought a linguistic atlas of "HONNE" based on the exact field survey. Many people of the village engaged in jobs near the small community. At that circumstances, it is rare to see the greeting behavior of seeing off every morning.

(3) It is a rural custom that do not say words to the intimate family of the blood relation in the morning. Also, the morning expressions are performed simply without honorifics.

(4) The distribution of the Map 6, will gradually change into that of Map 5 because of the urbanization. The "HONNE" become disappear and the "TATEMAE" will increase gradually.

At the end of the comment;

Like these description, the author tried to interpret the linguistic atlas of greeting expression and behavior in Japan. In this paper, the dialect atlas of only 3 questions were studied.

Now, there are 85 items remained, which are to be interpreted in near future. The author can not imagine how many problems there are to solve them.

We could interpret the atlas by applying the phonological rule, the wave theory, analogical change, homonymic conflict, and homonymic attraction etc. till now. But on the interpretation of the linguistic atlas of the greeting expression and behavior, we could not utilize these rules at this time.

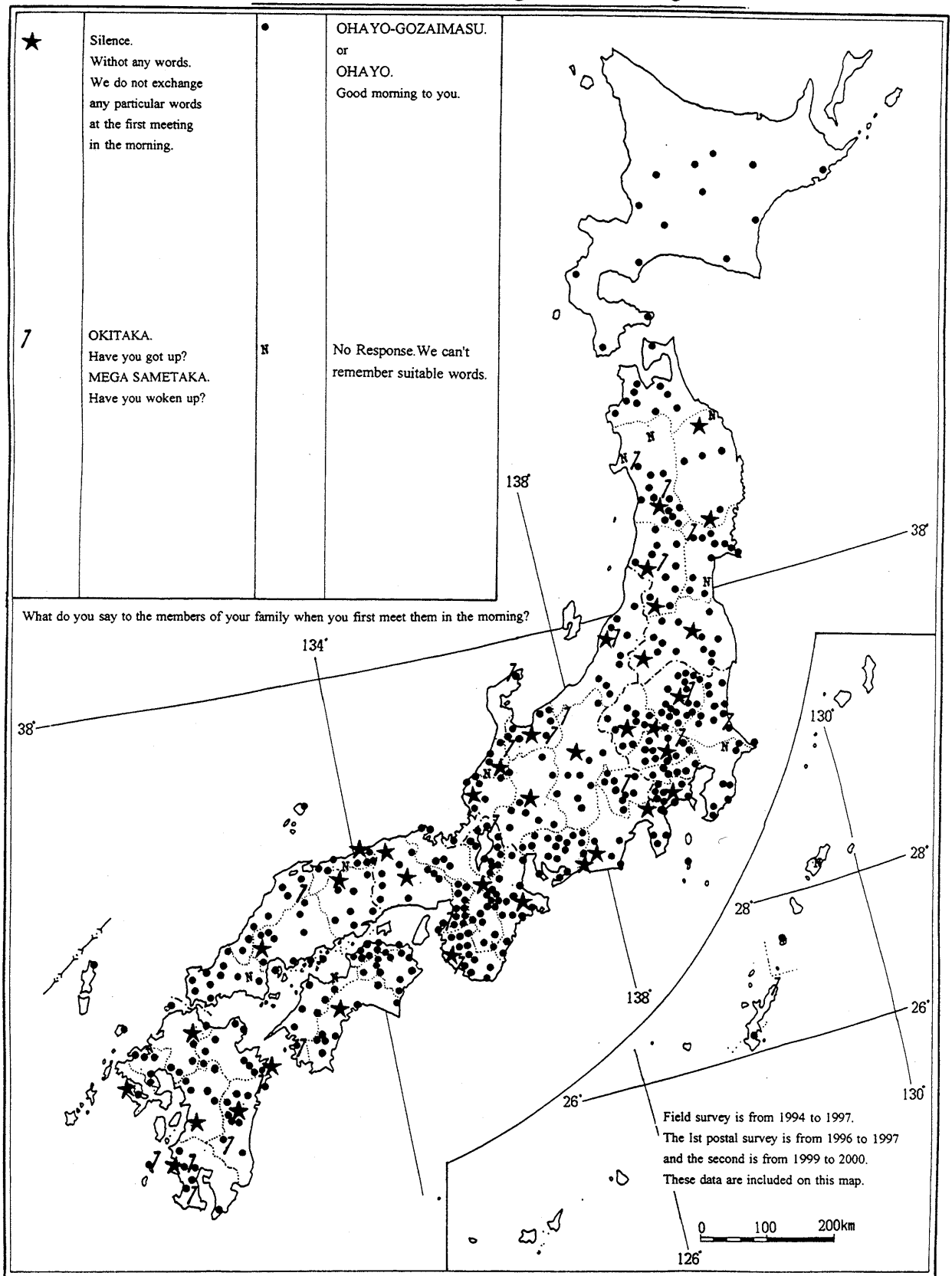
Lastly the author repeatedly want to declare like these:

a. When we study the linguistic atlas of the greeting expression and behavior, we must consult the change of the human view with the economical situation and settlement environments. It is the reason why the linguistic atlas display the history of the human life. And then, we need the synthetic view points to interpret the linguistic atlas.

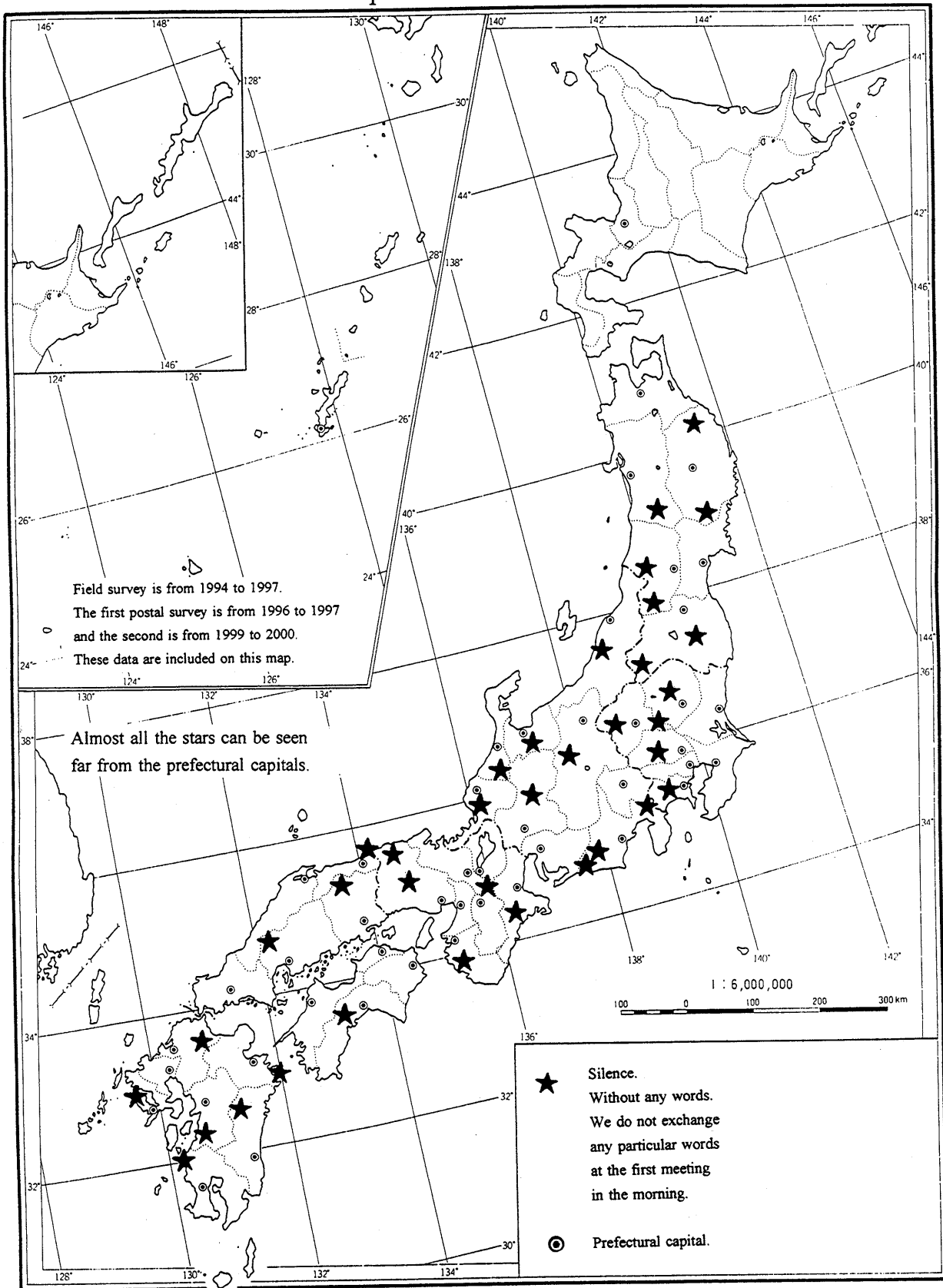
b. For the sake of the development of the geo-linguistic study in 21 century, we must study the language deeds as the items of the questionnaire actively and try to interpret them dynamically.

(July 28,2000)

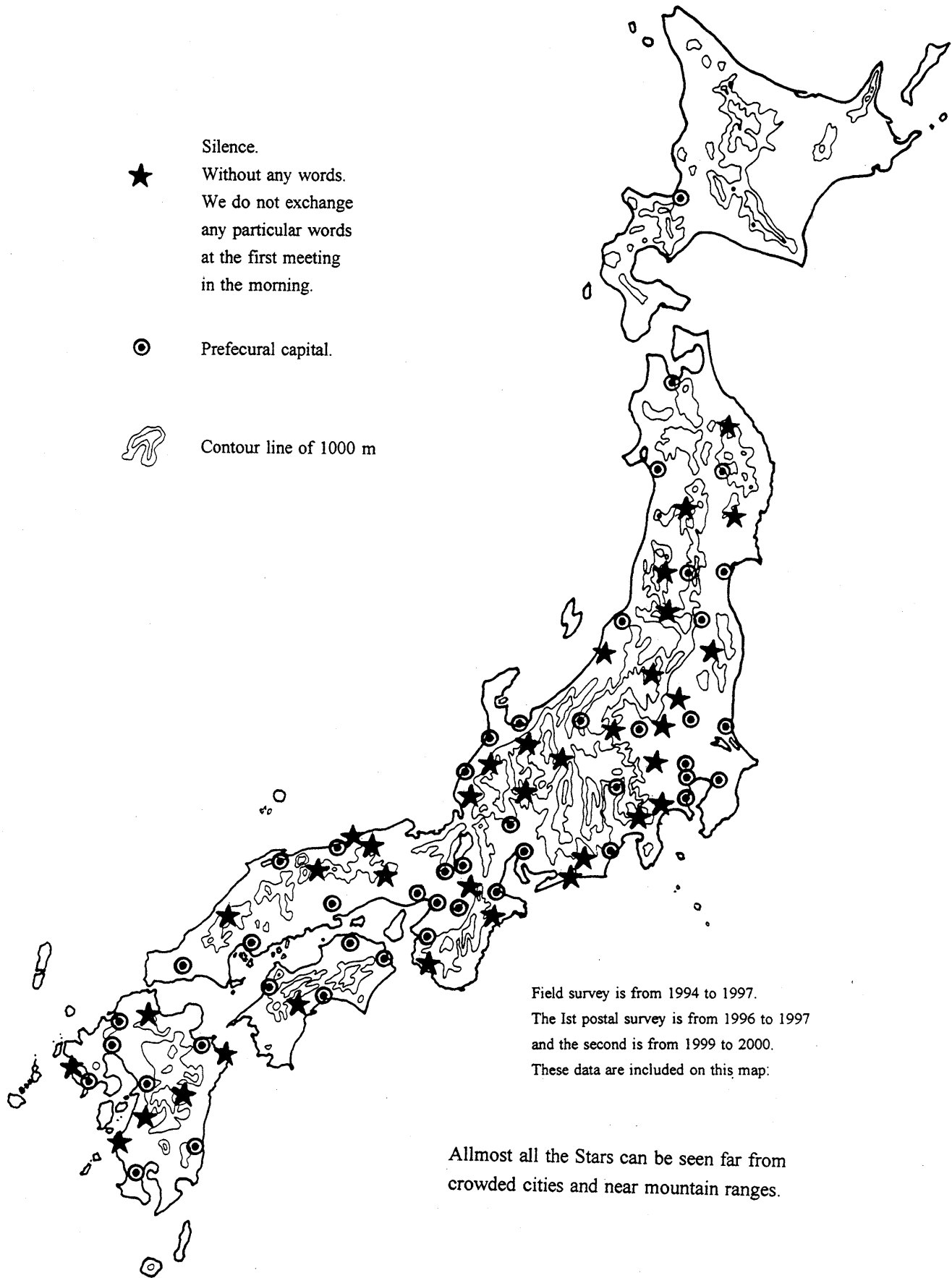
Map 1 Greeting expressions to family members at the first meeting in the morning



Map 2 Comparing the Stars with the capital cities  
of each prefecture



Map 3 Comparing the Stars with the location of mountain ranges in Japan

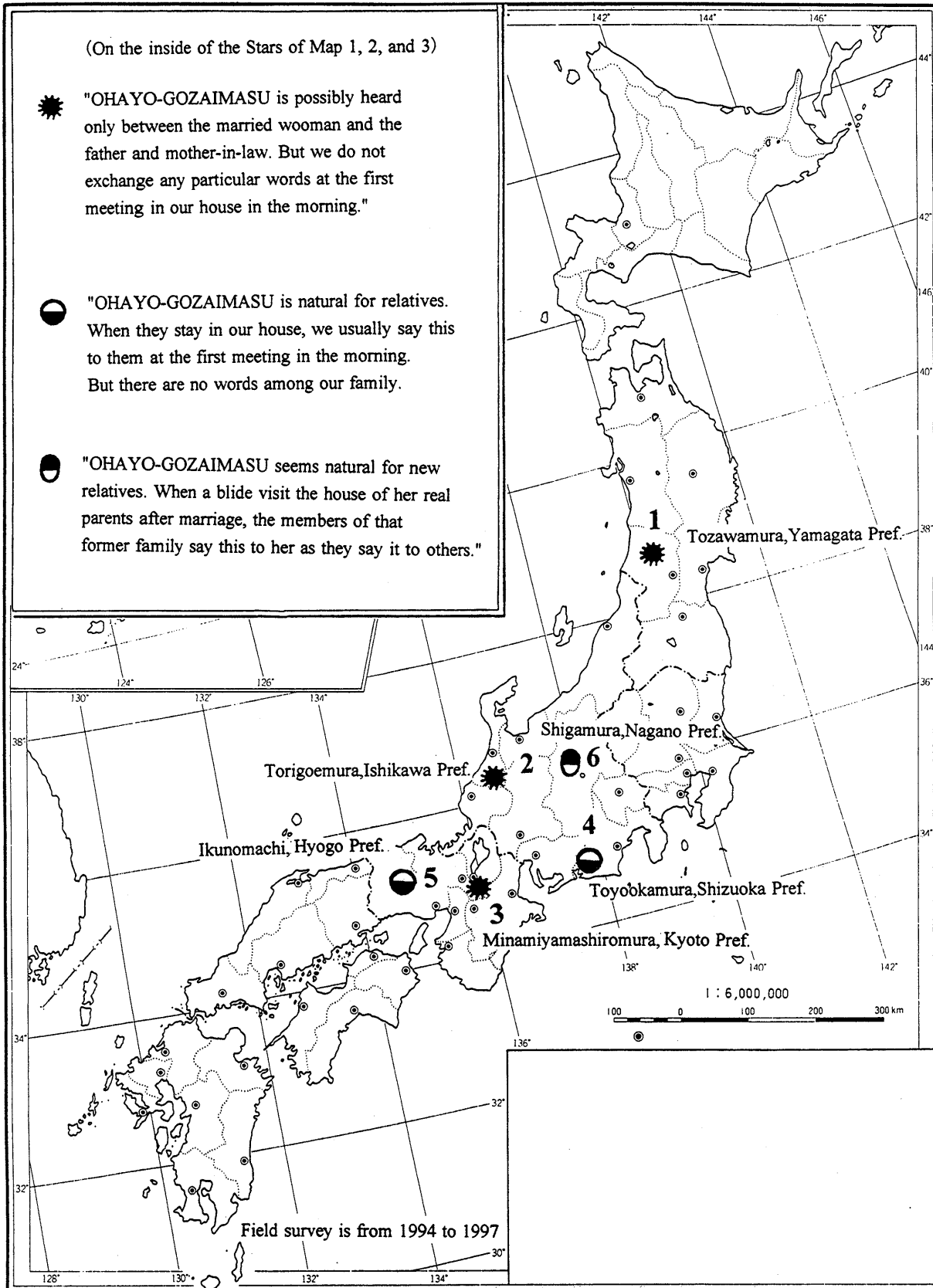


- ★ Silence.  
Without any words.  
We do not exchange  
any particular words  
at the first meeting  
in the morning.
- ⊙ Prefecural capital.
- ⌚ Contour line of 1000 m

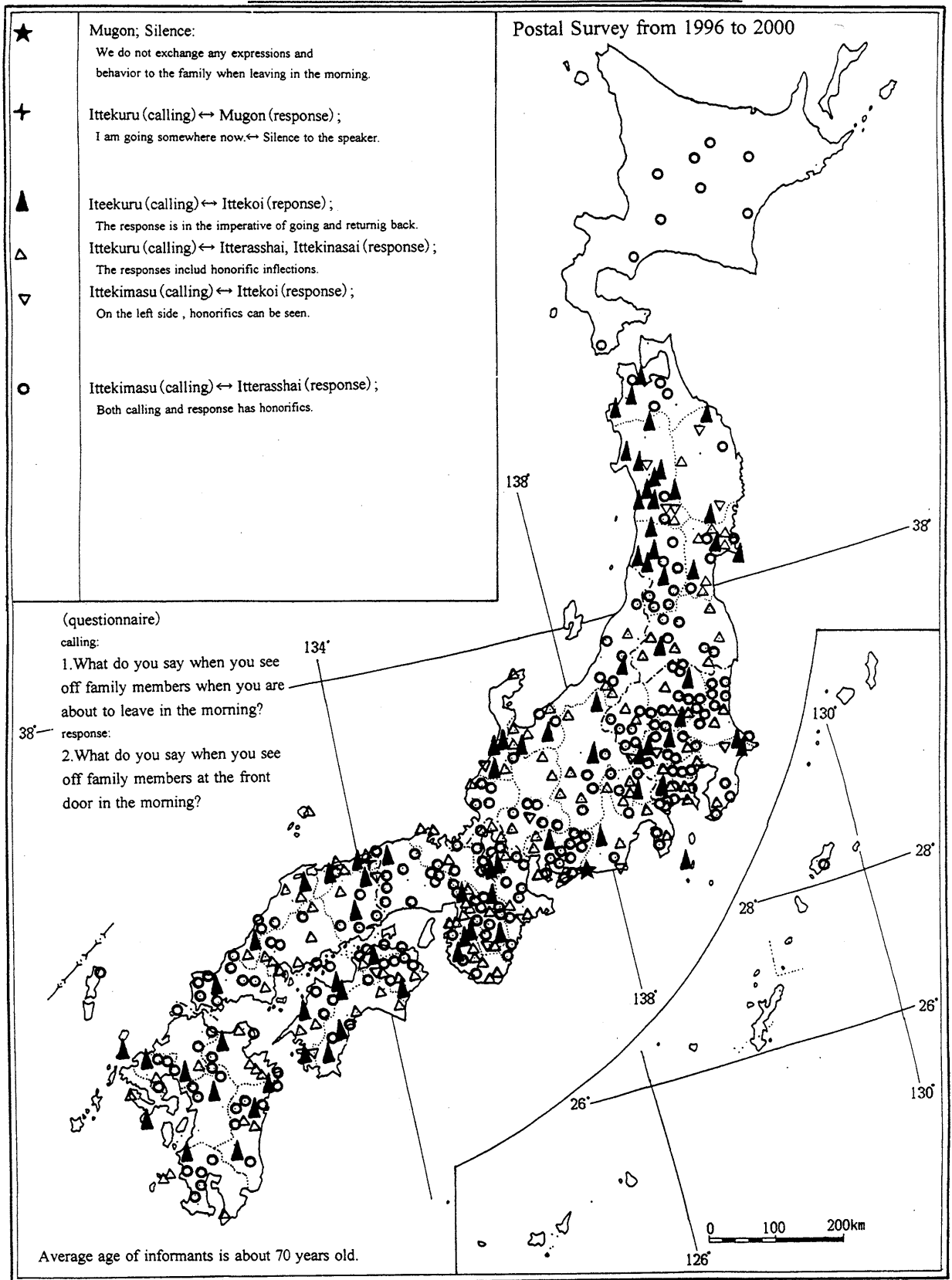
Field survey is from 1994 to 1997.  
The 1st postal survey is from 1996 to 1997  
and the second is from 1999 to 2000.  
These data are included on this map:

Almost all the Stars can be seen far from  
crowded cities and near mountain ranges.

Map 4 Greeting expressions between relatives at the first meeting in the morning



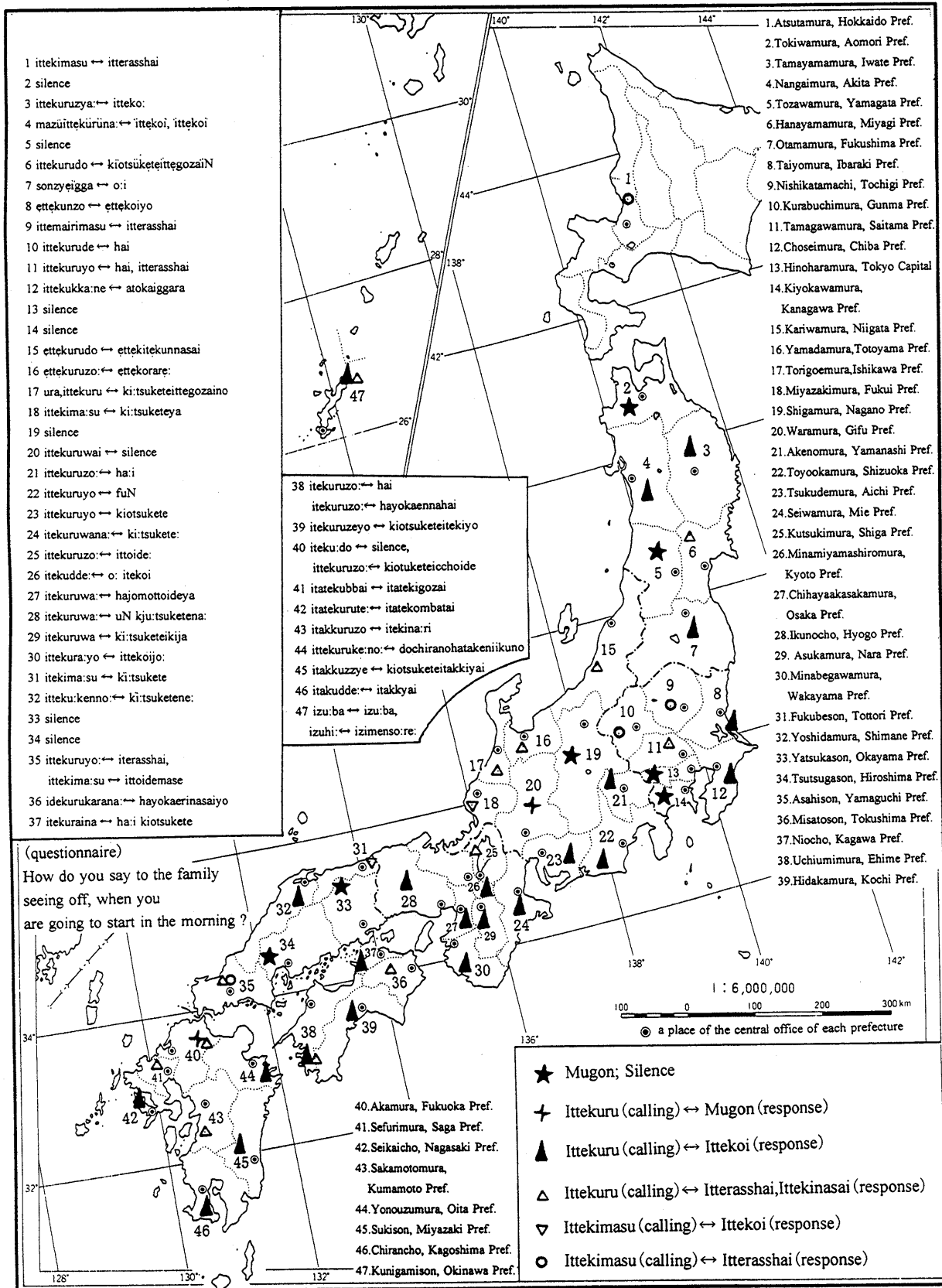
Map 5 "TATEMAE", Greeting expressions and behavior to the family when leaving the house in the morning



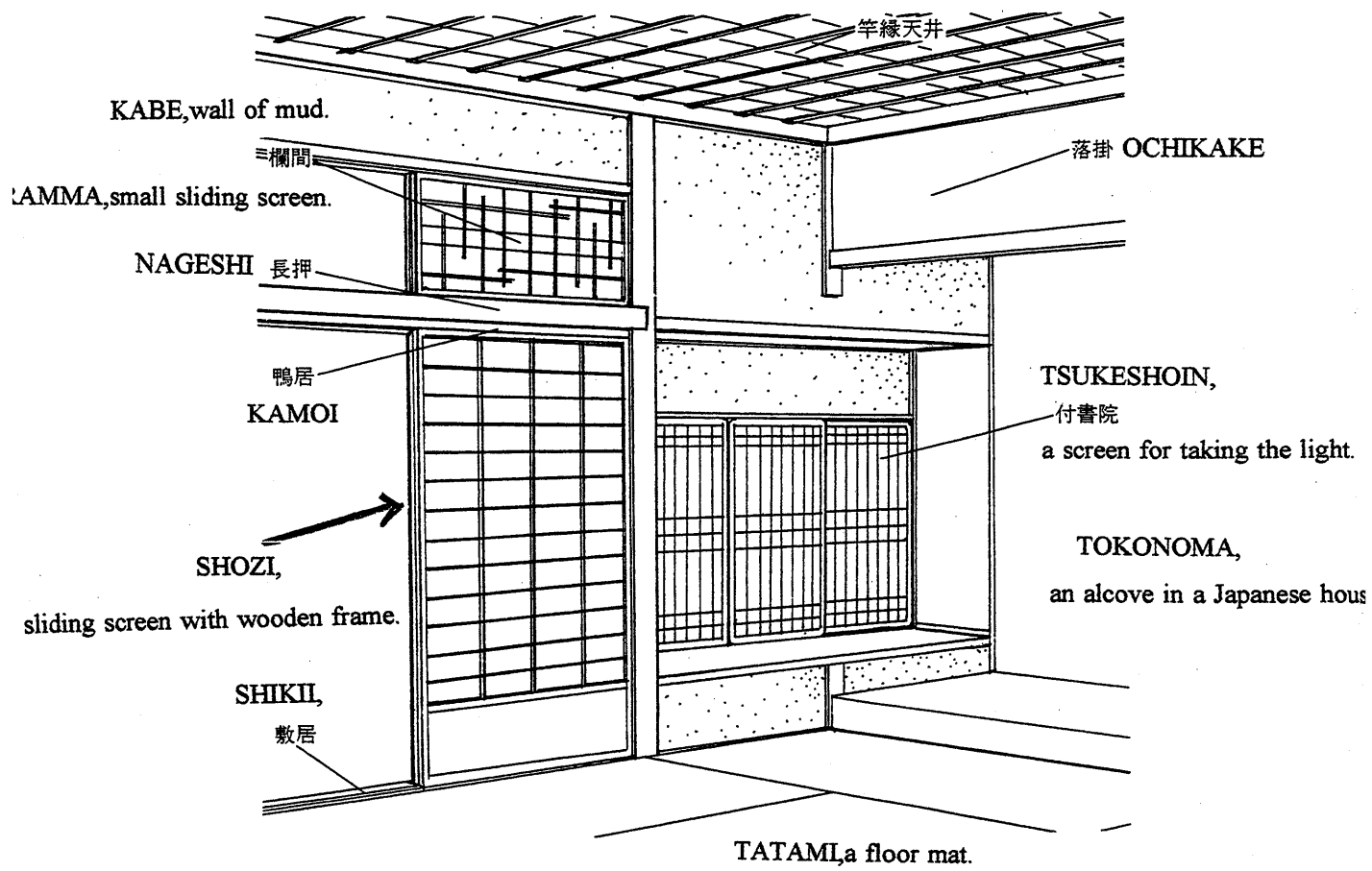


Map 6 "HONNE", An analysis on the Inner feelings of greeting expressions and behavior to the family

Field Survey from 1994 to 1997

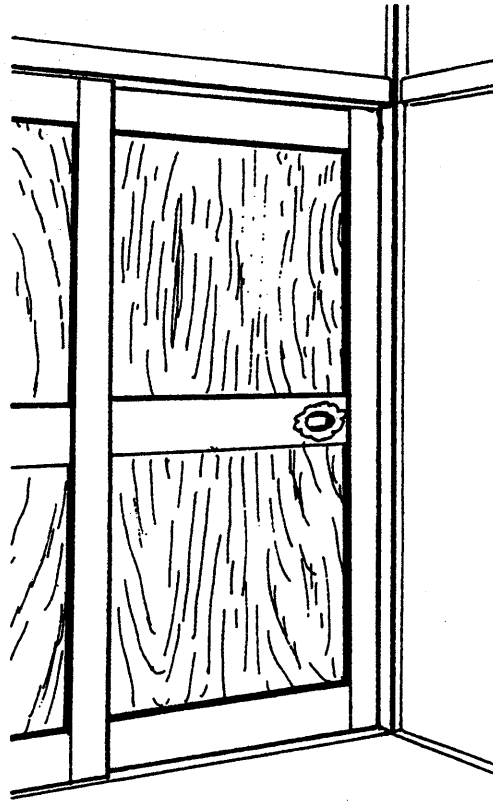


Average age of informants is about 70 years old.



Picture A-1

The inner situation of the ZASHIKI , most important room for guest. SHOZI or RAMMA can be seen.



帶 戸

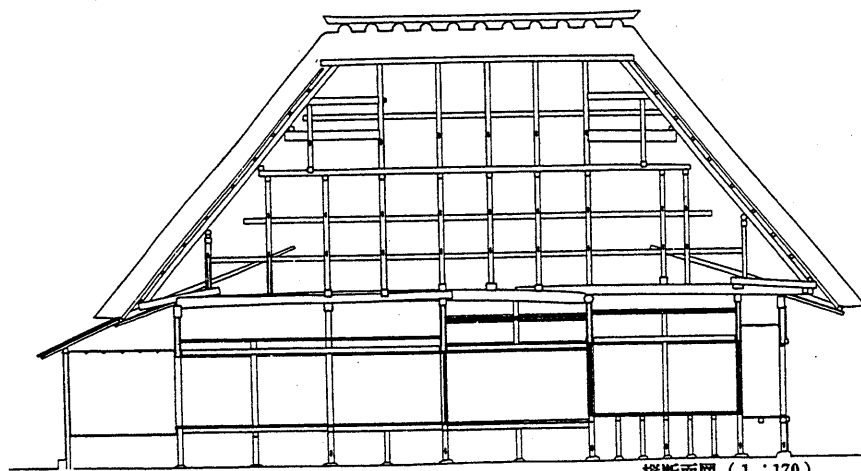
Picture A-2.

OBIDO, sliding wooden door which can divide the neighboring rooms.

祖谷山三六名は、いずれも中世の名主を中心とした村で、名主のなかには山岳武士であったという伝承を持つ家が少なくない。

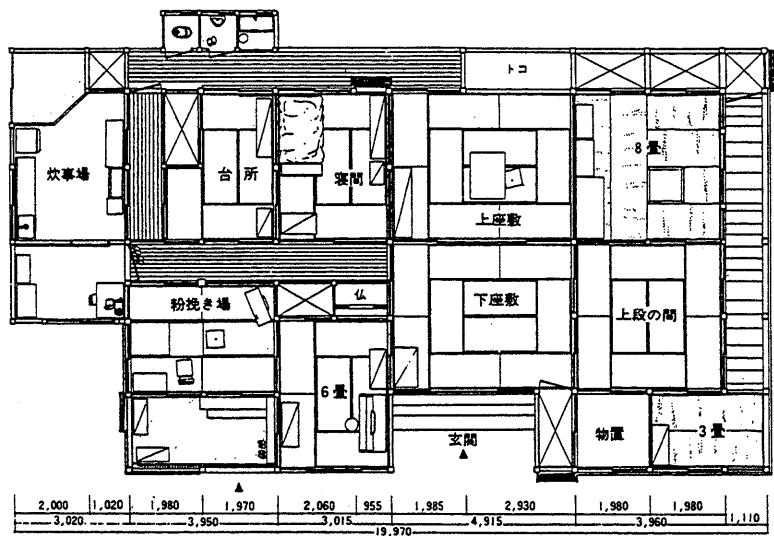


阿佐名の名主阿佐家



縦断面図 (1:170)

このように祖谷山は山深い山村であるが、古い時代から人びとが住みつき、峠道を通じて外の世界とほそほそとつながりを持ち、中世の文化が吹きたまりのような形で残っていたのである。

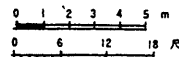
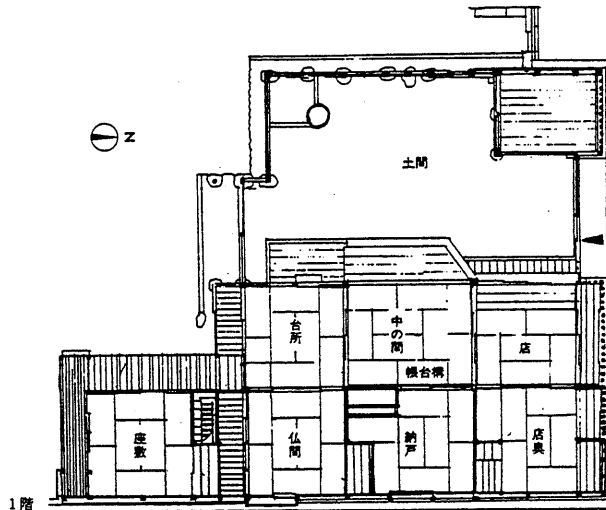
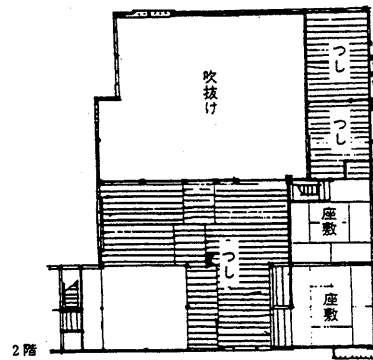
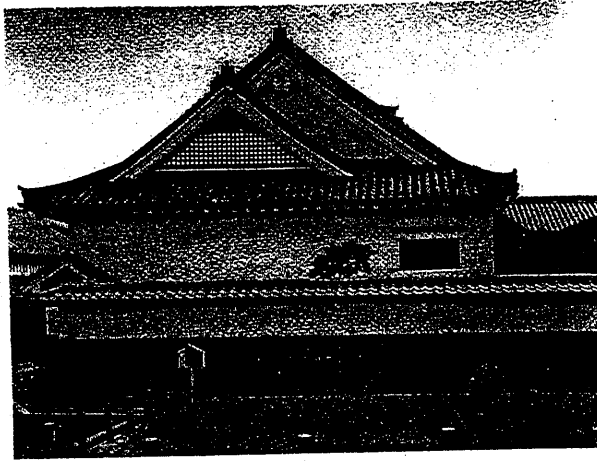


阿佐利昭氏宅平面図 (1:170)

Picture B-1

The old big traditional house which was constructed in the middle age with thatched roof.

Tokushima Prefecture in Japan



今西家主屋平面図

大和今井町最古の家 今西家

今西家は豪族十市氏の一族で、永禄九年（一五六六）にここへ移住、三代目あたりから今西と改姓したとみえる。

棟上 慶安三年  
和州今井大工棟梁 曾我藤原朝臣

参月廿貳日

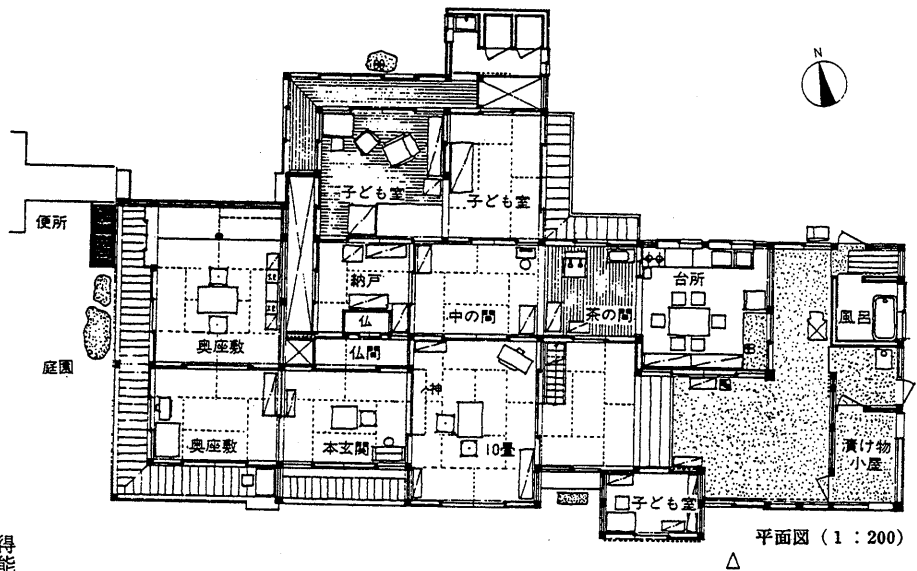
金兵衛

Picture B-2  
Traditional house which was constructed in 1566.  
Nara Prefecture in Japan



主屋には玄関を構え、庄屋の家の風格がある

広島県比婆山地の東城町は、名勝帝釈峡の北方にあつて、古くから鉄を生産した土地として知られている。



得能家には、天保年間（一八三〇―四四）に描かれた家相図が保存されている。中国山地の旧家には、旅の占い師がやってきてはその家に滞在し、家相を見て歩くことが江戸末期から明治にかけて行われていたようだ。

得能家長屋門



Picture B-3

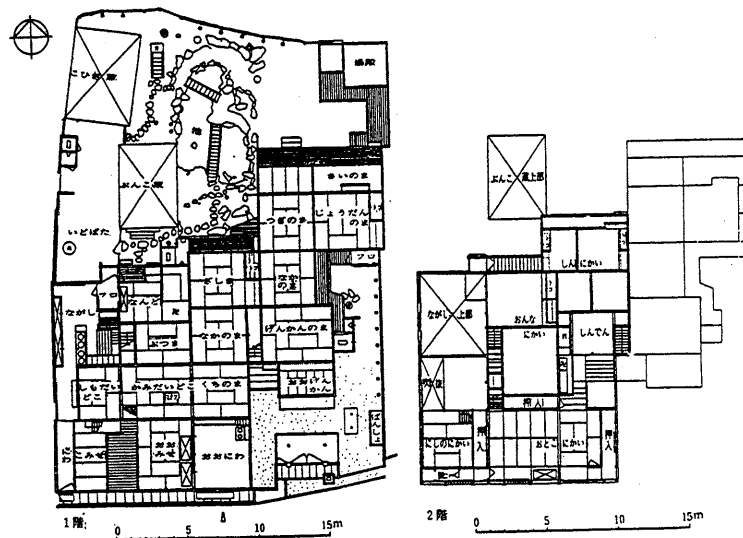
The local house of the wealthy merchant of Edo era in Hiroshima Prefecture in Japan.

from 1830 till 1844

近江の薬種本舗  
有川家  
滋賀県彦根市鳥居本



宝暦三年（一七五三）に近くの近江町箕浦の宮大工が建てたという伝えが本当なら、町家としては古い方である。また後に、右手に増築した客用書院は文化五年（一八〇八）といふ。



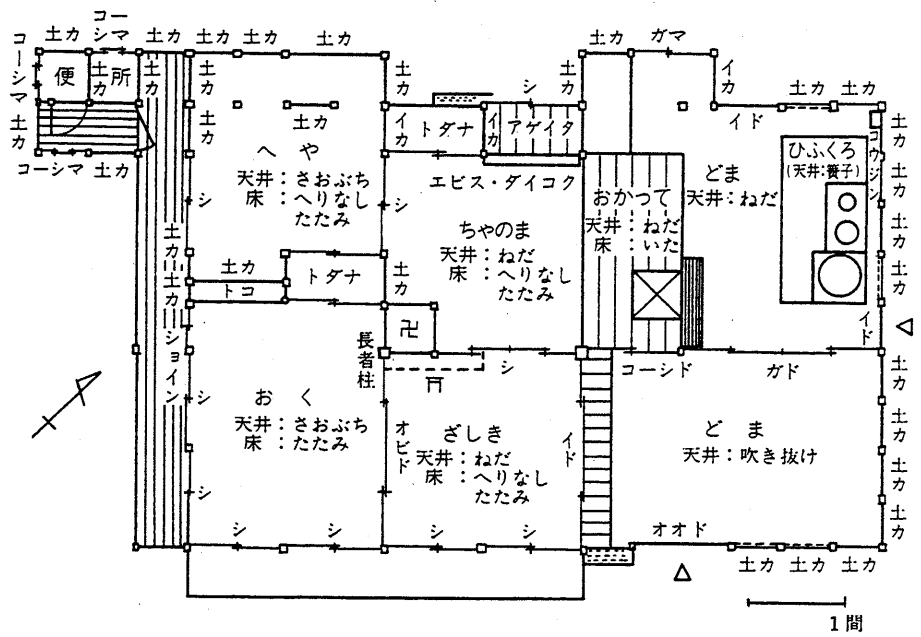
有川家平面図（彦根市教育委員会実測図）

近江の薬種本舗 有川家

Picture B-4

The house of the pharmacy of Edo era in 1753.

Shiga Prefecture in Japan



- |         |                     |          |                          |
|---------|---------------------|----------|--------------------------|
| 土カ：土壁   | ガマ：ガラス窓             | コウジン：荒神様 | ⊗：いろり                    |
| イカ：板壁   | トコ：床の間              | ショイン：書院  | 卍：仏壇                     |
| イド：板戸   | オオド：大戸              | コーシド：格子戸 | 卍：神棚（壁にとりつけ<br>てあるものは点線） |
| ガド：ガラス戸 | アゲイタ：とりはずし<br>できる床板 | コーシマ：格子窓 |                          |
| シ：障子    |                     |          |                          |

屋内平面図の例

Picture B-5  
The structure of the general farmhouse in Japan



Picture C

(unit: 1000 person)

The Increase of the population in each area

(単位 1000人)

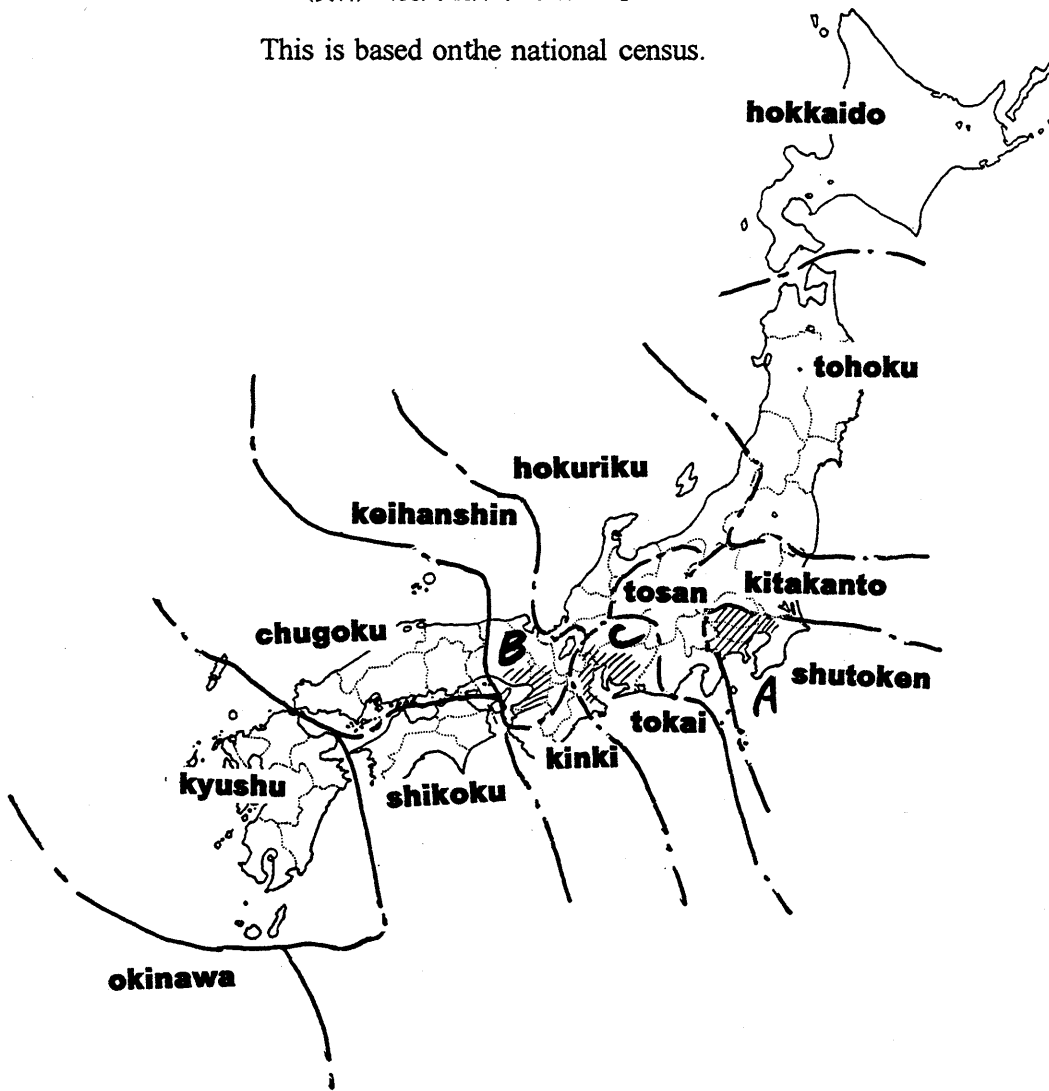
		1950年	1970年	1990年	rate of increase of the population		
					1970/1950	1990/1970	1990/1950
hokkaido	北海道	4,296	5,184	5,644	21	9	31
tohoku	東北	9,021	9,055	9,738	0	8	8
kitakanto	北関東	5,190	5,383	6,746	4	25	30
shutoken	首都圏	13,051	24,113	31,796	85	32	144
hokuriku	北陸	5,179	5,137	5,584	-1	9	8
tosan	東山	2,872	2,719	3,010	-5	11	5
tokai	東海	7,407	10,235	12,429	38	21	68
keihanshin	京阪神	9,000	14,538	16,742	62	15	86
kinki	近畿	4,068	4,406	5,464	8	24	34
chugoku	中国	6,797	6,998	7,746	3	11	14
shikoku	四国	4,221	3,904	4,195	-8	7	-1
shikoku	九州	12,096	12,071	13,296	-0	10	10
kyushu	沖縄		(1,043)*	1,222			
okinawa	計	83,200	103,720	123,612	25	19	49

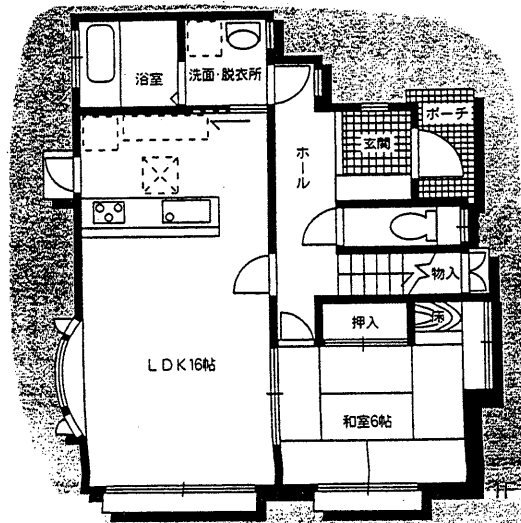
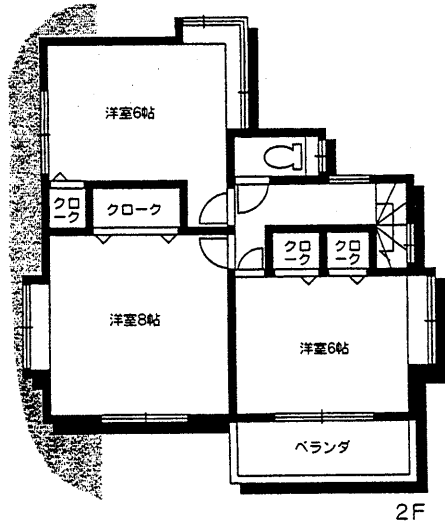
total

(注) \* 1970年には沖縄は合計に含まれていない。

(資料) 総務庁統計局「国勢調査」各年。

This is based on the national census.



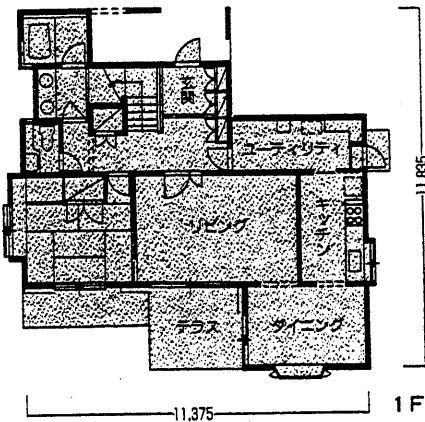
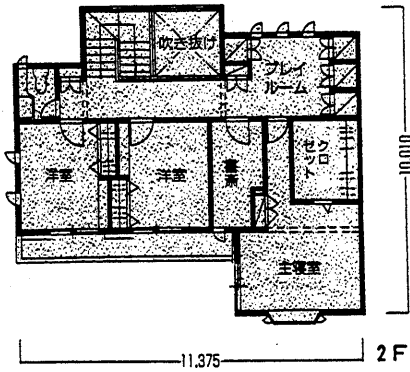


Picture D-1  
 Modern Japanese House combined the WASHITSU with the YOSHITSU.



FRAGRANT (フレグランド)

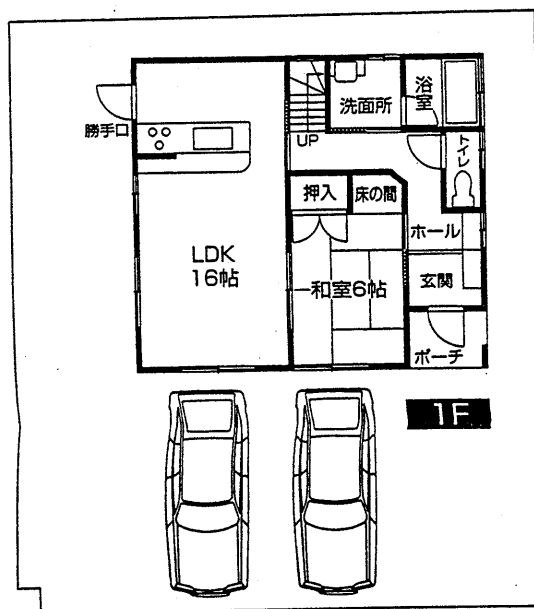
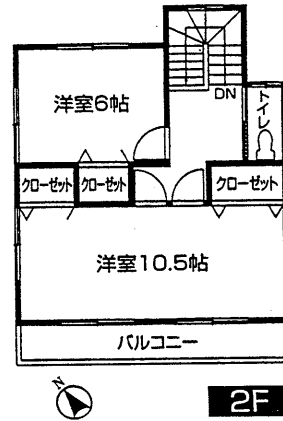
1F床面積 83.43㎡  
2F床面積 81.04㎡  
延床面積 170.50㎡



リビング、ダイニング、和室には掃き出し窓がとられ、和室の前には和庭、リビングとダイニングの前にはテラスとアウトドアとのつながりもよく、道路側には車一台分の駐車スペースが建物とトータルに計画されています。北玄関の暗さを補うために、ポーチの庇の一部をオープンにして植栽を設けるなど、細かな配慮も見逃せません。

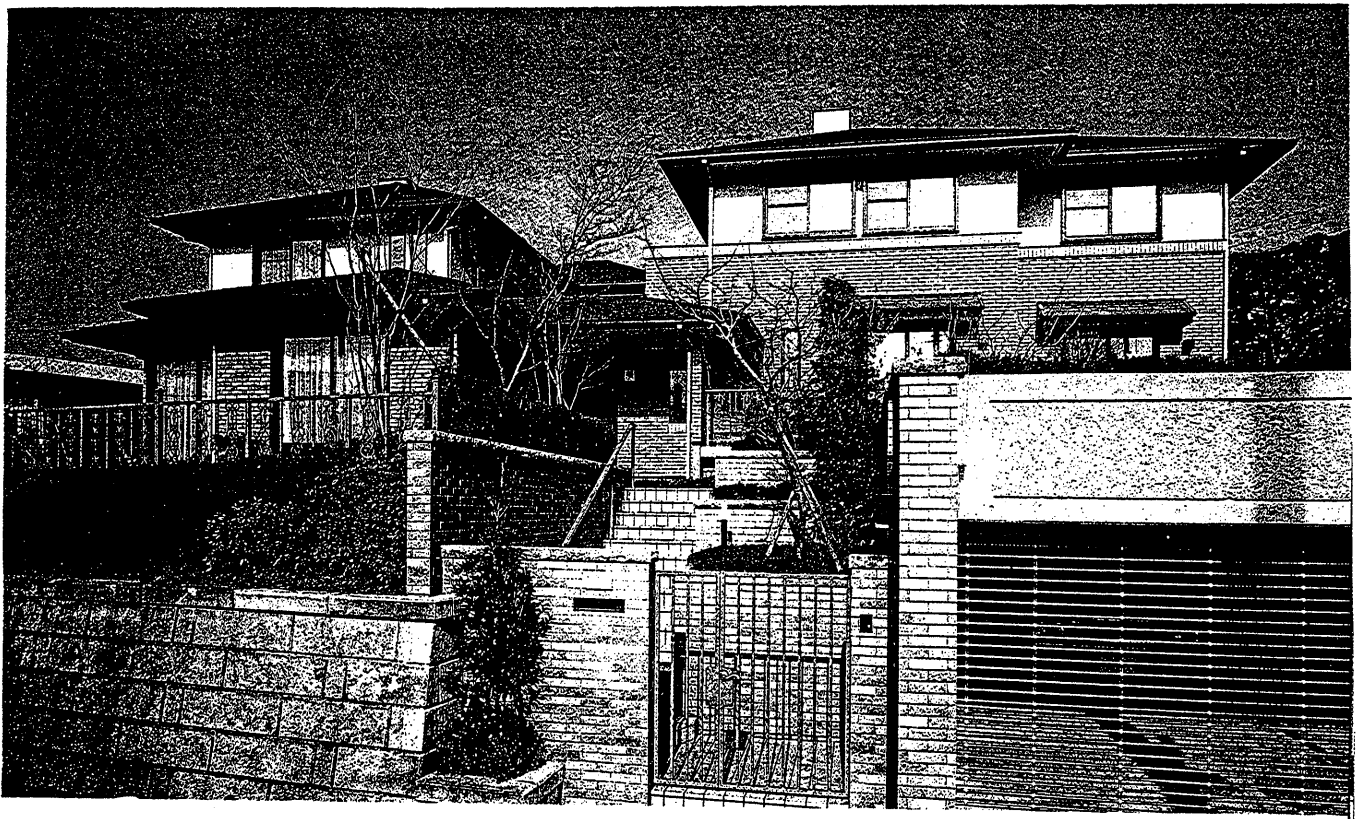
Picture D-2

Modern Japanese House with New fashion

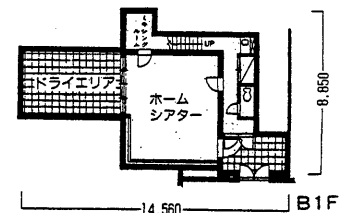
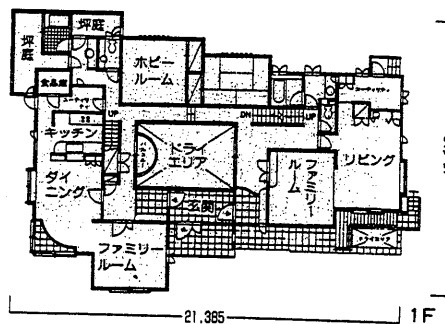
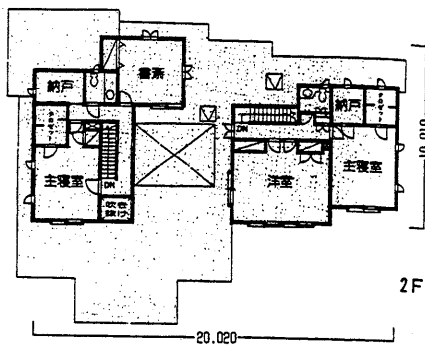


Picture D-3  
 Modern Japanese House which has all YOSHITSUs without 1 WASHITSU.

# “隣居”感覚の二世帯住宅



B1F床面積 / 51.86㎡  
 1F床面積 / 181.45㎡  
 2F床面積 / 116.49㎡  
 延床面積 / 349.80㎡



- ①二世帯の暮らしをイメージした2つの塔からなるような堂々たる外観。道路と敷地の高低差を生かし、右手にガレージを設置。奥に地下室が続く。
- ②防音完備、最新の設備を導入した地下のホームシアターは、マニア垂涎の本格派。隣家に気兼ねなく音にひたれ、ホームパーティにも格好の場。
- ③地下室のドライエリア。中庭的役割も果たし、周辺の部屋に光や風を運ぶと同時に、二世帯の生活ゾーンをさりげなく分けている。
- ④両親用の浴室。二方に坪庭を設けて掘で囲い、大きな窓を設けて開放的に仕上げている。室内の壁も外壁や塀と揃え、一体感を強めている。浴槽はヒノキ。

Picture D-4

Modern Japanese magnificent House which lives with three generations together.

#### IV. フィリピンでの方言実地調査に基づき家庭内での挨拶が存するか否か(すなわち、都市化の指標、A Sign of Urbanization の存否)に関する「あいさつ表現とあいさつ行動」儀礼の研究

##### 1 目的

フィリピンであいさつ表現儀礼の調査を行うことにした理由は二つある。その理由の一つめは、柴田武博士が寄せてくださったコメントに回答するためであった。

すなわち、柴田武博士のコメントは、2001年9月に『社会言語科学』(第4巻第1号)に掲載され、その冒頭部分は次のようになっていた。適切なご指摘なので、引用させていただく。

「本誌 3-2(2001年3月)に載った江端義夫氏の本題の報告は、大きな成果を示すものであった。しかし、同時に、説得の方法に工夫を要すると感じたところがある。そのことは、さらに別の問題へつながるので、あえてコメントすることにした。

江端氏の成果は、都市化しない集落では、家庭どうし「おはよう」のようなあいさつを交わさないのに対して、都市化されたところでは定型のあいさつことばを交わすという、著しい対立が見られるというものである。これは、コメンテーターがかねてから持っていた断片的情報を縫い合わせるもので、なるほどとうなづくことができた。断片的情報とは、①私が育った家庭(名古屋市市内、1918-1937)では朝のあいさつことばは交わさなかった、②愛知県愛知郡猪高村(現在の名古屋市市内、1925-1928のそれぞれ短期間)の祖父母の家でもそうだった。なお、ここの農村社会でも、時刻に制限されないが、場所・状況に制限のある場合、「精がでますね」類のあいさつことばはあったが、「おはよう」の類は聞かなかった、③沖縄(首里)で、朝のあいさつ場面のことばを収録しようとして、いわゆる「お芝居」を求めたが、失敗したNHKの担当者たちの話(1970)と後年(1975)別の担当者とともにこのことを現地を確認した、④朝のあいさつとして「お早う」が初めて国語史に現れるのは、『日本国語大辞典第二版』によれば「人情本・春色恵の花」(1836)であって、それ以前には無かった(文献に出ていない)らしい。

これから推定すると、日本社会には16世紀(?)以前には無かったかも知れないのである。国語史学に対して、では、いつ、どういう契機で生まれ、明治以降どのようにして普及したかを研究してもらいたいと思う。」

とある。柴田武博士の文章の中身の内、国語史への助力を仰がなくては解決が困難な部分は、今後の課題にしなくてはならない。しかし、前半部分において、都市化した地域では、朝のあいさつことばとして「お早う」が見られ、都市化以前の地域では、朝のあいさつことばとして「お早う」が無いという全国分布図について、柴田博士は、「なるほどとうなづくことができた」と記されている。

その次の段階を、筆者は、次のように考えた。都市化の指標と非都市化の指標の境目に、「プライバシーの侵害への配慮」を想定したのである。ことばが足りなかったので、ご理解いただけなかったと思う。部屋ごとに鍵をかけて私的空間を作るかどうかという観点は、日本に無かった習慣である。贅沢な経済生活を営むようになった時代の好みである。一口では説明できない複雑なライフスタイルをも要求する様式である。したがって、筆者としては、都市と非都市とを区別する指標の重要な要素として、部屋の構造を重視したのである。しかし、残念なことに、筆者は質問項目の中に、家の構造を問う項目を入れていなかった。都市化の指標(A Sign of Urbanization)として、全員の被調査者に、家の構造を尋ねる項目を入れるべきであったと反省される。それが悔やまれてならない。

柴田先生は都市化の指標として、①町・市、②近くの郵便局、③3 km以内の銀行、④10km以内の図書館、⑤50km以内の総合病院、⑥隣人とのやりもらいなどを挙げていらっしゃる。

なるほどと思われる。筆者も、柴田先生の指標について興味を抱く。それらについて検討してみたいと思う。ただし、被調査者の回答に、昭和40年代のマイホーム時代が大きく関与していることを見逃すことはできないと思われる。日本における都市化及び過疎化は、この時代が契機になるからである。すなわち、家族の構成員が鍵のかかった部屋を持つことを夢みるようになった時代の趨勢を指摘したいと思う。残念なことに、これを数字で各地点について、今の段階では、示せない。

日本で証明できることは、世界でも証明できなくてはならない。そこで、フィリピンにおいても同じ調査を実施して確認をしてみることにしたのである。7000島以上にも及ぶ島々を持つフィリピンは、日本列島の国情と似ている。10種の言語を持ち、共通語として英語とフィリピン語とを使う。フィリピンで、7地点について、あいさつ儀礼の調査を行い、「お早う」を初めとするあいさつ儀礼の実態調査を行うことにした。その報告を以下に行う。

フィリピンで方言調査を実施する計画を立てた理由の二番めは、中部ジャワ都市社会に、家族間の朝の出会いのあいさつが存在しなかったように、フィリピンでもあいさつが存在しないという事実を、筆者自身による独自の調査で確認するためであった。

マリノフスキーが力説したように、文化人類学ではあいさつ語の存否が集落や階層間の多様な機能に関わることが知られている。染谷臣道氏が、中部ジャワ島でのあいさつ語の社会的機能を考察されている。染谷氏は、ジャワでの実地調査の結果、ジャワには、家族間の朝の出会いのあいさつ語は無いと報告されている。ジャワ島はセレベス島を介して、フィリピン諸島の南部に位置する。筆者が臨地調査を企画したフィリピン諸島においても、氏の報告と同じ結果が得られる可能性を期待している。ジャワもフィリピンも共に、都市化以前の国情であると判断されるからである。都市化を朝の家族間の挨拶儀礼の指標に考えるとすれば、ジャワとフィリピンとの両方に、否定的な無の結果が出るべきはずだとい

う予測を立てているのである。家族間での挨拶儀礼が「無いこと」、「虚」であることが、証明されれば良いのである。

以上、二つの目的により、小調査を実施した。

## 2 フィリピンでのあいさつ儀礼調査日時・場所

平成 15 年 2 月 22 日 (土) 午前 10 時 15 分～ 12 時 00 分

フィリピン大学教育学部講義室において、VIRGILIO U. MANZANO 博士のご好意により、授業後に院生に集まっていただき、7 人の被調査者についての方言調査を実施することができた。小さな講義室であり、十人くらいで一杯になる。個人の音声は確実に耳に聞き取れる。録音にも雑音が入る心配はなかった。良い条件が整っていた。満足な調査が遂行できたと考えている。

## 3 調査方法

調査は、筆者がたどたどしい英語で質問文を発音し、それを MANZANO 博士が繰り返して説明するか、又は質問文を噛み砕いて説明する。被調査者は、それらの質問文を聞き取って内容を理解した上で、各自、A-4 の紙に、出身地の方言で方言事象を書き付ける。文の形式で書いてもらった。その書き付けたあいさつ表現儀礼文を、7 人全員に、地点 1 から地点 7 までの順番で発音してもらい、筆者がそれを録音した。次の質問文についても同じ要領で行い、それを繰り返す。このようにして、10 回通り、繰り返した。質問項目は、10 であった。筆者は、簡便な録音機を持って、10 回、被調査者の席の周りを回ったことになる。一回ごとに本人の名前を吹き込んでもらいつつ、項目毎に方言事象を発音してもらった。従って、今回の調査法は、フィリピンの 7 地点へ筆者が直接に出かけて行って調査したのではない。7 人が、それぞれの出身地からフィリピン大学へ勉強にきているのを利用していただいた。7 人の社会人院生(教員)に対して、一カ所で、質問調査を実施したのである。他者に影響された回答は、無いだろうと心得ている。なぜならば、7 人ともに、賢明な人物ばかりであり、自己の方言についての内省力は抜群であったからである。又、拙方の企画をよく理解して下さり、非常に協力的であったのは、幸いであった。質問文は、僅かに 10 である。その前に、個人情報を書いていただいた。すなわち、それらは、次のとおりである。

- ①名前
- ②生年月日
- ③居住歴
- ④父母の生誕地



⑤方言習得地

⑥方言名

以上のデータで必要十分であったかどうか。できれば、家族構成や財産や階級や宗教や家居の構造などまで聞いてみたかった。しかし、厚かましすぎるかと反省して、言い出せなかった。個人の属性について、どこまで聞いても良いかは、迷うところである。

被調査者はすべて、大学を卒業して教員を職業としていて、聡明である。社会人入学の大学院生であったから、フィリピンでは、エリートと考えてよいだろう。7人ともに女性である。

#### 4 質問文

質問文は、以下のとおりである。個人情報(A)とあいさつ儀礼質問文(B)とを併せて掲載する。

Questionnaire on Greeting Expressions in the Philippines

University of the Philippines College of Education

Diliman, Quezon City

##### A. Personal Information

1. Name:

2. Birthday:

3. Number of Years in Current Residence:

4. Parents Birthplace:

Father:

Mother:

5. Place Where Dialect Was Learned:

6. Dialect Spoken:

B. Common Expressions 【以下、正式な質問票、しかし、英語に直して質問している。】

##### (1) Daily Greetings

晴れた日の朝早く、家の前で、近所の 60 歳台の女の人が 70 歳台の女の人に出会って、ていねいに挨拶をするとき、どのように言いますか。それに応えて、70 歳台の女の人はどうのように言いますか。

##### (2) Greetings When a Child Leaves for the School in the Morning

朝、小学校へ行く子が玄関口で、その家の人に向かって、「行ってきます」と挨拶をするとき、どのように言いますか。それに応えて、その子のおかあさんやおばあさんは、ど

のような挨拶をしますか。

(3) Greetings When Meeting on a Day Time

夏の暑い日の朝 10 時ごろに、70 歳台のおばあさんが、同年輩のおばあさんに出会って、ていねいに挨拶をするとき、どのように言いますか。また、それに応えてどのように返事をしますか。

(4) Greetings of Marriage

29 歳の息子に近くからお嫁さんをもたらすことが決まった 60 歳台の父親に、近所の親しい 50 歳台の女の人が、お祝いの挨拶をするとき、どのように言いますか。それに対して、どのような挨拶を返しますか。

(5) Greetings on Wedding Ceremony Day

結婚式に招かれて出席した父方の遠い親戚の人は、新郎の父親に、どのような挨拶をしますか。新郎の父親は、それに対して、どのように言いますか。

(6) Greetings of Esteem for the First Grandchild

家の家継ぎの長男に、元気な男の初孫が生まれました。母子ともに安泰です。さっそく、親戚の伯母さんがお祝いを持参して、初めてお祖父さんになった 60 歳台の義理のお兄さんに、お祝いを述べるとき、どのように言いますか。それに対して、どんな挨拶を返しますか。

(7) Greetings During the Funeral of a Child Who Drowned

近くの池で遊んでいた隣の家の子の兄弟が、溺れて死にました。泣き悲しむ親御さんに、弔いを言うとき、どのような挨拶をしますか。それに応えて、どのような挨拶ことばがなされますか。

(8) Greetings When Exchanging Gifts

自分の家で作った"ぼた餅"を、隣の家におすそ分けするとき、「いつも良いものをいただいて有り難うございます。これは、お口に合わないかも知れませんが、召し上がってください。」などと、へりくだって、ていねいに言うとき、どのように言いますか。これに対して、どのように挨拶を返しますか。

(9) Greetings on the New Year's Eve

年末の 12 月 31 日の夕方には、親しい人どうしあるいは近所の人に対して、その一年のお礼と次の新しい良い年を迎えるために、どのような挨拶をしますか。また、相手はどのように応えますか。

(10) Greetings After Waking Up in the Morning

朝、起きたとき、家族どうしで、どのような挨拶をしますか。年上へと年下へとどの言い方に区別がありますか。

## 5 調査結果

被調査者7人について、各調査票に基づいた調査結果を、以下に記述する。上記の4で掲げた個人情報(1～6)に続けて、あいさつ表現儀礼(1～10)も、同時に掲載する。その後で、考察を試みる。

なお、フィリピンの地図を別紙に掲げて、被調査者の出身地を1から7の地点で表示した。煩瑣になるので、都市名までは書き込めなかった。考察の段階で、適宜に必要な解説を試みていくことにしたい。

### 地点1

#### A. Personal Information

1. Name: Alice Gatuslao
2. Birthday: January 11, 1965
3. Number of Years in Current Residence:
  - a. Birth to 4 years old - Manila, 4 years
  - b. 4 years old to 17 years old - Bacolod Negros Occidental, 13 years
  - c. 17 years old to 24 years old - Manila, 7 years
  - d. 24 years to 27 years old - Hong kong, 3 years
  - e. 27 years old to 30 years old - Bacolod, Negros Occidental, 3 years
  - f. 30 years old to 38 years old - Iloilo, 8 years
4. Parents Birthplace:

Father: Himayaylan, Negros Occidental

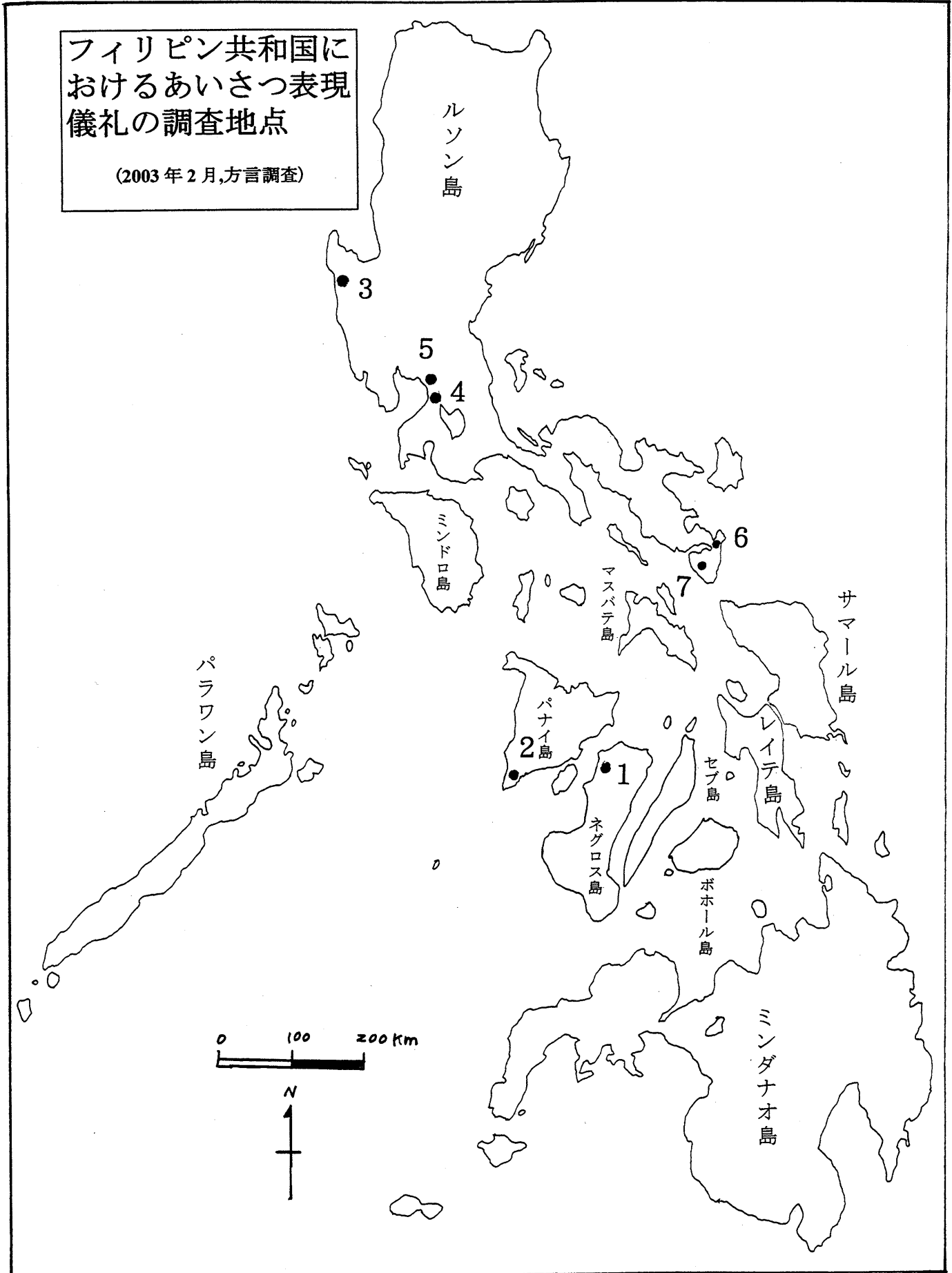
Mother: Kabankalan, Negros Occidental
5. Place Where Dialect Was Learned: Urban area
6. Dialect Spoken: Ilonggo

#### B. Common Expressions

- (1) Daily Greetings:
  - a. Maayong aga, Mare.
  - b. Maayong aga man da.
- (2) Greetings When a Child Leaves for the School in the Morning
  - a. Malakat na ko, ma.
  - b. Sige, maayo nga paglakat.
- (3) Greetings When Meeting on a Day Time
  - a. Maayong aga da, Mare. Grabe ka init no.
  - b. Amo man. Grabe gid ka init.

フィリピン共和国におけるあいさつ表現  
儀礼の調査地点

(2003年2月,方言調査)



- (4) Greetings of Marriage  
(Use English greetings)
- (5) Greetings on Wedding Ceremony Day  
(Use English greetings)
- (6) Greetings of Esteem for the First Grandchild  
(Use English greetings)
- (7) Greetings During the Funeral of a Child Who Drowned  
(Use English greetings)
- (8) Greetings When Exchanging Gifts
  - a. O, regalo ko sa imo.
  - b. Salamat gid.
- (9) Greetings on New Year's Eve
  - a. Malipayon kag mauswagon nga dag-ong tuig sa imo.
  - b. Amo man sa sa imo.
- (10) Greetings After Waking Up in the Morning
  - a. Ga mata ka ua gali?
  - b. Ho-o, bag-o lang gid.

【簡単な気づき】 以上の地点1で、Alice Gatuslaoさんは、ネグロス島の方言を使う。ネグロス島のバコロド市で生育している。父母ともにネグロス島出身である。イロンゴ語と言われるものである。ネグロス島とパナイ島などで使われている言語で、別名、ヒリガイノン語とも言われる。彼女は、38歳の若さゆえか、込み入った表現儀礼では、英語を使う。朝の家族間の儀礼的な挨拶は無い。

## 地点2

### A. Personal Information

- 1. Name: Flordeliza A. Maningding
- 2. Birthday: November 16, 1949
- 3. Number of Years in Current Residence:
  - a. Lupuz St., Iloilo City - 9 years
  - b. Blimodian, Iloilo - 6 years
  - c. Iloilo City - 8 years
  - d. Manila - up to present
- 4. Parents Birthplace:
  - Father: Alimodian, Iloilo

Mother: Alimodian, Iloilo

5. Place Where dialect Was Learned: Urban

6. Dialect Spoken: Karay-a

B. Common Expressions

(1) Daily Greetings

Mayad nga aga kanimo mare.

(2) Greetings When a Child Leaves for the School in the Morning

Nay, mapanaw man ako sa eskuwelahan kaw ha?

Sigi, andam na indi ka magsaga san sipals.

(3) Greetings When Meeting on a Day Time

Mayad nga adlawan kanino mare. Sus grabe ang init tulod no?

Huad man, daw kanami magiga sa dagat no?

(4) Greeting of Marriage

(Use English greetings)

(5) Greetings on Wedding Ceremony Day

(Use English greetings)

(6) Greetings of Esteem for the first Grandchild

(Use English greetings)

(7) Greetings During the Funeral of a Child Who Drowned

(Use English greetings)

(8) Greetings When Exchanging Gifts

Day diya regalo ko kanimo. Paad magustuhan mo.

Wow! Hanggad ka regalo mo. Salamat ha!

(9) Greetings on New Year's Eve

(Use English greetings)

(10) Greetings After Waking Up in the Morning

Day bughaw na adlawan no. Huod diyan non abe.

Ye.

Ay bugkaw ka non Huod.

【簡単な気づき】 地点2では、54歳の Maningding さんのイロongo語方言が巧みに表現されている。先の Alice Gatuslao さんの方言とかなり違っている。が、これもイロongo語の一種と見なされる。イロイロ市から 20km 南方にある Karay-a 方言を使うとのことである。朝の家族との出会いの挨拶に、定型は無いとのことである。いろいろな言い方がなされている。

### 地点 3

#### A. Personal Information

1. Name: Arlinda M. Pame
2. Birthday: May 21, 1959
3. Number of Years in Current Residence:
  - a. 1-18 years old - San Marcelino, Zambales
  - b. 18-21 years old - Manila
  - c. 21-23 years old - San Marcelino, Zambales
  - d. 23-27 years old - Kedapawan, North Cotabato
  - e. 28 Years - to present - San Marcelino, Zambales
4. Parents Birthplace:

Father: Burgos, San Marcelino, Zambales

Mother: Burgos, San Marcelino, Zambales
5. Place Where Dialect Was Learned: Rural
6. Dialect Spoken: Ilokano

#### B. Common Expressions

(1) Daily Greetings

Naimbag nga bigat, Manang.

Kasta met keniam, Ading.

(2) Greetings When a Child Leaves for the School in the Morning

Apanakon, Inang.

Dios ti kumuyog.

(3) Greetings When Meeting on a Day time

Nagpudod ti panawen, niya Kumadre.

Wen ngarud.

Naimbag nga aldaw.

Kasta met Keniam, Kumadre.

(4) Greetings of Marriage

(Use English greetngs)

(5) Greetings on Wedding Ceremony Day

(Use English greetings)

(6) Greetngs of Esteem for the First Grandchild

(Use English greetings)

(7) Greetings During the Funeral of a Child Who Drowned

Papig -saem ta nakem mo.

Talaga nga kasta ti biag.

Salamat.

(8) Greetings When Exchanging Gifts

Para keniam daytoy.

Salamat ti adu.

(9) Greetings on New Year's Eve

Naimbag nga baro nga taw-en, keniayo.

Kasta met keniam.

(10) Greetings After Waking Up in the Morning

Agriing kan!

Nakariing kan?

【簡単な気づき】 以上の地点3は、典型的なイロカノ語の方言である。マニラの北部 200km ほど離れたサンバレス州の出身である。ずいぶん特色の異なった挨拶表現が見える。しかし、家族での朝の出会いの挨拶に、定型は見られない。場面的な言い方が多彩である。

#### 地点4

##### A. Personal Information

1. Name: Mary Rose V. Bagaman- Miranda

2. Birthday: January 27, 1964

3. Number of Years in Current Residence:

0-2 yers old - Pasay City

2-5 years old - Davao City

5-10 years old - Cubao, Quezon City

10-31 years old - Marikina

31-to present - Sta. Mesa, Manila

4. Parents Birthplace:

Father: Shanghai, China

Mother: Amoy, China

5. Place Where Dialect Was Learned: Urban

6. Dialect Spoken: English and Tagalog



## B. Common Expressions

### (1) Daily Greetings

Magandang umaga po.

Magandang umaga rin.

### (2) Greetings When a Child Leaves for the School in the Morning

Paalam na Nanay.

Sige ingat ka anak.

### (3) Greetings When Meeting on a Day Time

Magandang umaga mare. Ang init ngayon no?

Oo nga, summer na talaga.

### (4) Greetings of Marriage

O tuloy kayo! Kumusta na?

O upo kayo!

Good morning po! Mabuti naman po kami.

### (5) Greetings on Wedding Ceremony Day

Congratulations!

Best wishes!

### (6) Greetings of Esteem for the First Grandchild

pare, congrats! Nakaisa rin kayo.

### (7) Greetings During the Funeral of a Child Drowned

Nakikiramay kami.

Salamat, sana ipagdasal nyo siya.

### (8) Greetings When Exchanging Gifts

Maligayang bata!

Salamat sa regalo ha!

### (9) Greetings on New Year's Eve

Manigong bagong taon.

### (10) Greetings After Waking Up in the Morning

Gising na!

Opo, babangun na po.

【簡単な気づき】 以上、地点4では、彼女は、マニラ市内のケソン市の生育である。父母は中国人であり、本人は英語とタガログ語とを話す。フィリピン語の基礎になったタガログ語が普通の生活語である。多様な方言的言い方に親しんでもいる。しかし、朝の家

庭内での特定挨拶形式は無い。他人への丁寧な朝の挨拶は、共通語である。都会的な言語生活を行っているようである。

## 地点 5

### A. Personal Information

1. Name: Maria Velissa O. Dayo
2. Birthday: May 24, 1972
3. Number of Years in Current Residence:
  - 0-4 years old - Pasig City
  - 4-20 years old - Cainta, Rizal
  - 20-23 years old - Quezon City
  - 23-30 years old - Muntinlupa/ Las Pinas City
4. Parents Birthplace:
  - Father: Sampaloc, Quezon Province
  - Mother: Sampaloc, Quezon Province
5. Place Where Dialect Was Learned: Urban
6. Dialect Spoken: Tagalog/ Filipino and English

### B. Common Expression

- (1) Daily Greetings
  - Magandang umaga.
- (2) Greetings When a Child Leaves for the School in the Morning
  - Sige po! Aalis na po ako.
  - Sige! Kaawaan ka ng Diyos.
- (3) Greetings When Meeting on a Day Time
  - Magandang umaga, Mare. Ang init ng panahon ano?
  - Oo nga.
- (4) Greetings of Marriage
  - (Use English greetings)
- (5) Greetings on Wedding Ceremony Day
  - (Use English greetings)
- (6) Greetings of Esteem for the First Grandchild
  - (Use English Greetings)
- (7) Greetings During the Funeral of a Child Who Drowned
  - Nakikiramay kami sa inyo.

Salamat.

(8) Greetings When Exchanging Gifts

Para sa inyo ito.

Salamat. Nag-abala ka pa.

(9) Greetings on New Year's Eve

Manigong bagong taon!

(10) Greetings After Waking Up in the Morning

Gising na! Tanghali na!

【簡単な気づき】 以上、地点5では、被調査者の Maria さんは、マニラ市の生粋の生育であり、父母もマニラ市のど真ん中で生まれ育っている。しかし、日常生活語は、朝の挨拶が(1)と(10)とで相違しているように、家族間での挨拶は存在しない。タガログ語による朝の挨拶は、Magandang umaga.である。この共通語が交わされているのは、フィリピンの首都らしさを示すものである。本人は、タガログ語を母語方言としつつ、フィリピン語も使い、教養語としての英語も自在に使う。優れた教養人なのである。

地点6

A. Personal Information

1. Name: Priscilla D. Domino

2. Birthday: March 16, 1980

3. Number of Years in Current Residence:

0-22 years old - Sto. Domingo, Bacon, Sorsogon

22 years old to present - Binangonan, Rizal

4. Parents Birthplace:

Father: Bacon, Sorsogong

Mother: Bacon, Sorsogon

5. Place Where Dialect Was Learned: Rural

6. Dialect Spoken: Bicolano

B. Common Expressions

(1) Daily Greetings

Male aldaw.

Aldaw man.

(2) Greetings when a Child Leaves for the School in the Morning

Maduman na ako Mama.

Cige, ingat.

- (3) Greetings When Meeting on a Day time  
Rainit daw nunyan, Mali.  
Ano pa.
- (4) Greetings of Marriage  
Daog.
- (5) Greetings on Wedding Ceremony Day  
Congratulation!
- (6) Greetings of Esteem for the first Grandchild  
Sa wakas naka lalake ka na.
- (7) Greetings During the Funeral of a Child Who Drowned  
Nakikidama kami sa indo.  
Salamat.
- (8) Greetings When Exchanging Gifts  
Pasensya kana iyu lang ini ang nakayanan ko.  
Salamat.
- (9) Greetings on New Year's Eve  
Maligmang bag - ung taon!  
Maugmang Bag - ung taon man sa imo.
- (10) Greetings After Waking Up in the Morning  
Mata na dyan.  
Iyo tabi.

【簡単な気づき】 以上、地点6は、ルソン島の最南端にあるソルソゴン州のソルソゴンの言語である。Dominoさんは、Bicolano方言を話す。当然、共通語である英語も十分に話せる。マニラからソルソゴンまでは、400kmくらい離れている。タガログ語の中一派がBicolano方言だとされているが、ずいぶんと異なった印象を受ける。(1)のMale aldaw. Aldaw man.という朝の一般的な挨拶が(10)の家族との朝の挨拶には聞かれない。その代わりに、Mata na dyan. Iyo tabi. という挨拶になる。ここでも、家族間に特定の言い方は無い。共通語と同じ朝の挨拶は、家族に対して交わされないのである。因みに、Bicolano方言では、「おはよう」に当たる言い方は、Marhay na aga.である。Dominoさんは、この一般的な朝の挨拶を回答しなかった。多様である。ピコール半島にBicolano方言が広く行き渡る。ケソン州を出はらずれて、カマリネス州に入ると、Bicolano方言になる。

## 地点7

### A. Personal Information

1. Name: Ms. Joan A. Deocareza
  2. Birthday: June 5, 1978
  3. Number of Years in Current Residence:
    - 0-20 years old - Sorsogon City
    - 20-22 years old - Rizal
    - 22 years old to present - Manila
  4. Parents Birthplace:
    - Father: Bacon, Sorsogon
    - Mother: Bacon, Sorsogon
  5. Place Where Dialect Was Learned: Rural
  6. Dialect Spoken: Bicol
- B. Common Expressions**
- (1) Daily Greetings
    - Dios mayhay na aldaw.
    - Aldaw man sa imo.
  - (2) Greetings When a Child Leaves for the School in the Morning
    - Mahali na tabi ako Mama.
    - Dalan, magiskwela ko manay ha!
  - (3) Greetings When Meeting on a Day Time
    - Grabe talaga diydi suto ano?
    - Iyo nguni, grabe karagit kun init.
  - (4) Greetings of Marriage
    - (Use English greetings)
  - (5) Greetings on Wedding Ceremony Day
    - (Use English greetings)
  - (6) Greetings of Esteem for the First Grandchild
    - (Use English greetings)
  - (7) Greetings During the Funeral of a Child Who Drowned
    - Nakikidamay kami. Unog talaga kuon ang buhay, may naiinot.
    - Salamat.
  - (8) Greetings When Exchanging Gifts
    - Pasensya ka na digdi sa regalo ko. Sana mamuyahan mo.
    - Salamat.
  - (9) Greetings on New Year's Eve
    - Maogmang bag - ong taon.

## (10) Greetings After Waking Up in the Morning

Mata ka na? Buhat na dyan!

【簡単な気づき】 以上の地点7では、先の地点6における Domino さんの Bicolano 方言と近距離にあるはずなので、似ているかと思って注目していた。しかし、詳しく観察してみると、ずいぶん異なっている。だいたい共通すると考えられる言い方は、(7)葬送挨拶と(8)贈答挨拶ぐらいであろうか。最後の(10)朝の家族間の出会いの言い方が似ている。地点6と地点7とは、被調査者が共に Sorsogon 州の生まれである。両者ともに父母が Bacon 町の出身なのに、それぞれ、微妙にあいさつ儀礼が異なる。一致するものが少ない。Sorsogon 州に二人とも、成人になるまでいて、その後に、マニラ市内へ勉強に出た。どうして、違いが生じたのか。地点7の Joan さんは、Bicol 方言を話す。他方の地点6の Domino さんは、Bicolano 方言である。広く見れば、地点6も地点7も、フィリピン語という枠の中では同じなのだが、表現形が、ずいぶん異なって見えないだろうか。

以上の調査結果に基づいて、考察を試みたいと思う。

## 6 考察

### (1) 目的の確認

目的は、IVの最初に記したように、家族内での朝の定型的なあいさつは、フィリピン各地でも見られないことを証明することである。

### (2) フィリピンの方言調査で気づいた三つの驚愕的な発見

a. フィリピンの言語には、語頭・語中・語尾が ng 通鼻音になる音がある。

「齒」のことを ngipin キ°ーピンと発音する。このようなのが少なくない。特に語頭が ng 音で始まる語を聞いた時には驚いた。しかし、筆者は既にこの音を 33 年前に、日本の方言調査で聞いたことがある。それは、1967 年 9 月 11 日のことである。

静岡県浜名郡新居町で、当時 67 歳の白井じゅう(明治 33 年 1 月 14 日生まれ)さんの方言を調査した時、語頭・語中・語尾の区別なく、カ°・キ°・ク°・ケ°・コ°であることを知って驚いた。「みみず」をメンバ、「ざりがに」をザルカ°ニ、「みずすまし」をミズマーシと言った後で、「かえる」のことを「カ°イロ」と回答したのである。耳を疑ったが、確かに ngairo であった。その後、土地出身の山口幸洋博士のご好意で、新居町上田公民館に男女 6 人にお集まりいただいて、四方山話を録音した。その時にお集まりくださった方々は、明治 20 年代から明治 30 年代のお生まれの方々ばかりであったが、悉く、

ガ行音を語頭・語中・語尾で ng で発音なさっていた。

b. フィリピン諸島の言語では、声門閉鎖音が頻りに聞かれる。たとえば地点1の Alice さんの調査のとき、朝の Daily Greetings は、既に表記したように、アルファベットでは、Maayong aga, Mare.なのだが、音声学的に筆者が記録したものによれば、[ma'ajun 'aga mmare.]と記している。一文に二度も声門閉鎖音が出てくる。会話の拍子で、文末の声門閉鎖音も聞かれることがあるが、聞き取りは困難を要する。

このことは、日本での方言調査経験と重なる。1995年4月8日に沖縄県国頭郡国頭村字奥で方言調査をしていたとき、老女が「豚」の方言を次のように説明してくれた。

[josodewa ne. 'wa:desho. 'wa:desho. 'wa:.. kocciwa tadano "wa:". "wa:". dzenzen tadano "wa:"nau jo. ano dzide kaitara ne. josodewa ne."wa:"toka ju:desho. so:zja nai no.]

と言われた。首里などの声門閉鎖音は有名である。だが、沖縄の北端の「奥」地区には、それが無い。その経験は筆者にとって貴重であった。が、ともかくも、沖縄をはじめ、南西諸島に顕著なグロツタル・ストップが、フィリピンにおいても大事なものである。

c. 三つめに驚いたことは、文の初めに述語が来るという点である。「私は日本人です」というとき、[hapones ako.]となる。akoは主語の「わたし」である。日本語なら、倒置法と言われるところだが、フィリピンでは、これが正置法なのである。主語の標識辞であるところの ang や si を用いない場合には、述部だけで文が成立することもある。こういう場合には、雰囲気や場面で読みとらざるをえない。前後の文脈の助けを借りて主語を読み解く技法などは、日本語と非常によく似ている。

### (3) フィリピンの方言についての概観

筆者は、たまたま、7地点の方言を調査した。それらにより、フィリピンでの主要な10種類の方言の内の5種類に触れることができたことになる。幸いであった。

"ATLAS of the WORLD'S LANGUAGES" ed. Christopher Moseley and R.E. Asher, 1994 by Routledge, London

によれば、フィリピンでの最も重要な10言語の使用人口は、次のとおりである。(○の印は、筆者が今回、聞くことのできた言語である。ただし、Ilongo語の中を分けて Karay-aをも別置すればイロンゴは更に一つ増える。すると合計五つの言語に触れたことになる。)

○タガログ語 (Tagalog) ----1200万人、21.8パーセント

セブアノ語 (Cebuano) ----1200万人、21.8パーセント

○イロンゴ語 (Ilongo, or Hiligaynon) ----600万人、10.9パーセント

○イロカノ語 (Ilokano) ----800万人、14.5パーセント

○ビコール語 (Bikol) ----322.5万人、5.9パーセント

ワライ語 (Waray, or Samar-Leyte) ----300万人、5.5パーセント

カパンパンガン語 (Kapampangan) ----200 万人、3.6 パーセント

パンガシナン語 (Pangasinan) ----200 万人、3.6 パーセント

マラナオ語 (Maranao) ---100 万人、1.8 パーセント

マギンダナオ語 (Magindanao) ----100 万人、1.8 パーセント

フィリピン語の基礎になったタガログ語がわずかに、国家の 21.8 パーセントでしか、母語として使用されていないという事実にも驚いてしまう。しかも、ビコール語もフィリピン語の標準語とされるけれども、多くはない。このような複雑に母語が入り乱れる状態であれば、英語が教養語として使用される社会的状況が、素直に理解できる。

7 人の被調査者は、筆者が実施した 10 の質問項目のうちで、各自の方言社会では必ずしも、習慣的な言い方が無い場合には、( Use English greetings) と回答していた。フィリピンでの言語生活の中では、英語が、いわば、接着剤の役目を果たしていることがよく分かる。また、教育現場での英語教育振興が盛んであるということ、異口同音に 7 人の方々からお聞きすることが出来た。

#### (4) 「(1) Daily Greetings」と「(10) Greetings After Waking Up in the Morning」との比較による定型挨拶の不一致から見えてくる事実について

質問項目の(1)と(10)とで同じ定型の挨拶形式が出てくれば、筆者の仮説を覆すことになる。つまり、その地点は「都市化」の段階に至ったと見て良いからである。すなわち、(1)で「お早う」などの定型的な他人儀礼のあいさつが見られ、かつ、(10)でも、家庭内で家族との朝の出会いに「お早う」式のあいさつ儀礼が見られれば、正に、都市化の標識を証明したことになる。両方に同じ言語形式が見られるか否かが決めてである。

家族と朝、最初に出会ったときに、他人に対して丁寧なあいさつ儀礼を示したように同じ言語形式を繰り返すかどうかを検証しなくてはならない。再度、全 7 地点について、(1)と(10)とを取り出して、検討してみることにしたい。

##### 地点 1

- (1) a. Maayong aga, Mare.
- b. Maayong aga man da.
- (10) a. Ga mata ka ua gali?
- b. Ho-o, bag-o lang gid.

##### 地点 2

- (1) Mayad nga aga kanimo mare.
- (10) Day bughaw na adlawan no. Huod diyan non abe.



Ye.

Ay bugkaw ka non Huod.

地点3

(1) Naimbag nga bigat, Manang.

(10) Agriing kan!

Nakariing kan?

地点4

(1) Magandang umaga po.

Magandang umaga rin.

(10) Gising na!

Opo, babangun na po.

地点5

(1) Magandang umaga.

(10) Gising na! Tanghali na!

地点6

(1) Male aldaw.

Aldaw man.

(10) Mata na dyan.

Iyo tabi.

地点7

(1) Dios mayhay na aldaw.

Aldaw man sa imo.

(10) Mata ka na? Buhat na dyan!

以上の7地点における(1)と(10)とを比較して見たところ、(1)で見られた語形を、(10)で使用している地点は、皆無であった。このことは、非常に重要な事実である。(1)は、朝の挨拶の定番が表現される。日本であれば、「お早う」という形式である。これが、(10)には、完全に出てきていない。家族に対しての挨拶は、別の言い方になるのである。

調査の場席でも、(1)の言い方は、(10)ではしない、という回答を全員から、口頭でも聞いている。その上で、7人に、具体的な言い方を強いて、応えてもらっている。二段階の手続きでの調査により、(10)が応えられているのである。そんな経緯を説明するまでも無く、(1)で見られた形式は、(10)に現れていない。完璧に異なるという状態も、筆者には興味ぶかい発見であった。

日本では、都市化の進んだ地方では、(1)と(10)とで、同じ言語形式を取るようになってきているのである。それを筆者は、何らかの「都市化の指標」(A Sign of Urbanization)と定義して、証拠を探しているところであった。

ところが、フィリピンでは、全7地点で、(1)と(10)とで、共通した言い方を持たないという結果になったということは、7地点が全部、日本でのレベルにおける「都市化」に至っていないということと解釈しなくてはならなくなる。事実だから、これは、動かしようが無い。人口が多いだけでは都市化ではない。都市の質が問題なのである。日本でも、先の拙文で考察したように、昭和40年代の高度成長期を経た後の都市地域に、「お早う」などの定型的あいさつ儀礼が広がって行っていた。その都市化の過程を考慮すれば、フィリピンでの7地点の事実から、次の結論が導き出される。

【小結論】 (1)の形式が(10)に繰り返されなかった事実により、これは、フィリピン社会が、まだ、都市化されていない段階、つまり、社会機構の高度化以前と捉えることが可能かと思われる。これが一つの解釈である。日本で得られた仮説を、フィリピン社会に当てはめた場合の解釈ではあるけれども、ひとまずは、納得の行く結論である。

#### (5) フィリピン社会はジャワ社会と同じく、朝の家族内での出会いの挨拶を行わないことについて

ここでは、前の章で得られた結果を追認することになる。ジャワ中部社会でのと同じく、フィリピンでも、家族どうしの朝の出会いの挨拶は無い。無いというのではないが、定型の挨拶が無いという意味である。つまり、「お早う」などの儀礼的な挨拶が無いのである。

家族間で、「元気か」とか、「よく眠れたか」とか、「早く食事にせよ」とか、「遅刻するぞ」とか、「仕事に取りかかれ」とかの言い方はあり得るだろう。先の例で地点1から地点7までの実例で確認できた通りである。また、取り立てて、質問項目の(1)と(10)とを対比させ異同を比較したときに指摘したように、(1)の儀礼的な挨拶が(10)で表現されてはいなかった。家庭の中と家庭の外とのルールが異なることが明白であった。家庭内での挨拶は無かったのである。ジャワ島では、いつも家庭内での挨拶は無いと、染谷氏は報告されていた。しかし、フィリピンにおいては、そこまで筆者には断言できるほどの調査を実施してはいない。フィリピンでの質問項目(10)において聞かれた表現の多くは、生活の中での気軽な声掛けと見られる。それは、一日の始まりには、行動を励まし勧める上で、なくてはならない必須の表現であろう。

ここで、確認できたのは、同じ家族としての一体的な関係から離れた言い方は無かったということである。家族どうしても、他人としての個人と個人の関係で見れば、「お早う」に類する挨拶儀礼があり得てもよい。そういう自立的な「個」と「個」との対峙として、家族内の人間を捉えてはいないということであった。冷たい関係で、個人主義を貫いてはなかった。冷たいか冷たくないかの感情的な解釈は相応しくない。親と子との間、祖父母と孫との間でも、突き放した関係が生まれていないということが確認できた。定型の「お早う」は、社会関係を見るための一つの指標だと思われる。その意味において、フィリピンの7地点では、どこにおいても、他人関係が無いという団子状態が見られたということ

になる。それが、結論である。

#### (6) 家族間の朝の出会いの挨拶が存在しない理由を示す一つの指標としての草葺き民家について

日本でも高度経済成長期以前の民家は、萱葺き民家、草葺き民家が少なくなかった。瓦屋根の家の構造でも、襖と障子の部屋で仕切られていて、家族どうしのプライバシーの保護などという思想は微塵も見られなかった。日本の家屋では、欄間を用いた通気が工夫されていて、部屋と部屋との間に風が通り、互いに光が漏れるように構成されていた。どの部屋も一つが孤立するという事は無い。密室化による空気の淀みが避けられている。隣の部屋との境には、障子一枚か引き戸一枚しか無い。隣の人の息づかいがこちら側に聞こえてくる。いびきさえも聞こえる。そのような自他の暮らしが重なる部分を気にせず、負担にも思わず、さりげない気遣いとして振る舞うのが、和室のライフ・スタイルなのであろう。そういうところが、粋なのかも知れない。人間臭いところが特色であろう。

昭和 40 年代以降の日本では、何もかもが、大きく変わった。特に家がマイホーム化して、核家族化した。部屋と部屋との境に開閉式のドアが取り付けられた。トントンとドアをノックして、所在を確かめることだってある。同じ一軒の家の中に、監獄か留置所が出来たようなものである。家族の間でも、よそよそしさが生まれる。以心伝心で用事が済んでいた家族という一体感は薄れる。気遣いが優先される。腫れ物にさわるような関係が出来る。そういう関係になると「すみません」「お早う」「よく眠れた?」「元気?」などのスキンシップ語が要るようになる。これが筆者の言う都市化指標 (A Sign of Urbanization) である。

こうなると、家族の者どうしが完璧に孤立化することになる。家族内の他人が一瞬にでも確立することになる。それが日常的な在り方にでもなっていけば、朝、「お早う」という他人行儀なことばが交わされても、全く不思議ではなくなる。そういう時代が来たのである。それが、都市化というものなのだとして理解しなくてはならない。

さて、先にも拙論でも述べたが、フィリピンでの民家の構造について、写真などを資料にしつつ、朝の家族への声掛けが必ずしも必要ではないことを、以下で報告してみたい。

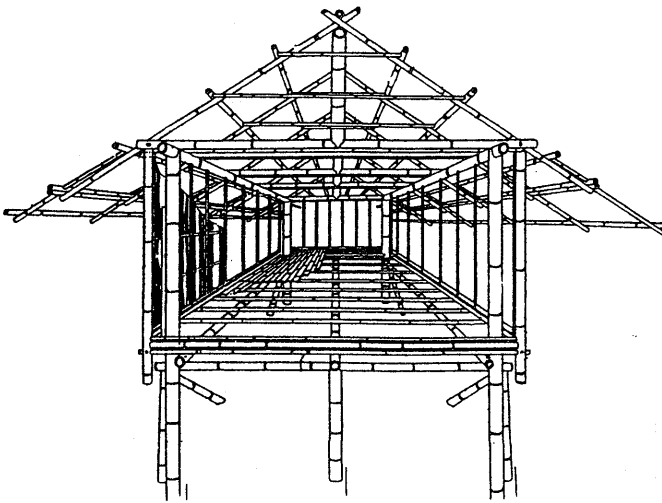
次の頁の「写真1 フィリピンの民家」をご覧ください。これは、2003年2月23日に、フィリピンのサンパブロ市にあるヴィラ・エスクデオというリゾート観光施設内の家屋である。平屋も二階建ても共に、通気性を第一に考えた草葺き家屋であり、外気を遮断することは考えられていない。鍵もない。人の動きは外から透けて見える。しかも、部屋を覗かれることを拒めないようになっている。個人と社会との境界はどのように仕切られているのだろうか、不思議に思われるくらいである。

Rodrigo D. Perez III 編: "FOLK Architecture", 1989, Gilda Cordero-Fernando publisher

## 写真1 フィリピンの民家



↑  
草葺きの屋根の家。休憩所。  
VILLA ESCUDERO  
Plantation and Resort  
San Pablo City , Philippines



↑  
地方の民家は、竹や菅、材木などを  
組み合わせて造られ、湿気を避けた  
構造なので、人の声は、屋内のどこ  
にいても直ぐ聞こえる。朝の挨拶の  
必要が無い。

敷地内の宿泊施設にも通気の顧慮が働く。→



によれば、フィリピンにおける民家の多くは、山間地でも平野でも水上でもヤシの葉や菅葺き民家であることが、次のように、本の冒頭部分で解説してある。

It is a house remarkable for its simplicity: one room resting on stilts and covered by a steep roof, a house of wood, bamboo, and thatch. It is as well a house remarkable for its variety. The room could be square or rectangular; small, just enough for man and wife, or large accommodating five or more families and spacious enough for festive gatherings. The stilts could be four or 50, slender or massive, tall or short. The roof could be pyramidal, hipped or gabled, plain or decorated.

However it looks, fragile or sturdy, proud or unassuming, the one-room, steep-roofed house- on -stilts is a splendid shelter against the tropical sun and a hardy survivor of high winds, torrential rains, and earthquakes. It works well on mountains as well as on sea and plain, on the slopes of the Cordillera, on the coast and waters of Sulu, on the plains, and hills of Panay and of most of the archipelago. It is a house as sturdy and adaptable as the people who built it and live in it, people representing various cultures and various atages of history.

フィリピン諸島の各地で、みな、このように、写真で見るような家ばかりが見られるのではない。また、解説にあるような、貧弱な素材の家ばかりでもない。たとえば、首都のマニラ市街には、確かにコンクリートで出来た近代的な建物も見られる。特に、貧富の差が著しいフィリピンでは、富める階層の者は、頑丈な家に居住しているだろう。彼らは、台風や酷暑に堪えて快適に居住しているように見える。しかし、多くの平均的な民家でも、彼らの草葺き家屋は、湿気に対して快適な対応が来ている。ピラミッド型の屋根は台風に堪えられるし、モンスーン気候に適している。通気性に配慮した草葺きの家であるために、年中高温多雨でも、平気である。しかも、床が高いので、野獣や害虫、水害から身を守るのに良い。

暑さを凌ぐために電気で冷房するというような個室化が、あまり考えられていない。したがって、フィリピンの、自然な気候に身をまかせて、従順に生活するというのが、素直な姿と見た。一年中、いつも平均 25 度ぐらいの暑さだとすれば、それを受け入れるのが自然であろう。風を取り込み、自然な通気性を楽しんだ方が良い。都市化だ、近代化だと言えば、個室化が求められる。また、各部屋を電気で冷房して、平均 18 度か 20 度ぐらいにしなければならない。カッターシャツ一枚で仕事の出来る温度というのが、規準になるのだろうか。それが都市である。都市の論理が、フィリピン諸島の 7 地点に、今後、どのように受け入れられ、認識されていくのか、分からない。ただ、現在、筆者が把握した限りでは、外国人が宿泊するホテル以外は、土地の気候への対応が神経質ではないということが言えそうである。ただ一年中、居住していたわけではないので、確かなことは、分からない。フィリピンでも、電気で冷房をするほどに、民家でも暑さに気を遣う生活に変わ

ったということがあるのだろうか。そうなったとすれば、都市化の徴表の一つとされるであろう。

アジアという地域での風土的特徴は、解釈規準にならない。なぜならば、ポーランドのクラクフなどでも、庶民生活では、朝の家族間のあいさつが無かったと言われている。風土だけが理由にはならない。寒いポーランドでも、家族の朝の出会いの挨拶は無いのである。彼らも昔は草葺きの家であった。したがって、気候による居住環境の差は、挨拶の存否に関わる決定的な根拠にはならないことになる。それよりも、生活様式の変化や経済文化の著しい変化というものが、挨拶交換儀礼の存否に関わると見なす方がよいと思われるのである。

ただし、数字で検証する段階にまで行けなかった。蓋然性を示したに過ぎない。朝のあいさつ語だけを取り上げたのだけれど、あいさつ儀礼は、追いかければ追いかけるほど、幻のように舌を出して、すうっと逃げて行ってしまう。魔物である。

以上で、フィリピンの居住環境を指標にした挨拶生活の有無についての考察は終わりである。

## 7 結論

フィリピンでの実地調査報告について、以下のように取りまとめを行う。

(1) フィリピン諸島の7地点について、あいさつ表現儀礼の質問調査を実施した。調査票では、家族への朝の出会いのあいさつ語の有無についてと他人への朝の出会いのあいさつ語とに分けて質問した。フィリピンにおいても、全く両者は言い方が違っていた。しかも、日本で言うところの「お早う」式のあいさつ語は、家族に言うことは無かった。

(2) フィリピンの7地点については、四つから五つの言語又は方言に分けられる。それらの7地点の全てで、他人へのあいさつ語と家族へのあいさつ語とは異なっていた。「お早う」式の言い方は、家族に対して、言い交わされない。7地点は、フィリピンでの平均的な家庭の言語生活のはずである。ただ、ややエリートかも知れない。さて、ジャワ島での言語生活とフィリピンのとは、同じだと言ってよいだろう。平均的階層の人々は、家族どうしで定型的な「お早う」式のおいさつ語は使用しないということである。

(3) 平均的な階層の人々は、通気性に優れた木製、草葺き家屋にも住み、密閉された個室の部屋に閉じこもる生活ではない。都市化という指標を家の構造で考えるならば、平均的な階層の人々の居住環境は、開かれたものだと言ってよいだろう。

以上の3点を結論として、本稿を閉じる。

平成 11 年度～平成 14 年度科学研究費補助金(基盤研究(c)(2))  
『あいさつ表現儀礼の全国地図』の完成及び国際交流

A Completion of Courtesy Atlas in Japanese Greetings  
and International exchange

研究成果報告書

研究課題 11610435  
発行日 平成 15 年 3 月 28 日  
研究代表者 江 端 義 夫 (広島大学大学院教育学研究科)  
〒 739-8524 広島県東広島市鏡山 1-1-1  
Tel/Fax 0824-24-6789  
印刷 株式会社 ニシキプリント